

**令和5年度
徳島県牟岐町における持続可能な観光地への現状・課題調査及び
観光ガイド育成事業**

最終報告書

令和6年3月

国土交通省 四国運輸局

目次

1. 事業概要

| | |
|-----------|---|
| 1-1. 事業目的 | 4 |
| 1-2. 対象地域 | 4 |
| 1-3. 実施体制 | 5 |
| 1-4. 作業工程 | 6 |

2. 事業内容

| | |
|---------------------------|----|
| 2-1. 持続可能な観光地への現状・課題調査 | |
| 2-1-1. 現地調査 | 10 |
| 2-1-2. デスティネーションプロフィール | 17 |
| 2-1-3. アセスメントレポート | 20 |
| 2-1-4. 関係者間におけるワークショップの実施 | 26 |
| 2-1-5. アクションプラン | 42 |
| 2-2. 観光ガイド育成 | |
| 2-2-1. 現地ヒアリング | 48 |
| 2-2-2. ガイドマニュアルの作成 | 53 |
| 2-2-3. 人材育成プログラム（ガイド研修） | 60 |
| 2-2-4. 人材育成プログラム案（次年度以降） | 75 |
| 2-3. 会議・報告会の実施 | |
| 2-3-1. 開始時会議 | 77 |
| 2-3-2. 中間報告会 | 82 |
| 2-3-3. 最終報告会 | 86 |

3. まとめ

| | |
|-----------------|----|
| 3-1. 定量目標に対する成果 | 96 |
| 3-2. 定性成果と今後の展望 | 97 |
| 3-3. 総括 | 99 |

別添

- ① デスティネーションプロフィール
- ② アセスメントレポート
- ③ アクションプラン



1.事業概要

1. 事業概要

1-1. 事業目的

徳島県の南東部に位置する牟岐町は、北は矢筈山や五剣山等の山々、南は阿南海岸に面しており、山と海に囲まれた自然豊かなコンパクトな町である。また、牟岐町の南海上には、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された出羽島、内陸では見られない亜熱帯植物が繁茂している津島、磯釣りのメッカとして有名な大島等、様々な観光資源を有しており、今後のさらなる注目が期待される地域である。

しかしながら、当該地域においては、これらの観光資源を十分に活用したインバウンド層への訴求力が高い体験型コンテンツ・ツアーの造成が不足しており、旅行消費の拡大につなげていないため、持続可能な観光地に向けた地域の現状、あり方、課題を把握する必要がある。

そこで本事業により、徳島県牟岐町において、持続可能な観光地に向けた地域の現状、あり方、課題等に関する調査をJSTS-Dを活用して実施するとともに、インバウンドの受入に繋がるコンテンツ造成等を促し、地域で実践する事業者等の意識醸成を図る。

また、ガイドの高齢化が進み、次世代へガイド技術の伝承ができていないことから、観光客が訪れたとしても、町内を案内できるガイドが不足しているといった課題が存在する。さらに、アフターコロナにおいて国内外からの観光客が増加し、有償ガイドへの需要が高まるものと予想される。

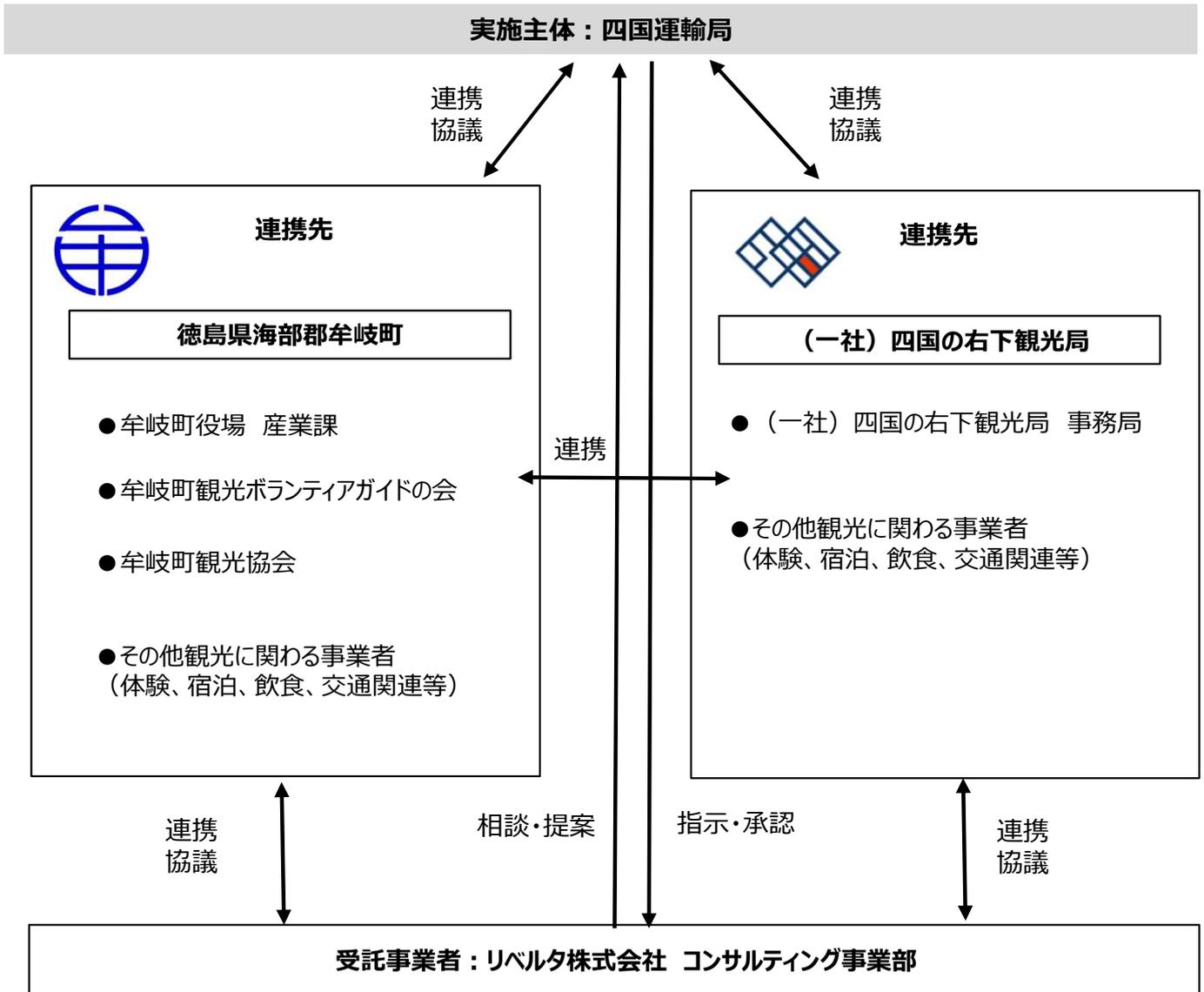
そこで本事業は、訪日外国人旅行者の受入環境整備の一環として、牟岐町においてガイドマニュアルの作成及び観光ガイドの人材育成を行い、自律的・継続的にガイドが実施できる体制の構築を目的とする。

1-2. 対象地域

徳島県海部郡牟岐町

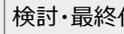
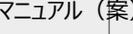
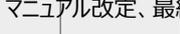
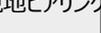
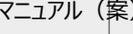
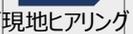
1-3. 実施体制

事業対象地域において関連する徳島県海部郡牟岐町及び（一社）四国の右下観光局と事業内容について検討し、各業務工程の詳細について適宜調整しながら業務を実施した。



1-4. 作業工程

本事業は以下のスケジュールで実施した。

| 令和5年度 | | | | | | | | |
|-----------------------------------|--|---|--|--|---|---|---|---|
| 1. 持続可能な観光地への現状・課題調査 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| (1) 関連情報の収集・分析 |  ・既存資料の収集・整理 ・ヒアリング |  |  | 観光地・観光資源 情報収集・分析 選定 |  | | | |
| (2) 関係者によるワークショップ（WS）の実施及びレポートの作成 | |  WS① JSTS-Dについて | |  WS② 現状・課題の共有 | | |  WS③ アクションプランの作成・発表 | |
| (3) 今後実施すべき対応策の取り纏め | | | | | |  |  |  |
| | | | | | | |  |  |
| 2. 観光ガイド育成 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| (1) ガイドマニュアルの作成 | |  |  |  |  |  |  |  |
| | |  |  |  |  |  | | |
| (2) 人材育成プログラムの作成 | | | |  | | |  | |
| | | | | |  | |  | |
| 3. 事業全体の運営管理 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
| 開始時会議、報告会等 |  | | | | | | | |
| | |  | |  | | |  |  |
| | | キックオフ（四国運輸局・自治体・DMO・弊社） | | 開始時会議 | 中間報告会 | | 最終報告会 | 3/22契約完了 |



2.事業内容

2. 事業内容

2-1. 持続可能な観光地への現状・課題調査

2-1-1. 現地調査

(1)調査目的

destinations プロフィール並びにアクションプランの作成に先立ち、JSTS-Dに照らし合わせた観光開発の現状把握や課題抽出及びガイドマニュアル作成に係る情報収集を目的とした現地調査を実施した。

(2)調査概要

下記の日程で現地調査を実施した。

【第一回現地調査】

- 日時 : 令和5年9月18日(月)～20日(水)の2泊3日
- 実施方法 : 現地訪問による視察及び関係者ヒアリング

①調査の参加・同行者

現地調査の同行者は下記の通りであった。

| 所属団体 | 部課 | 役職 | 氏名 | 備考 |
|----------------|---------|-------------|--------|----|
| 1.連携先 | | | | |
| 牟岐町役場 | 産業課 | 課長補佐 | 一山 昌之 | |
| 2.受託事業者 | | | | |
| リベルタ(株) | トラベル事業部 | 執行役員 | 林 美希子 | |
| | | トラベルコンサルタント | 村井 友利乃 | |
| | | トラベルコンサルタント | 横内 直子 | |

②現地調査の行程

2. 事業内容

以下の行程で現地調査を実施した。

| 日／曜日 | | 時間 | | 内容 |
|-------|---|-------|-------|------------------------------|
| | | IN | OUT | |
| 9月18日 | 月 | 10:00 | 13:30 | JR徳島駅→牟岐町 |
| | | 13:30 | 15:00 | Blue Horizon木村氏ヒアリング |
| | | 15:00 | 18:00 | 周辺視察 |
| | | 18:00 | -- | 内妻荘宿泊 |
| 9月19日 | 火 | 8:00 | 9:00 | 内妻荘 福谷氏ヒアリング |
| | | 11:30 | 12:00 | 会場入り（会場設営・接続確認） |
| | | 12:30 | 13:00 | 受付 |
| | | 13:00 | 14:00 | 開始時会議 |
| | | 14:15 | 17:00 | ワークショップ① |
| | | 17:00 | 17:30 | 関係者打合せ |
| | | 19:00 | -- | 民宿しらきや宿泊 |
| 9月20日 | 水 | 9:00 | 11:00 | 牟岐町観光ボランティアガイドの会会長 庄司氏ヒアリング |
| | | 11:10 | 11:25 | 連絡船で出羽島へ移動 |
| | | 11:25 | 12:20 | 出羽島視察 |
| | | 12:20 | 12:35 | 連絡船で牟岐町へ |
| | | 13:30 | 15:00 | お遍路道視察（牟岐町観光ボランティアガイドの会 庄司氏） |
| | | 15:00 | 17:00 | 牟岐町→JR徳島駅 |
| | | 17:00 | -- | 各自帰路へ |

③ヒアリング・視察内容

2. 事業内容

| | 牟岐町 | Blue Horizon 代表 | 木村 悠 氏 |
|------------------------|---|-----------------|--------|
| 9/18 (月) 現地ヒアリング | <p>町の観光関連動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町としては、国内含め観光が盛んなわけではなく、目立った取り組みはしていない。町の人も、観光客や外から来た人に対してはあまり積極的ではない状況。 ・牟岐町役場の担当が一山氏に代わり、R2年度から観光協会を町から切り離し、協会として人員を雇用する体制になった。 ・観光関係の事業経験はあまりなく、イベントをして終わりという状況。 ・2013年から牟岐・出羽島アート展を実施しており、観光対応の必要が出てきた。この頃からガイドの会によるガイドツアーやお遍路のツアーが出てきた。 ・冬場が閑散期であり、ビジネス客がメインになる。 ・自治会長や移住者の人が民宿などをやっちはいるが、観光事業者がいないため、仕組みづくりができていない。 ・四国の右下観光局が旅行業第2種を取得しているが、他の市町も含まれているため動きづらい。民間で第3種を持つところが出てくるとやりやすくなるのではないか。 ・JTBと一緒にポタリングの開発に取り組み始めている。 ・教育旅行は、大人数が宿泊できる施設がないため、海での体験程度。 ・ガイドの会は年金生活をしている高齢者が中心となっている。 <p>アクティビティ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・磯釣りやサーフィンなどのマリナクティビティが人気で、特にサーフンは50~60年前からで歴史が古い。それらの趣味で訪問してくる人たちは、素泊まりで、お土産や食べ物などの消費にはつながっていない。フレックスに対応してもらえる一棟貸しの宿の需要があるが、現在は選択肢が少ない状況。 ・大島周辺を中心に、シュノーケル・スキダイビング・SUPのレースの練習などのアクティビティには定評がある。コミュニティ内の口コミでつながりのある関係者が訪問してくれると、ガイドとしても同じ形でできるので理想的。 ・海のごみはさほど問題がない。サーフィンに来た人が1つはごみを拾っていくというのが定着してきている。人を呼ぶのであれば、地元の人もきれいに使うというのが必要。 ・自然を使うアクティビティは、無謀な人が来て事故を起こすなどリスクもあるため、安易な発信は危険だと感じている。大島はサーファーなど若い人も多いのでルール作りが重要。 <p>お遍路</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前は、外国人のお遍路が多かった。宿泊は、テントでキャンプし、スマホはあまり使わず本のタイプのマップを使うという人もいた。充電さえできればいいという人もいる。 ・遍路宿「南天」では外国語対応可能。 <p>出羽島</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出羽島ツアーの参加者層は、国内の高齢者が多く、重要伝統的建造物群保存地区に関心のある人や、県内の歴史・文化に触れたい人が多い。学生で勉強に来る人も少しいる。コロナ前の訪問者は、ガイドを通しての人数で年200人弱。日帰り観光がメイン。 ・英国人ニック氏（兵庫在住）が、10年ほど前に出羽島の古民家を買取り、これから民宿・カフェを始めようとしている。住民の活動などにも参加しており、ガイドとの連携もしている。 ・出羽島は住民が高齢で、人々の暮らしがある場所なので、事前に漁村集落の説明をするなど知識やルールを入れてから訪問できるとよい。連絡船の定員は70人、公共のトイレは1つという状況。「島民の心得」というものもパンフレットに載せている。 ・「おいでってば」というWEBサイトを制作したが、最近はあまり発信をしていない。 ・言葉を勉強していけば打ち解けるきっかけになる。 | | |

| | 牟岐町 | 内妻荘 代表 牟岐町観光協会 理事 | 福谷 隆文 氏 |
|------------------------|--|----------------------|---------|
| 9/19 (火) 現地ヒアリング | <p>宿について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お遍路のお客さんが多い。 ・猟友会の会長もしており、猟に行ったときは宿でジビエ料理を提供することもある。ジビエカレーが人気。 <p>町の観光関連動向</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界一の大きさを誇る千年サンゴや大島など観光資源はあるが、漁業組合との関係もあり、生かしきれていない。 ・千年サンゴは海底30mの深さにあり、ダイビングをしないと全貌を眺めることはできない。 ・昔は町内にダイビングショップがあったが、今はない。 <p>漁業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔と比べると漁獲量は10分の1に、価格は半分にまで下がった。 ・漁師を志す人も減ってきている。 <p>働き世代の人口の推移</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度高校3年生が24人卒業したが、全員町外へ出てしまった。進学のために町外を出ると、戻ってこないことが多い。 ・自身の同級生もほとんどが町外へ出ている。町内で働ける場所がないのも理由の一つ。 | | |

| | 牟岐町 | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 会長 | 庄野 二六 氏 |
|------------------------|--|---------------------|---------|
| 9/20 (水) 現地ヒアリング | <p>牟岐町観光ボランティアガイドの会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・景観だけでなく、人も資源と考えている。 ・23名が在籍（うち英語・中国語を話せるガイドが1名、出羽島ガイドは10名） ・以前牟岐町の中学生が作成した観光マップの作成にはガイド会は関わっていない。 <p>出羽島</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド所要時間は港のみであれば2時間、灯台も含むと3時間くらい。 ・お客さんの質問で多いのは、出羽島の家の数、人口について。 ・手押し車（ネコ）は出羽島の元大工の住人が作っている。 ・夏は日陰で涼んでいる住民がいる。ガイドで訪れた際に声をかけて話をすることもある。 ・アート展の際に、展示の家と民家の違いが分かりにくく、勝手に民家に入ってきたり、写真を撮る観光客が問題になった。 ・島の方の収入源は年金と漁業。 ・「とくしま漁業アカデミー」を卒業した人が3名移住している。そのうち1名は島で「うたタネ」という民宿もやっている。 ・出羽島の小学校は平成18年に閉校。 ・昔は石垣が番屋の周りを囲んでいたが、再開発時に石材が足りなくなり、その石垣を使ったので今はコンクリート塀になっている。 ・診療所には週に3回県立病院から医師が往診に来る。 ・漁業の発展に伴い、家の造りにも変化がみられた。 ・現在出羽島出身、出羽島育ちの方がゲストハウスを始めようとしている。 ・おためし移住のような制度はない。 ・宿泊施設は素泊まりが基本なので、食べ物を持って島へ来なくてははいけない。 <p>大島</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所有者は青木氏。もともとは出羽島も持っていた。 ・青木氏へのヒアリングも可能。 ・磯釣りやSUP、バーベキューなどをやっている。 ・フウランという蘭がたくさんあり、花が咲く時期になると良い香りが沖合まで漂っていた。 ・岡山理科大学に大島の生態系について研究している先生がいる。 | | |

【第二回現地調査】

- 日時 : 令和5年12月21日 (木)
- 実施方法 : 現地訪問による視察及び関係者ヒアリング

①調査の参加・同行者

現地調査の同行者は下記の通りであった。

| 所属団体 | 部課 | 役職 | 氏名 | 備考 |
|----------------|---------|-------------|-------|----|
| 1.連携先 | | | | |
| 牟岐町役場 | 産業課 | 課長補佐 | 一山 昌之 | |
| 2.受託事業者 | | | | |
| リベルタ (株) | トラベル事業部 | トラベルコンサルタント | 横内 直子 | |

②現地調査の行程

以下の行程で現地調査を実施した。

| 日/曜日 | | 時間 | | 内容 |
|--------|---|-------|-------|----------------|
| | | IN | OUT | |
| 12月21日 | 木 | 10:00 | 12:30 | JR徳島駅→牟岐町 |
| | | 13:00 | 14:00 | 大島所有者 青木氏ヒアリング |
| | | 14:00 | 14:30 | 周辺視察 |
| | | 14:30 | 16:30 | 牟岐町→JR徳島駅 |
| | | 17:00 | - | 帰路へ |

③ヒアリング・視察内容

| | 牟岐町 | 大島 所有者 | 青木 泰雄 氏 |
|-------------------------|-----|---|---------|
| 12/21 (木) 現地ヒアリング | | <p>大島の歴史について</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸時代から青木家が代々所有している。 大正時代までは、出羽島から移ってきた人が100名ほど生活していた。 その後、牟岐町にある古牟岐という地区に渡っていった。 青木氏が幼少の頃、大島へ田植えをしに行く人がいた。 大島は水が豊かなので、稲作に適していたが、交通の便が悪く、現在と同じく船を出さなくては行けないという問題があったため、徐々に農業をする人がいなくなっていった。 昔の人が住んでいた屋敷跡が現在も残っている。 <p>大島について</p> <ul style="list-style-type: none"> 気候や土地の条件により、大島でしか見ることのできない植物も発見されている。 大島には小さな港があり、船を停泊することができる。 以前はアオサギのコロニーがあったが、現在は他の場所に移動してしまったよう。 大島のすぐ近くにある樺投島（かいなげじま）では、カンムリウミスズメが毎年巣を作る。 以前遊歩道やトイレを整備するという話があったが、頓挫してしまった。 カイクナイチャーネットワークの浅香氏・満石氏を中心に、年に数回千年サンゴの保護のためオニヒトデの駆除を行っている。 <p>大島の観光について</p> <ul style="list-style-type: none"> 磯釣り、キャンプ、SUPなどを行っている。 特に、無人島の中でも水が豊かな島であるということはキャンプをするのに良い条件。 周辺の事業者が主体で行っており、大島へ訪客がある際は事業者から青木氏へ連絡がある。 15～20年ほど、地元のダイビングショップによるダイビング事業が行われていた。 大島にはトイレがないので、地元の事業者の船（山下渡船店 海漁丸）はトイレ付のものを用意している。 海外からの観光客はこれまでにないと思う。 渡船屋の高齢化の問題がある。現在10軒ほどあるが、後継ぎがいるのは2、3軒のみ。 <p>ルール・マナーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 大島に渡る事業者には、以下のルールを利用者に周知するようお願いしている。 ①植物を切らないこと。 ②ごみは持ち帰ること ③トイレはないので、携帯用トイレを持参するか、船のトイレを使用してほしい。 <p>現段階では、ルールを守ってくれていると思う。ごみに関しても漂着物と思われるペットボトルを発見する程度。 しかし、これとは別に、事業者を通さず、勝手に船でやって来て滞在する人がいることが確認されている。</p> <p>観光への想い</p> <ul style="list-style-type: none"> 若い人が想いをもって何かをすることに対しては、協力したいと思っている。 | |

④ 調査の様子



モラスコむぎ



Blue Horizon 木村氏へのヒアリング



出羽島への連絡船



牟岐港



出羽島で作られた手押し車「ネコ」



出羽島にある漁師の家



牟岐ガイドの会 庄野氏へのヒアリング



遍路みち踏査

2-1-2. デステイネーションプロフィール

各町の観光地としての地域の属性や全体像を明確化するため、各事業対象自治体の基本情報データや地理的情報、主な交通アクセス、観光統計などをとりまとめ、観光分野の基礎情報として共有するため、デステイネーションプロフィールを作成した。

| 作成概要 | |
|----------|--|
| 項目 | JSTS-D（付録2）デステイネーションプロフィール表の項目を使用 |
| 使用ツール | 入力シート（エクセル形式）：自治体担当者が主体的かつ効率的に作成できるよう、入力箇所を色分けしたシートを配布し、入力方法を事前に説明（次頁参照） |
| 自治体担当者 | 牟岐町 産業課 課長補佐 一山 昌之 |
| 引用・参考データ | <ul style="list-style-type: none"> 自治体：保管データ（総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略、観光振興計画等）、ホームページ公表データ等 国・県等関係機関の公表データ（国勢調査、環境省自治体排出量カルテ 等） 民間機関の公表データ（必要な場合のみの使用とする） 自治体担当課・関係者（観光協会等）ヒアリング |

【作成手順】

①入力フォームの準備（リベルタ）



JSTS-D付録2の記入例を参考とし、入力フォームを作成し、自治体担当者へ事前送付

②データ入力（自治体担当者）



各自治体で把握しているデータ及び関係課へのヒアリング等により、わかる限りのデータをフォームに入力する

③内容・根拠確認（自治体担当者・リベルタ）



データの内容・出典等の根拠資料の確認

④全体像の把握・共有（リベルタ）

デステイネーションプロフィールから各町の全体像を把握し、関係者へ共有する

DESTINATIONプロフィールの入力用シート

2. 事業内容

黄色部分について自治体担当者（牟岐町産業課）で入力してもらい、分析の根拠とする。

| | | | | | | | | | | | | | |
|---|------------------------|------------------------------------|--------------------------------------|---|--|------------------------|----------------------|------------------------|-------------------------|--|----------------------|------------------------|------------------------|
| 自治体コード： <input type="text"/> *6桁の番号 | | DESTINATIONプロフィール | | | | | | | | | | 最終更新日：2023/9/ | |
| 組織概要 | | | | | | | | | | | | | |
| DESTINATION名 | | | | | | | | DESTINATIONタイプ | | 都市 歴史文化 自然 温泉 リゾート | | | |
| 代表住所 | | | | | | | | 代表電話番号 | | | | | |
| 地理的情報 | | | | | | | | | | | | | |
| 所属する地方自治体の名称 | | | | DMOの名称・設置年 | | | | 設置年 | | 年 | | | |
| 人口 | <input type="text"/> 人 | 面積 | <input type="text"/> km ² | 人口密度 | <input type="text"/> #/km ² | 旧町別人口 | ●●町：人、●●村：人、 | | | | | | |
| 土地利用状況 | 農用地 | <input type="text"/> % | 森林 | <input type="text"/> % | 原野 | <input type="text"/> % | 水面・河川・水路 | <input type="text"/> % | | | | | |
| | 道路 | <input type="text"/> % | 宅地 | <input type="text"/> % | その他 | <input type="text"/> % | | | | | | | |
| 特徴的な自然環境 | | | | 海・山（高山・低山）・川・平原・その他（ <input type="text"/> ） | | | | 海拔高度 | | 【平均】●●町：m、●●町：m、 【最大】m | | | |
| 気象 | 年間降水量(*1) | <input type="text"/> mm | | | | | 降水日数(*2) | <input type="text"/> 日 | | | | | |
| | 最暖月平均気温(*1) | <input type="text"/> °C | <input type="text"/> 月 | | | | | 最寒月平均気温(*1) | <input type="text"/> °C | <input type="text"/> 月 | | | |
| 観光の目玉 | | <input type="text"/> | | | | | | | | | | | |
| 環境 | | | | 社会 | | | | 経済 | | | | | |
| 年間CO2 排出量 (D12)(*3) | | <input type="text"/> tco2/年 | サステナビリティ・コーディネーター (A2) | | 有・無 | | 地域経済循環分析 (B1) | | 有・無 | | 実施年 | | <input type="text"/> 年 |
| 環境負荷の少ない交通の利用プログラム (D13) | | 徒歩・自転車・その他（ <input type="text"/> ） | | ステークホルダー・ワーキンググループ (A2) | | 有・無 | | 宿泊客 平均観光消費額 (B1) | | 手段：RESAS / EMCalc / その他（ <input type="text"/> ） | | <input type="text"/> 円 | |
| 交通 | | | | | | | | | | | | | |
| 主要な鉄道駅 | | XX線YY駅 | | | | 最寄りの国内空港（航空会社） | | XX空港（ANA, JAL） | | | | | |
| バス運行会社 | | | | | | 最寄りの国際空港 | | ZZ国際空港 | | | | | |
| 主要タクシー乗り場 | | 駅から直線距離で <input type="text"/> m | | | | フェリー・船舶乗り場（クルーズ会社） | | | | | | | |
| 観光 | | | | | | | | | | | | | |
| 宿泊業・飲食サービス業雇用者数 (B1) | | | | 人（男女比 <input type="text"/> : <input type="text"/> ） | | | | | | | | | |
| 月別観光客推計 (人) (A11) | 年 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
| | 入込客数 | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> | <input type="text"/> |
| 年別延べ宿泊数 (人) (A11) | (直近5年) | 2018(H30)年 | | 2019(H31)年 | | 2020(R2)年 | | 2021(R3)年 | | 2022(R4)年 | | | |
| | 宿泊数 | <input type="text"/> | | <input type="text"/> | | <input type="text"/> | | <input type="text"/> | | <input type="text"/> | | | |
| | 国内 | <input type="text"/> | | <input type="text"/> | | <input type="text"/> | | <input type="text"/> | | <input type="text"/> | | | |
| | 外国人 | <input type="text"/> | | <input type="text"/> | | <input type="text"/> | | <input type="text"/> | | <input type="text"/> | | | |
| 観光客の主要な来訪目的 (A11) | | | | | | | | | | | | | |
| (例) ・四国霊場の札所めぐり ・〇〇山の自然景観 等 ・ ・ ・ ・ | | | | | | | | | | | | | |
| 外国人宿泊客の主な国 (上位5カ国) (A11) | | 年 | 国名 | 香港 | フランス | 台湾 | アメリカ | オーストラリア | その他 | | | | |
| | 宿泊数 | <input type="text"/> | 泊 | 泊 | 泊 | 泊 | 泊 | 泊 | 泊 | | | | |
| | 構成比 | <input type="text"/> % | % | % | % | % | % | % | % | | | | |
| 主な宿泊施設収容力 (A11) | | 年 | 種別 | ホテル | 民宿 | ゲストハウス | 民泊 | | | | | | |
| | 軒数 | <input type="text"/> | 軒 | 軒 | 軒 | 軒 | 軒 | | | | | | |
| | 定員 | <input type="text"/> | | | | | | | | | | | |
| ※ 各欄に記載されている (D12)、(A2) 等の標記は、「日本版持続可能な観光ガイドライン (J S T S - D)」の項目番号を示す。 | | | | | | | | | | (*1) ●●観測所による測定結果 (*2) ●●県における降水日数 (*3) データ元：XXX | | | |

牟岐町のデスティネーションプロフィールのポイントは下記の通り。デスティネーションプロフィール全体及びデスティネーションプロフィール作成根拠のリストは末尾別添「デスティネーションプロフィール」参照。

- 経済

- ・経済循環・消費額のデータがなく、現状を把握できていない。

| 経済 | |
|------------------------|--|
| 地域経済循環分析 (B1) | 有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/> 実施年 <input type="text"/> 年 手段：RESAS / EMCalc / その他 () |
| 宿泊客 平均観光消費額 (B1) | <input type="text"/> 円 |

- 月別観光客数

- ・1月、5月、8月、11月が比較的多いものの、全体として数は多くなく、季節変動が大きいわけではない。

| 月別 観光客推計 (人) (A11) | 2022年 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|-----------------------------|-------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 入込客数 | | 2,573 | 1,980 | 1,809 | 1,648 | 2,401 | 1,462 | 1,649 | 2,217 | 1,445 | 1,787 | 2,080 |

- 観光資源

- ・牟岐大島、出羽島、モラスコむぎが観光の中心であり、その他自然資源・文化的資源の両方を持つ。

| 観光客の主要な来訪目的 (A11) |
|--|
| とどろの滝、貝の資料館モラスコむぎ、出羽島、牟岐大島千年サンゴ、あじさいロード、内妻海岸、牟岐大島、津島、松ヶ磯、八坂八浜、松阪隧道、姫神祭り、鬼ヶ岩屋、五剣山、シラタマモ、ムクノキ、阿波釣法 |
| ・上記A11の観光客推計は、入込客数調査を実施している牟岐大島・出羽島・モラスコむぎの数字を記載している。 |

- 宿泊

- ・お遍路からの宿泊需要で、国別ではフランスがもっとも多い。
- ・民宿、民泊はあるが、ホテル、ゲストハウスがない。

| 外国人宿泊客の主な国 (上位5カ国) (A11) | 2019年 | 国名 | フランス | 中国 | アメリカ | 台湾 | 香港 | その他 |
|-----------------------------|-------|-----|------|-----|------|----|----|-----|
| | | 宿泊数 | 13泊 | 12泊 | 9泊 | 4泊 | 3泊 | 14泊 |
| | | 構成比 | 24% | 22% | 16% | 7% | 5% | 25% |

| 主な宿泊施設収容力 (A11) | 2023年 | 種別 | ホテル | 民宿 | ゲストハウス | 民泊 |
|--------------------|-------|----|-----|-----|--------|----|
| | | 軒数 | 0軒 | 8軒 | 0軒 | 1軒 |
| | | 定員 | 0 | 212 | 0 | 7 |

2-1-3. アセスメントレポート

2. 事業内容

作成したデスティネーションプロフィールを含む収集した既存資料やデータ等及び事業対象自治体からのヒアリングをもとに、アセスメントレポートを作成した。アセスメントレポートは、JSTS-Dに記載されている指標活用要領に基づいて作成し、チェックシートとしてJSTS-Dの各項目を確認することで、最小限の作業量で地域の自己分析を行うことを目的とし、自治体担当者が主体的かつ効率的に作成しつつ、相対的な現況把握ならびにアクションプランの検討・精査を行えるよう作成した。

| 作成概要 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---|-----|-----|-----|-----|---|----|----|-----|---------------|-------------------|---|----|-----------------|---|----|--------------|---|----|-----------------|--------------|---|---|-------------|---|----|---------------|-------------|---|---|---------------|---|----|---------------|-------------|---|----|---------------|---|---|----------------|---|----|
| 項目 | <p>JSTS-Dの113項目（下表参照）を使用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4分野(マネジメント、社会経済、文化、環境) ・項目：大項目10、中項目47、小項目113 <table border="1"> <thead> <tr> <th>分野</th> <th>大項目</th> <th>中項目</th> <th>指標数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4</td> <td>10</td> <td>47</td> <td>113</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">A:持続可能なマネジメント</td> <td>(a) マネジメントの組織と枠組み</td> <td>4</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>(b) ステークホルダーの参画</td> <td>6</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>(c) 負荷と変化の管理</td> <td>6</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">B:社会経済のサステナビリティ</td> <td>(a) 地域経済への貢献</td> <td>3</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>(b) 社会福祉と負荷</td> <td>5</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">C:文化的サステナビリティ</td> <td>(a) 文化遺産の保護</td> <td>5</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>(b) 文化的場所への訪問</td> <td>3</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">D:環境のサステナビリティ</td> <td>(a) 自然遺産の保全</td> <td>6</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>(b) 資源のマネジメント</td> <td>3</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>(c) 廃棄物と排出量の管理</td> <td>6</td> <td>10</td> </tr> </tbody> </table> | 分野 | 大項目 | 中項目 | 指標数 | 4 | 10 | 47 | 113 | A:持続可能なマネジメント | (a) マネジメントの組織と枠組み | 4 | 12 | (b) ステークホルダーの参画 | 6 | 12 | (c) 負荷と変化の管理 | 6 | 17 | B:社会経済のサステナビリティ | (a) 地域経済への貢献 | 3 | 8 | (b) 社会福祉と負荷 | 5 | 16 | C:文化的サステナビリティ | (a) 文化遺産の保護 | 5 | 8 | (b) 文化的場所への訪問 | 3 | 11 | D:環境のサステナビリティ | (a) 自然遺産の保全 | 6 | 14 | (b) 資源のマネジメント | 3 | 5 | (c) 廃棄物と排出量の管理 | 6 | 10 |
| 分野 | 大項目 | 中項目 | 指標数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | 10 | 47 | 113 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| A:持続可能なマネジメント | (a) マネジメントの組織と枠組み | 4 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (b) ステークホルダーの参画 | 6 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (c) 負荷と変化の管理 | 6 | 17 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B:社会経済のサステナビリティ | (a) 地域経済への貢献 | 3 | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (b) 社会福祉と負荷 | 5 | 16 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| C:文化的サステナビリティ | (a) 文化遺産の保護 | 5 | 8 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (b) 文化的場所への訪問 | 3 | 11 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| D:環境のサステナビリティ | (a) 自然遺産の保全 | 6 | 14 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (b) 資源のマネジメント | 3 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | (c) 廃棄物と排出量の管理 | 6 | 10 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 使用ツール | 入力シート（エクセル形式）：JSTS-D 項目をもとに本事業に沿った形で項目を追加し作成。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 自治体担当者 | 牟岐町 産業課 課長補佐 一山 昌之 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 引用・参考データ | <ul style="list-style-type: none"> ・自治体：保管データ(総合計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略、観光振興計画等)、ホームページ公表データ等 ・国・県等関係機関の公表データ（国勢調査、環境省自治体排出量カルテ等） ・民間機関の公表データ(必要な場合のみの使用とする) ・自治体担当課・関係者（観光協会等）ヒアリング | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

【作成手順】

| | |
|---|--|
| ①入力フォームの準備（リベルタ） | |
|  | JSTS-Dの各項目をチェックシートとして活用するため、入力シートを作成し、自治体担当者へ事前送付 |
| ②データ入力（自治体担当者） | |
|  | 各自治体で把握しているデータおよび関係課へのヒアリング等により分かる限りのデータをフォームに入力する |
| ③内容・根拠確認（自治体担当者・リベルタ） | |
|  | データの内容・出典等の根拠資料の確認・提案および優先度の検討 |
| ④全体像の把握・共有（リベルタ） | |
| | アセスメントレポートから各町の全体像を把握し、関係者へ共有する |

● アセスメントレポート項目内容

様式 既存フォーマットの項目 転記 JSTS-Dより転記する項目 追加 追加項目

| No. | 項目 | 区分 | 作成・入力 | | 説明 |
|-----|------------------------|----|-------|------|--|
| | | | 自治体 | リベルタ | |
| 1 | 大項目 | 様式 | --- | --- | JSTS-Dの大項目 |
| 2 | 大項目の説明 (JSTS-D本文) | 転記 | --- | ○ | JSTS-Dより、大項目の補足説明を転記。 目的：作業の効率化 |
| 3 | 小項目 | 様式 | --- | --- | JSTS-Dの小項目 |
| 4 | 判断基準 | 追加 | --- | ○ | 「3.小項目」の実施状況について、「6.取組の状況」の判断基準を追加。 目的：自治体担当者が主体となって作成する際、相対的な判断をするため。 |
| 5 | JSTS-D参考資料 | 転記 | ○ | --- | JSTS-Dの参考資料を転記。 目的：作業の効率化 |
| 6 | 取組の状況 | 様式 | ○ | --- | 取り組み状況を6項目より選択。 ・ない/いいえ ・今後準備する予定である ・現在準備中である ・ある ・更新しながら適切に実施している ・わからない 選択項目により0点～5点に自動換算される。 |
| 7 | 取組内容・ スコア判断基準 | 様式 | ○ | --- | 自治体の取り組み状況とスコア判断根拠を記載。 |
| 8 | データ(参考資料や データ名とURL) | 様式 | ○ | --- | 「6.取組の状況」「7.取組の内容」の参考資料やデータ名、URL等を記載。 |
| 9 | 備考 | 様式 | ○ | --- | 特記事項があれば記載。 |
| 10 | 現状・課題 | 追加 | ○ | --- | 「7.取組の内容」の回答における現状・課題(達成・未達成の取組内容等)を記載。 目的：「7.取組の内容」の内容精査、現況・課題の把握 |
| 11 | 対応策 | 追加 | ○ | ○ | 「10.現状・課題」の客観的な対応策を記載(アクションプランではない)。 目的：「6.取組の状況」の改善・解決のための取り組み、考え方等。 |
| 12 | 関連する課題 | 追加 | --- | ○ | 現地調査での抽出課題で各項目に関連するものを記載。 |
| 13 | JSTS-D関連項目 | 転記 | --- | ○ | 「3.小項目」に関連するJSTS-Dの大項目を転記。 |
| 14 | 優先度 | 追加 | ○ | ○ | アクションプラン検討時、優先的に取り組むべき項目かの判断材料とする。 (基本4項目) ①基礎項目：小項目、大項目を達成するための基礎的な取組 ②住民の満足度や安全に関わる項目：経済、福祉、安全等 ③旅行者の満足度や安全に関わる項目：観光資源の魅力、サービスの質、利便性、安全、衛生等 ④影響度：取り組むことにより、他への影響・波及効果が期待できる(移住促進や雇用創出など) 1：低い 基本4項目のいずれも該当しない場合。 今後も重大な課題が生じる可能性が低い項目。 2：やや低い 基本4項目のうち、1項目に該当。 3：どちらでもない 基本4項目のうち、2項目に該当。 4：やや高い 基本4項目のうち、3項目に該当。 5：高い 基本4項目のうち、4項目に該当。 ※「6.取組の状況」の評価結果との連動による評価ではなく、「6.取組の状況」の実施状況が良好でも優先度の評価は低くなる場合もある。 |
| 15 | 優先度の事由 | 追加 | ○ | ○ | 「14.優先度」の判断事由を記載。 |

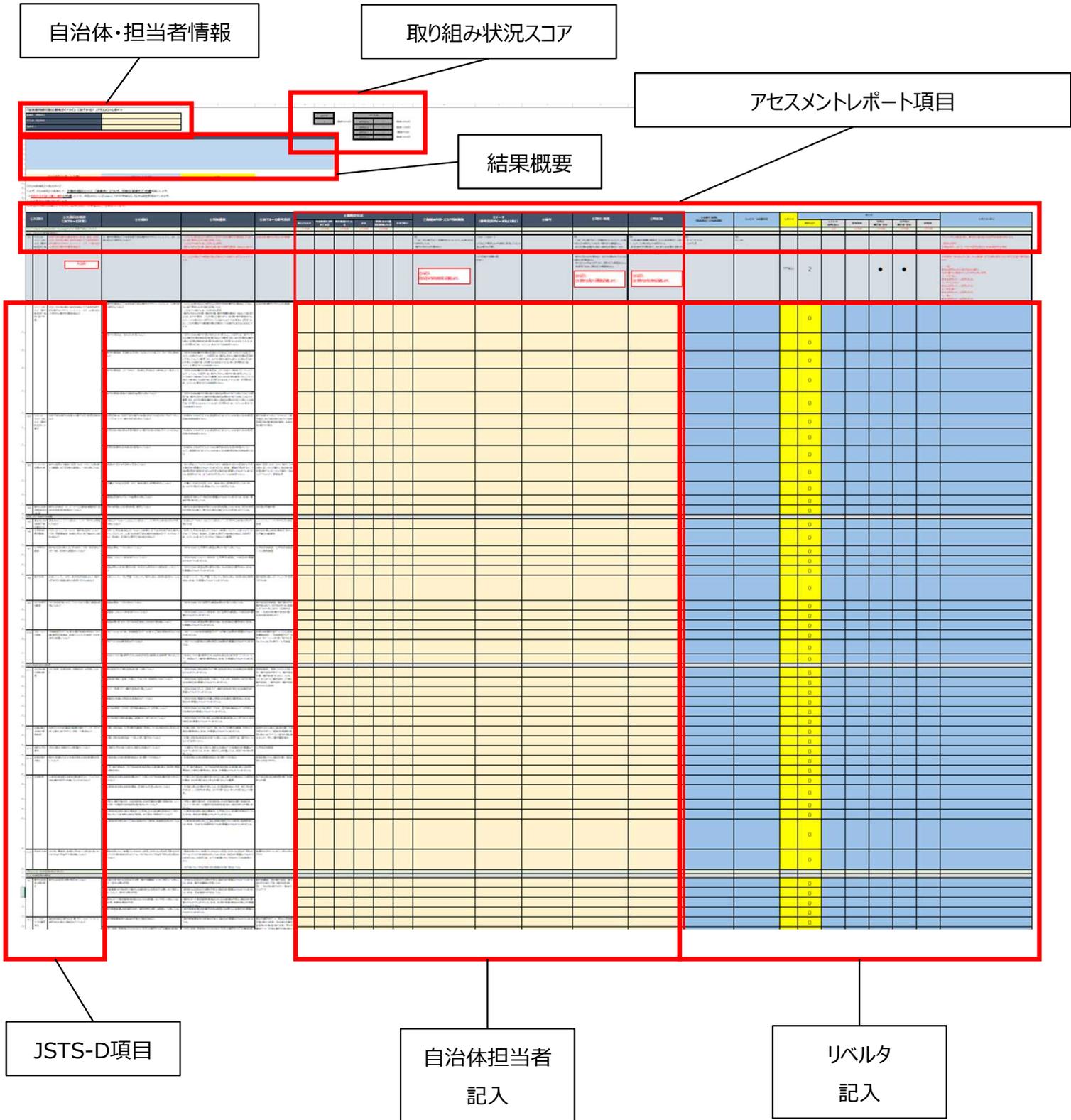
ステップ1

データ作成

ステップ2

確認・検討・提案

アセスメントレポート入力用シート



牟岐町のアセスメントレポートについて、取り組むべき優先度が高い項目は以下の通り。
全項目については、末尾添付「アセスメントレポート」を参照。

A・B

| | | | |
|----|------------------|--|---|
| A1 | デスティネーション・マネジメント | ① 観光計画等に「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」に取り組むことを明記していること | 5 |
| | | ② 観光計画等は、複数年の計画であること | 5 |
| | | ③ 観光計画等は、定期的な見直し（少なくとも5年ごと）及び一般公表をしていること | 5 |
| | | ④ 観光計画等は、ステークホルダー（地域住民を含む）の参加によって策定していること | 5 |
| | | ⑤ 観光計画等に関連する取組の結果を公表していること | 5 |

→ 観光分野の位置づけや、今後の方向性を、広く町民や観光関係者と検討し、共有することで、観光分野の基礎を整える必要がある。

| | | | |
|----|-----------|---|---|
| A6 | 住民参加と意見聴取 | ① 官民、住民等の地域のステークホルダーが参画する「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」に基づいた持続可能な観光の推進を担うワーキンググループ（WG）等があり、定期的な意見交換の機会があること | 4 |
| A7 | 住民意見の調査 | ① 調査結果は、一般公表されていること | 4 |

→ 住民意見を取り入れる取り組みを行ってきたい。

| | | | |
|----|----------|---------------------|---|
| A9 | 旅行者意見の調査 | ① 調査結果は、一般公表されていること | 4 |
|----|----------|---------------------|---|

→ 調査の仕組みをつくり、基礎的なデータを揃え、数値に基づいたマーケティング・プロモーションにつなげていきたい。

| | | | |
|-----|----------|---|---|
| A14 | 気候変動への適応 | ② 住民、観光事業者、旅行者向けの気候変動による影響に関する教育や意識向上の取組がある | 4 |
|-----|----------|---|---|

→ 千年サンゴは町の重要な資産であり、観光に与える影響も大きいため、重点的に対応していく。

| | | | |
|-----|------|--|---|
| A15 | 危機管理 | ⑤ 災害等の非常時において正確な情報を伝える表現で情報発信がなされていること | 4 |
|-----|------|--|---|

→ 今後集客を進めていくうえで危機管理をしっかりと行い、安心・安全な受け入れ体制を整えておくことが重要。

| | | | |
|----|----------------|---------------------------|---|
| B3 | 地域事業者の支援と公正な取引 | ① 地域の特産品やサービスの利用を促進していること | 5 |
|----|----------------|---------------------------|---|

→ 産業の維持は重要なため、引き続き対策が必要。

| | | | |
|----|------------|---|---|
| B4 | コミュニティへの支援 | ① 事業者や旅行者が住民と共に、地域社会や地域の文化・自然環境の保全に貢献できる機会があること | 5 |
|----|------------|---|---|

→ 住民・旅行者・事業者等幅広く影響がある項目のため優先度は高い。

| | | | |
|----|---------|---|---|
| B6 | 地権と使用権利 | ① 資産取得に関する政策等は、住民の意見を反映して策定され、住民の権利を保護するものであること | 4 |
|----|---------|---|---|

→ 重要伝統的建造物群保存地区を守っていくためには継続した取組が必要。

| | | | |
|----|-------|--------------------------|---|
| B7 | 安全と治安 | ① ガイドの安全を管理するガイドラインがあること | 4 |
|----|-------|--------------------------|---|

→ ガイドマニュアル作成にあたり検討を行う。

| | | | |
|----|-----------|------------------------|---|
| B8 | 多様な受入環境整備 | ④ キャッシュレス環境整備を推進していること | 4 |
|----|-----------|------------------------|---|

→ 民間での取り組みを促進する支援を進めていきたい。

C・D

| | | | |
|----|---------|------------------------------|---|
| C1 | 文化遺産の保護 | ① 景観等の保全に関する計画があること | 4 |
| | | ② 保安全管理の状態を確認し、必要な対策を行っていること | 4 |

→ 重要伝統的建造物群保存地区は地域の貴重な観光資源でもあるので、継続的に取り組んでいく必要がある。

| | | | |
|----|---|--|---|
| C7 | 特に配慮が必要とされる場所における旅行者のふるまいについて、地域住民の声を反映した行動規範がリストアップされ、旅行者に向けて周知されていること | ① 旅行者に向けて、ポジティブな行動を奨励していること（マナー啓発） | 4 |
| | | ② 問題が生じている場合、対策を講じていること（マナー違反対策） | 4 |
| | | ③ ツアーガイドを対象に、旅行者へのマナー啓発を促進するための研修があること | 4 |

→ 住民の暮らしに直結する影響があるため、対策を行っていく必要がある。

| | | | |
|----|------|-----------------|---|
| D1 | 自然遺産 | ① 自然遺産のリストがあること | 4 |
|----|------|-----------------|---|

→ コンテンツとして活用できる自然資源があり、優先的に取り組んでいきたい。

| | | | |
|----|------------------|----------------------------------|---|
| D3 | 自然遺産における旅行者のふるまい | ② 問題が生じている場合、対策を講じていること（マナー違反対策） | 4 |
|----|------------------|----------------------------------|---|

→ 対応が体系化はされていないため地域全体としての対応方針の共有が必要。

取り組み状況まとめ

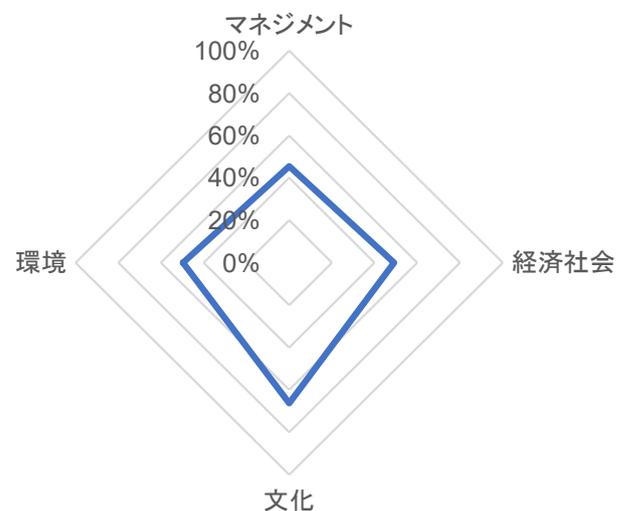
JSTS-Dの基準の各項目について、現在の取組の状況を確認・分析するため、「アセスメントレポート 項目6. 取組の状況」について、4分野113項目の「5段階評価」を点数換算し、検証を行った。

【判定基準と点数】

| | |
|------------|----|
| 更新しながら適宜実施 | 5点 |
| ある | 4点 |
| 現在準備中 | 3点 |
| 今後準備予定 | 2点 |
| ない/いいえ | 1点 |
| わからない | 0点 |

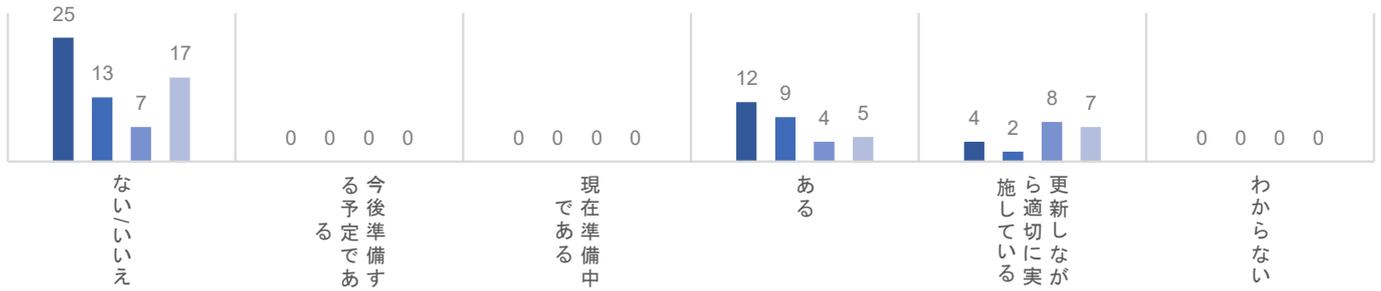
スコア・達成度

| | 分野 | 合計 | 最高スコア | 達成度 |
|---|--------|-----|-------|-------|
| A | マネジメント | 93 | 205 | 45.4% |
| B | 経済社会 | 59 | 120 | 49.2% |
| C | 文化 | 63 | 95 | 66.3% |
| D | 環境 | 72 | 145 | 49.7% |
| | 合計 | 287 | 565 | 50.8% |



分野別取組状況

■A ■B ■C ■D



4分野の達成率を見ると、マネジメント・経済社会・環境分野で50%以下と低くなっているが、文化分野では60%を超える比較的高い達成率だった。文化面での対応を引き続き行いつつ、マネジメント・経済社会・環境面での対策を強化していけるとよい。

分野別の取り組み状況について、牟岐町は取り組みができていない項目も多いが、計画等が「ある」、「更新しながら適切に実施している」項目もみられる。「今後準備する予定である」、「現在準備中である」はなく、新たな取り組みの予定がない状況である。優先順位を確認したうえで、取り組みを増やしていくとともに、継続的に適切な運用をしていく必要がある。

【現状・課題】

- 一つ一つJSTS-Dの内容を確認したところ、話題にも出たことがなく検討がされたことのない項目も多数あった。
- 課題を認識しつつも、優先順位が低い、観光分野での対策だけでは解決できない、費用がかかる等の理由により具体的な策がとれていない項目が確認された。

【今後の方向性】

- 観光分野の方向性共有
 - ・現状観光に特化した計画がなく、町民の観光に対する意見も把握できていない。
 - 基本事項の整理を優先して行い、町の観光分野の方針を決定・共有することを優先して行えるとよい。
- マーケティングの重要性
 - ・町への観光客の動向に関するデータも揃っておらず、戦略的なマーケティングやプロモーションが行えていない
 - ターゲットを具体的に絞っていき、設定したターゲットに向けた適切な対応を進め、町民の意向をふまえた暮らしと観光の両立を行っていく必要がある
- 資源の活用
 - ・観光につながる文化的資源、自然環境の両方がある地域であるが、活用できていない資源も多い
 - 負荷をかけないように工夫をしながら活用していく

2-1-4. 関係者間におけるワークショップの実施

【第1回ワークショップ】

(1) 実施概要

- 日時 : 令和5年9月19日(火) 14:15~17:00
- 実施方法 : 対面+オンライン(Zoom)
- 会場 : 牟岐町海の総合文化センター 1F 大集会室
- 参加者 : 32名 (「2-3-1. 開始時会議(2) 参加者」の項を参照)
- 内容
 1. 日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D) について リベルタ株式会社 林 美希子
 2. 地域の分類、国内での実践事例紹介
 3. 旅行会社目線での JSTS-D の活用について
 4. 全体討論
 5. 総括 四国運輸局 観光部 次長 上戸 康弘

ワークショップの様子



(2) 実施内容

1. 日本版持続可能な観光ガイドライン (JSTS-D) について

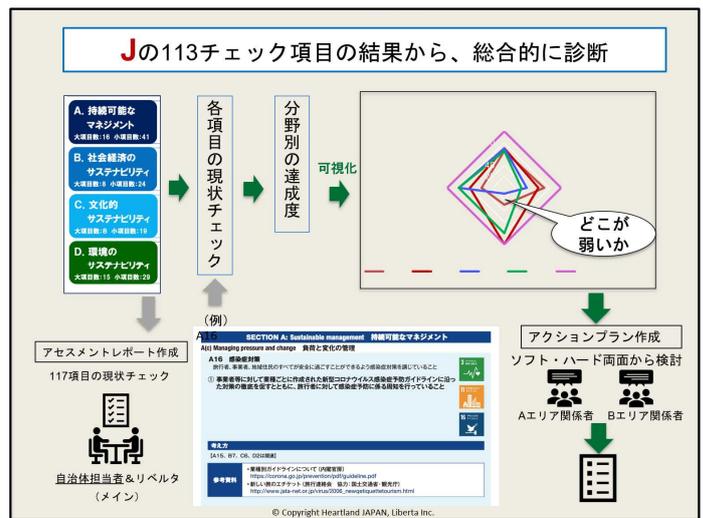
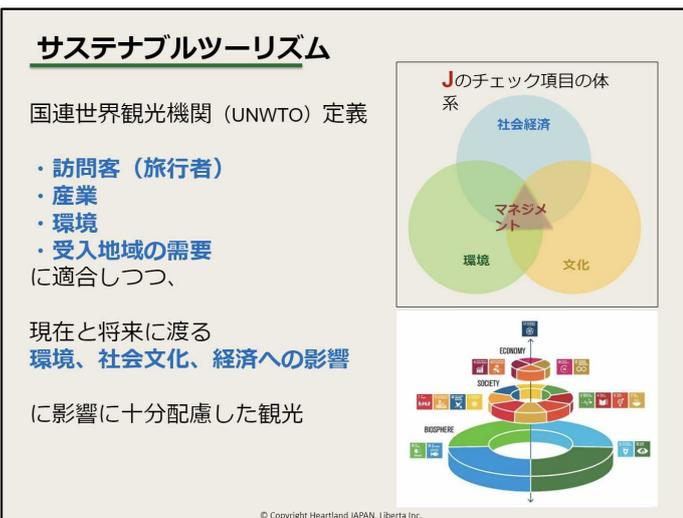
前半では、リベルタ株式会社林よりサステナブルツーリズムやJSTS-Dについての説明を行い、後半では全体で意見交換を行った。

① サステナビリティとSDGs

・サステナビリティは日本語で持続可能性を意味する言葉であり、サステナブルツーリズムは「持続可能な観光地（地域）」であるといった定義や状態。観光地（地域）が目指すべき状態と捉えると、あらゆるツーリズムの土台であり、目指すべき姿とも言える。

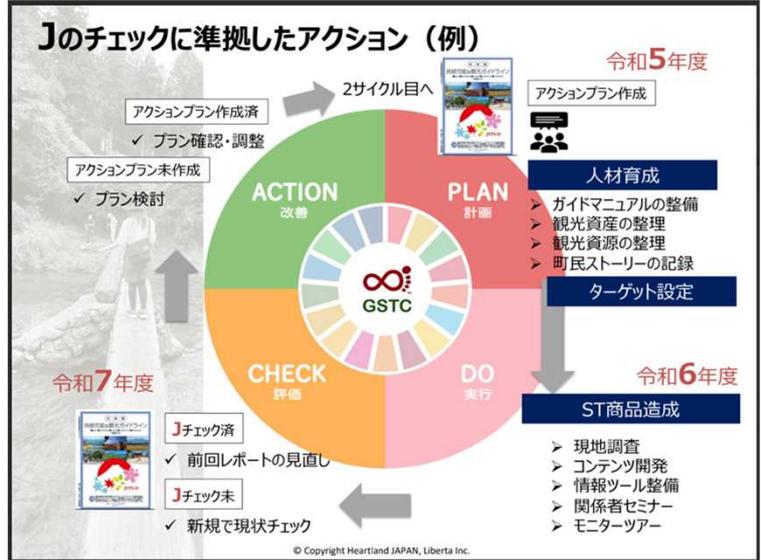
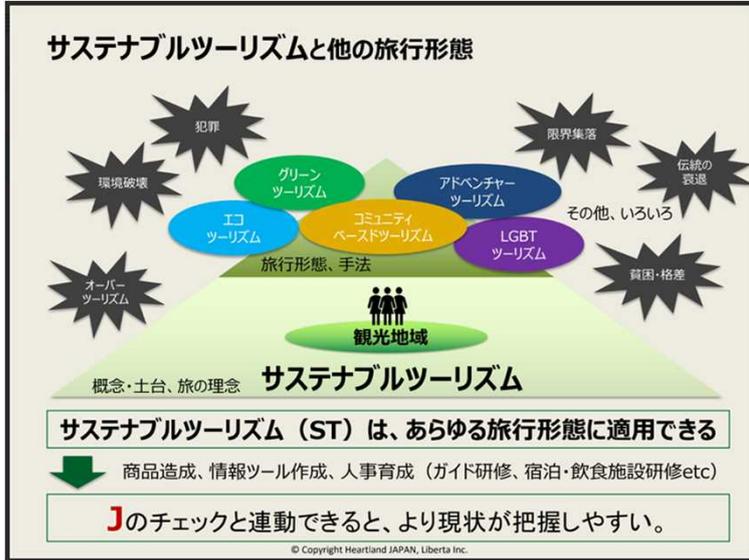
・SDGsは、地域のサステナビリティ実現に向けた目標。その目標達成の先に目指す状態があるという構造。

・国際指標のGSTCと、その指標をもとに体系化された日本版のJSTS-Dはいずれも健康診断に例えるならば検査・測定項目のようなもの。これらの項目を通じて、現在の観光分野の健康状態が客観的に把握できる。



②サステナブルツーリズム

サステナブルツーリズムは、エコツーリズムやアドベンチャーツーリズムなどあらゆる旅行形態に適用でき、JSTS-Dのチェックと連動することでより現状が把握できるようになる。また、JSTS-Dの項目のチェックに沿ってPDCAを回していくことで、一つ一つの行動として落とし込んでいくことができ、年度ごとの事業として見通すこともできる。



2. 地域の分類、国内での実践事例紹介

国内の事例として、徳島県美馬市、長野県乗鞍高原、北海道富良野地区でのサステナブルツーリズムの取り組み状況を紹介した。

3. 旅行会社目線での JSTS-D の活用について

2023ATWS (Adventure Travel World Summit) で注目されたキーワード「Off the beaten track(人里離れた、人気のない)」「Responsibility (責任)」「Contribution (貢献)」を取り上げ、牟岐町での観光の参考になる視点を説明した。



4. 全体討論

全体での意見交換では、牟岐町の観光資源と、観光の課題について意見を出し合った。

観光資源

観光資源については、牟岐町で自慢できるところとともに、その活用のアイデアも提案された。

| | 観光資源 | エリア区分 | 活用アイデア |
|----|----------|-----------------------------|--|
| 1 | 牟岐人 | 全体 | 草刈等を含めた交流観光プログラム |
| 2 | グルメ | 全体 | イセエビ・アワビ・カツオ・鯉節・取れたての海鮮・島そうめん・島の野菜など |
| 3 | 体操専用体育館 | 市街地集落地域 | 雨天時の活用 |
| 4 | 八幡神社 | 市街地集落地域 | インバウンド向け文化・歴史ガイドツアー |
| 5 | お遍路 | 市街地集落地域 山間集落地域 沿岸集落地域 | お遍路体験 |
| 6 | 牟岐川 | 山間集落地域 | シャワークライミング・SUP・カヌー 源流から海までが近いことを生かした生態系を学び 楽しめるプログラム |
| 7 | 内妻海岸 | 沿岸集落地域 | サーフィン グランピング |
| 8 | 南阿波サンライン | 沿岸集落地域 | 星空を見るイベントの開催 |
| 9 | モラスコ牟岐 | 沿岸集落地域 | お見合いBBQイベントの実施 恋人の聖地としてPR |
| 10 | 海 | 沿岸集落地域 島しょ地域 | マリナクティビティ 自然の保全・回復に貢献できるサステナブルツアー |
| 11 | 漁村集落 | 沿岸集落地域 島しょ地域 | ボタリング 民泊・体験プログラム |
| 12 | 出羽島 | 島しょ地域 | 出羽島周遊ガイドツアー 猫車制作体験 アート展 ゲストハウス アルベルゴディフーズ形式の宿泊施設 |
| 13 | カムリウミスズメ | 島しょ地域 | 野鳥観察プログラム |
| 14 | 千年サンゴ | 島しょ地域 | ダイビングプログラム |
| 15 | 大島 | 島しょ地域 | 釣り SUP 自然観察ガイド付きツアー クルージング |
| 16 | 津島 | 島しょ地域 | 釣り 自然観察ガイド付きツアー クルージング |

観光課題

観光課題については、参加者それぞれの立場の目線で困っていることや、今後解決していきたいことが共有された。

| | 課題 | 概要 |
|----|---------------------|---|
| 1 | 観光事業の仕組みの未整備 | 観光関係者でも各ステークホルダーがバラバラで動いており、連携が取れていない。理念やコンセプトの共有が必要。これまで全体の底上げができる意思疎通の場が必要。 |
| 2 | 人材不足・高齢化と人材育成 | 高齢化で、耕作放棄地が増加するなど、町の保全を行う人材が不足している。観光に携わる人材も高齢化・不足している。 |
| 3 | ガイド機能の強化 | 発足してから10年が経過し、ガイドの高齢化が課題となっている。 |
| 4 | 漁業と観光業の共存 | 漁業関係者への、観光への理解促進が必要。海の資源の観光利用。 |
| 5 | 自然資産の未活用 | 登山道の整備など行政のサポートが必要。千年サンゴをはじめとする海の資源が十分活用できていない。 |
| 6 | コンテンツ不足 | 観光資源があるのに、コンテンツとして作られていないため、来訪者が楽しめない。 |
| 7 | 消費拡大 | 域内循環と観光消費額の拡大。 |
| 8 | 重要伝統的建造物群保存地区の保存・活用 | 持ち主にとっては維持していくのが大変なので、保存・活用のための適切なサポートが必要。 |
| 9 | 暮らしと観光の両立 | 空き家を観光しに来た人が宿泊できるようにして、農家を手伝うなど観光に来た人たちがサポートしてくれるような流れができるとよい。 |
| 10 | コミュニティの維持 | 高齢化・人口減少で、地域の文化やコミュニティ維持が難しくなっている。 |
| 11 | 事故等への対応リスク | 自然を相手にするアクティビティについては、安全対策が重要であり、想定されるリスクへの対応が必要。 |
| 12 | 適切な情報発信 | 地域の情報や観光情報が十分に発信できていない。 |

5. 総括 四国運輸局 観光部 次長 上戸 康弘

牟岐町への思いを感じた時間だった。それを事業にどう生かすかを考えていきたい。「全体の底上げ、意思疎通」を今後のWSにも生かしていきたい。観光ガイド、観光事業者との情報交換の場の設定、観光地維持のため、観光客と一緒に参加することで、維持していくということも考えていきたい。

出羽島のガイドをする上で、支障になる部分についても教えてもらいたい。「リサーチが重要」という視点も盛り込んでいかなければならない。

JSTS-D のロゴマークを使用するためにはハードルがあり、利用できる制限がある。現在認証を受けているのは27団体、うち6団体が四国。四国は頑張っている。

観光ガイドが説明しすぎず、参加者を見て、ガイドをすることの重要性の話があったが、日本人は説明したがる傾向にある。外国人は知りたいことを自分から質問するため、ガイドはどんな質問が想定されるか等を考える力・見る力が必要。外国人に合わせた話し方が大事。

訪日外国人観光客は、何度でも会いに行きたいと思う方に会いに行くパターンが多いため、会いに来たいと思われるガイドの育成を目指すための事業にしたい。

ワークショップ① 参加者アンケートの結果

※アンケートはGoogleフォームを使用

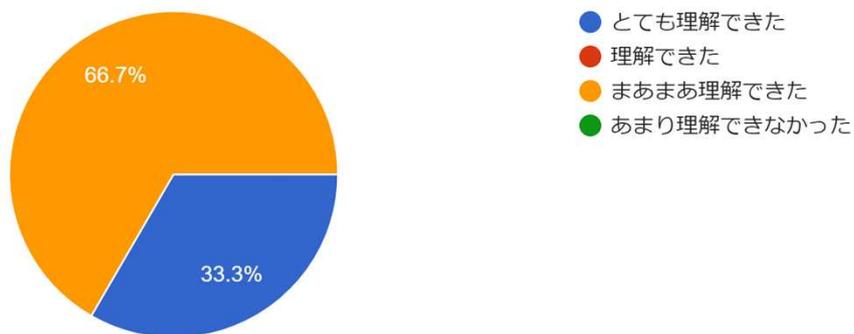
1-1 参加区分

3件の回答



2-1. 「座学 持続可能な観光と日本版のガイドライン（JSTS-D）」について

3件の回答

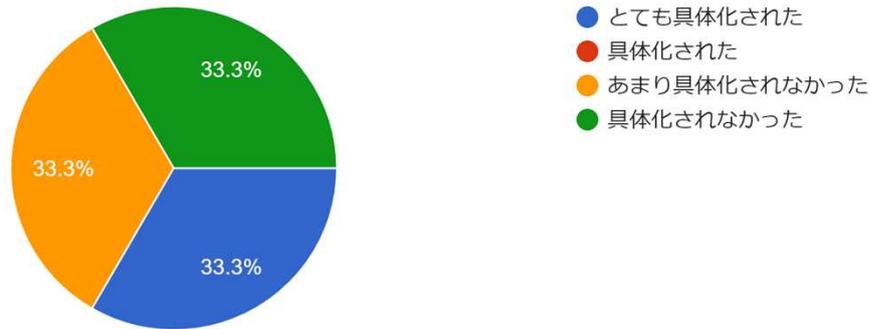


2-2. (2-1.)について特にそう感じた内容や理由について記入してください。

- 手元に資料がなく、耳で聴いていただけなので、詳細な内容まではよく分からなかったの。
- 説明が分かりやすかったから。

2-3.

グループワーク 「牟岐町の「観光」における課題...について 解決する課題は具体化されましたか。
3件の回答



2-4. (2-3.)について特にそう感じた内容や理由について記入してください。

- とりあえずみんなが意見を述べただけだったから。
- 出席者全員が多様な立場から具体的な課題や提案が発表されたため。
- うまく連携が取れていなかったように思う。当日はさしたる打ち合わせもなくワークショップだった。10年間ガイド会に参加し、気づいたことを具体的にお伝えしたいという準備していたが、その思いを伝えきれず残念だった。機会があれば、またの機会にぜひお伝えしたい。

2-5. その他、本ワークショップへのご質問・ご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

- 牟岐町ではあまりなかったとても貴重な機会だった。これからよろしくお願いします。
- 3班くらいに分かれて、意見交換してまとめて発表するという流れの方が出席者と次につながる交流ができるかもしれない。
- 次回からは、より具体的に良き牟岐町を引き出し、未来に向けて時代のニーズにあった、広域的に持続可能な観光のまちづくりに向けて事業を進めていただきたいと心から願っている。本日は貴重な勉強をさせていただきました。

【第2回ワークショップ】

(1) 実施概要

- 日時 : 令和5年11月21日(火) 14:15~17:00
- 実施方法 : 対面+オンライン(Zoom)
- 会場 : 牟岐町海の総合文化センター 1F 大集会室
- 参加者 : 32名 (「2-3-2. 中間報告会(2) 参加者」の項を参照)
- 内容
 1. はじめに 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 課長 福島 史晃
 2. 全体説明 リベルタ株式会社 林 美希子
 3. グループワーク前半:地域のなりたい姿と課題
グループ発表1:意見交換、課題の整理
 4. グループワーク後半:解決課題の特定と具体化
グループ発表2:意見交換、アクションの整理
 5. 総括 四国運輸局 観光部 国際観光課 課長 藤本 哲也

ワークショップの様子



(2) 実施内容

2. 事業内容

1. はじめに 四国運輸局観光部 観光地域振興課長 福島 史晃

本事業においては、持続可能な観光地への現状・課題調査及び観光ガイド育成事業として、ワークショップ等を実施し、JSTS-Dを活用して調査に取り組んでいる。先ほどJSTS-Dとは何かという質問があったが、簡単に言うと、持続可能な観光地にするためにどうすればよいかを知る参考書のようなもので、国際基準に対して日本なりにアレンジしたもの。

先般、持続可能な観光地の国際的な認証団体「グリーン・デスティネーションズ」が発表した、「世界の持続可能な観光地Top100選2023」の中に、四国からは徳島県三好市、香川県丸亀市、愛媛県大洲市が選出されたことは非常に喜ばしく、四国は持続可能な観光地としてのトップランナーと言っても良いと思う。

牟岐町の一山氏のご協力によってデスティネーションプロフィールやアセスメントレポートが作成され、観光分野の方向性を決めること、組織的なマーケティングの展開、活用できていない観光資源を生かすことなどが重要であることが示された。牟岐町における現状の課題や地域のなりたい姿等について意見をお願いしたい。

2. 全体説明

Aグループ、Bグループの2つのチームに分かれ、グループごとにグループワークを実施。用意された模造紙に意見を添付し、Aグループ、Bグループで、それぞれ発表と意見交換をしながら、最終的に2つのグループの意見をまとめていく。

3. グループワーク前半

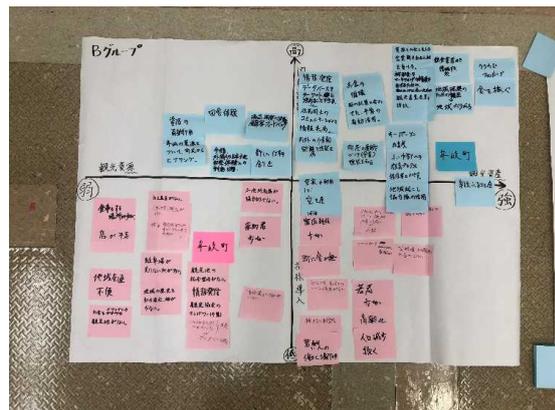
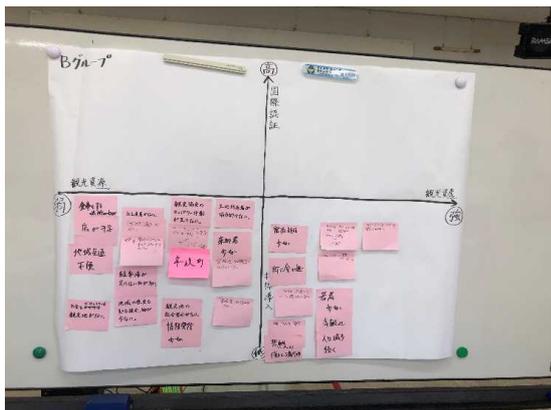
活動1：地域の課題の整理と解決策の検討及びグループ発表

- ・牟岐町の課題と思われることをピンクの付箋に書き出し、模造紙に貼る。
- ・牟岐町の現在地に最も近いと思う場所に濃い桃色の付箋を貼る。
- ・課題に対する解決策を考え、青い付箋に書き出し、模造紙に貼る。
- ・解決策の実施により牟岐町はどの位置まで遷移できるか考え、濃い青色の付箋を貼る。

<Aグループ>



<Bグループ>

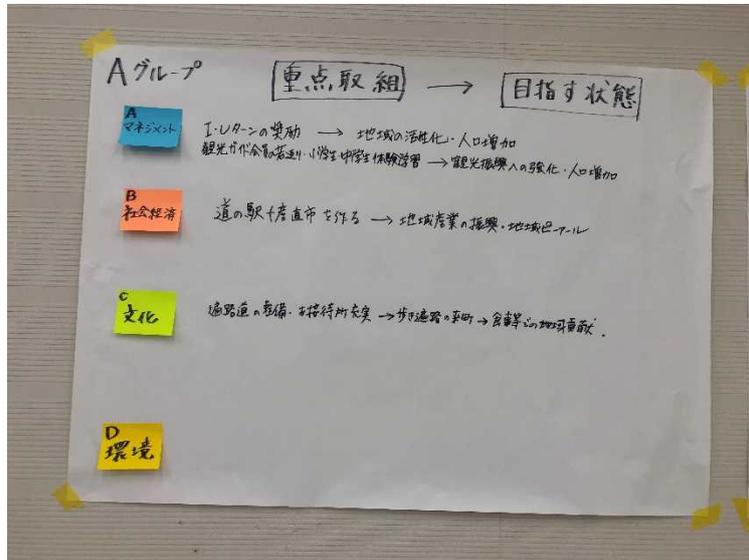


4. グループワーク後半

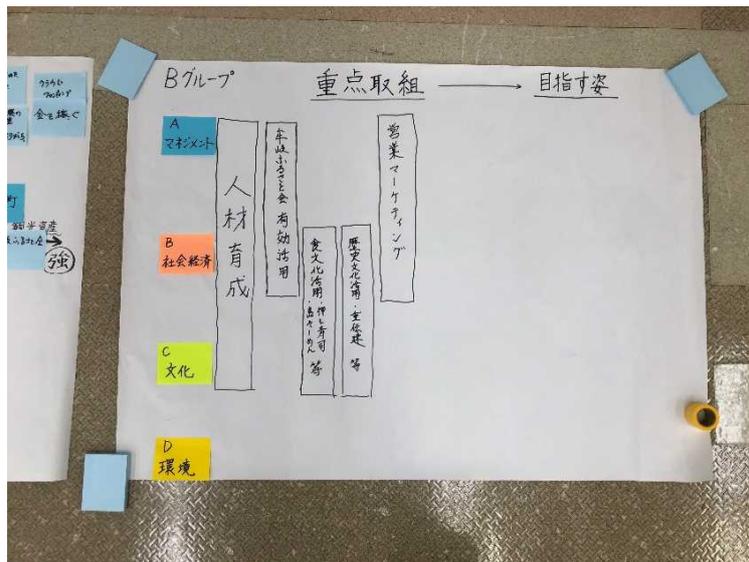
活動2: 解決課題の特定と具体化及びグループ発表

持続可能な指標の4つの分類「地域のマネジメント」「社会・経済」「文化」「環境」に対して、グループで出された重要な取り組みは、どの領域に当てはまるかを考え、整理していく。

<Aグループ>



<Bグループ>



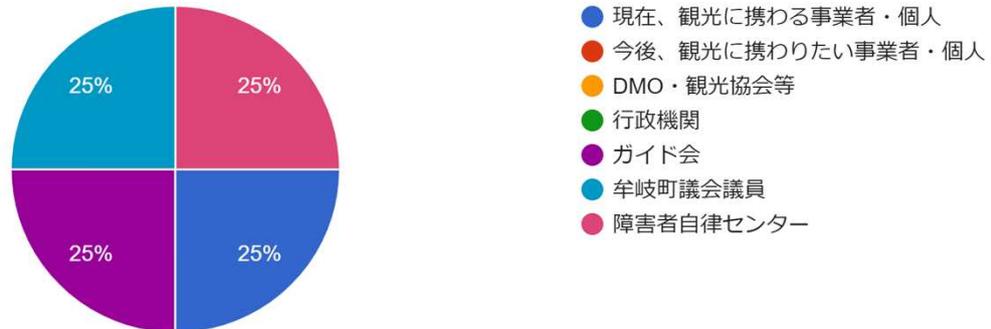
5. 総括 四国運輸局観光部 国際観光課長 藤本 哲也

参加者が熱心にワークショップに取り組んでいる様子が見受けられ、非常に有意義な会議になったと思う。このように観光事業者の皆様、自治体の皆様、また地域の皆様が一堂に会して意見交換を行うということは大変貴重であり、今後も地域全体の底上げや観光地維持を図るために必要。四国運輸局としても、本事業を通して牟岐町の持続可能な観光を実現していくために、インバウンドの受け入れにつながるコンテンツ造成や効果的なガイド育成ができれば良い。本日はありがとうございました。

ワークショップ② 参加者アンケートの結果

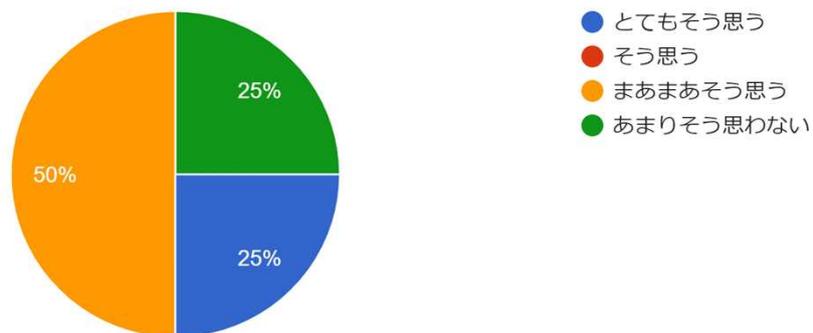
1-1 参加区分

4件の回答



2-1. グループワーク前半について 地域のなりたい姿は具体化されましたか。

4件の回答

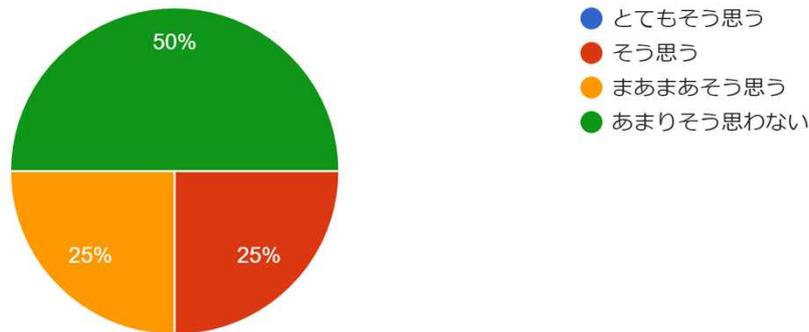


2-2. (2-1.)について特にそう感じた内容や理由について記入してください。

- 具体的な内容までは議論を煮詰めることができなかったため。
- 予習して参加したから。
- 課題を解決するための議論があまりできなかったから。
- 向かう方向性が少し見えたから。

2-3.グループワーク後半について 解決する課題は具体化されましたか。

4件の回答



2-4. (2-3.)について特にそう感じた内容や理由について記入してください。

- 具体的な内容までは議論を進められなかったため。ただし、大きな方針としてのイメージは、ぼんやりとですが見えてきた。
- 予習して参加したから。
- 議論する時間が少なかった。
- 目標に向かって何をしなければいけないか、何をすべきかが分かって来たと思うから。

2-5. その他、本ワークショップへのご質問・ご意見・ご要望等ございましたらご記入ください。

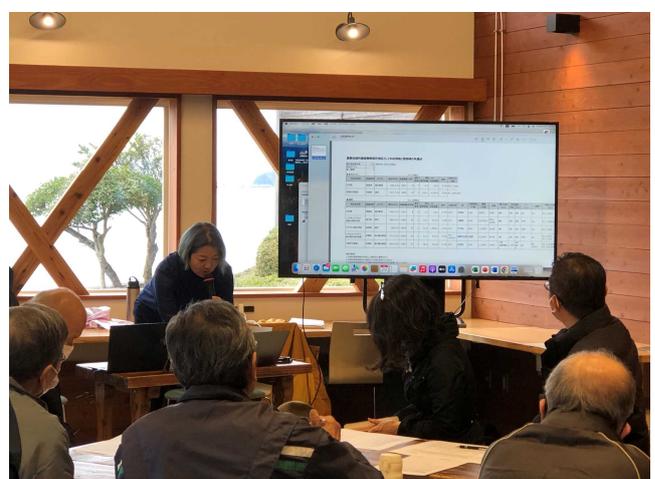
- 時間はかかるとおもいますが、もう少し的を絞って議論をした方がいいと感じた。
- 牟岐の人は何でも自己満足している。もう少し、周りに楽しんでもらう事を考え、その先を見える様に考えて、どうすべきかを考えるために助言をもらいたい。

【第3回ワークショップ】

(1) 実施概要

- 日時 : 令和6年2月29日(木) 10:00~12:00
- 実施方法 : 対面
- 会場 : モラスコむぎ
- 参加者 : 20名 (「2-3-3. 最終報告会(2) 参加者」の項を参照)
- 内容
 1. 全体説明
 2. アクションプランについて
 3. グループワーク
 4. 意見交換

ワークショップの様子



(2) 実施内容

1. 全体説明

2. アクションプランについて

これまで実施されたワークショップ①及び②を通して、参加者から観光人材の高齢化と後継者不足、地域資源の未利用、受入体制の不備などの課題が挙げられた。

これらの意見をもとに、今後観光において牟岐町が実施できる取り組みについて提案し、それぞれの取り組みについて説明した。

3. グループワーク

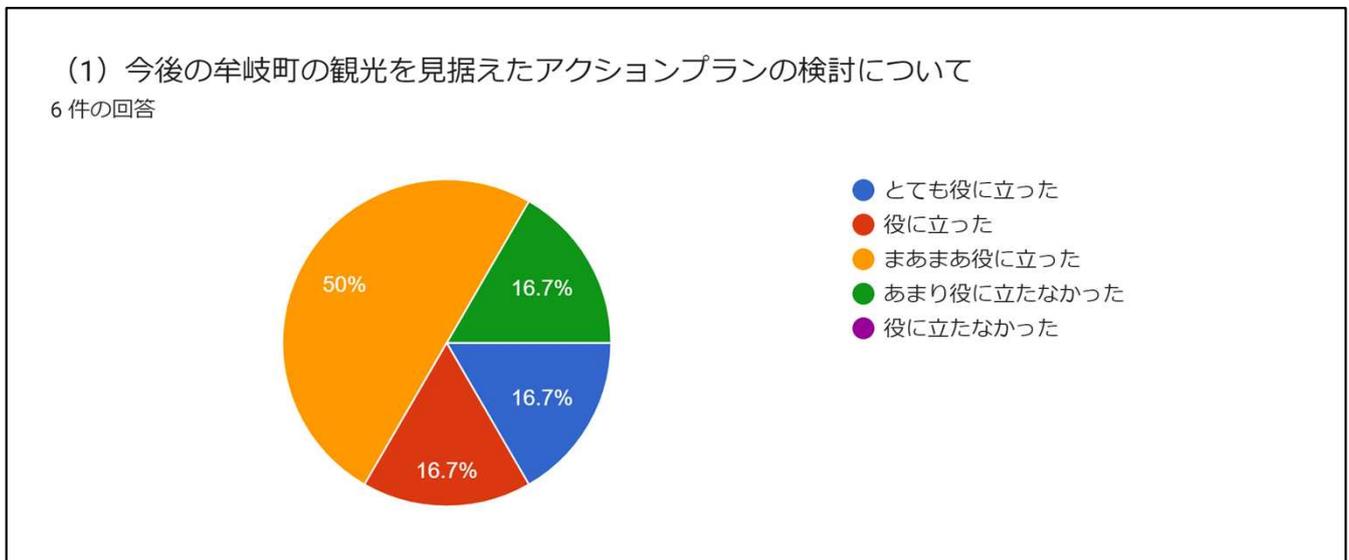
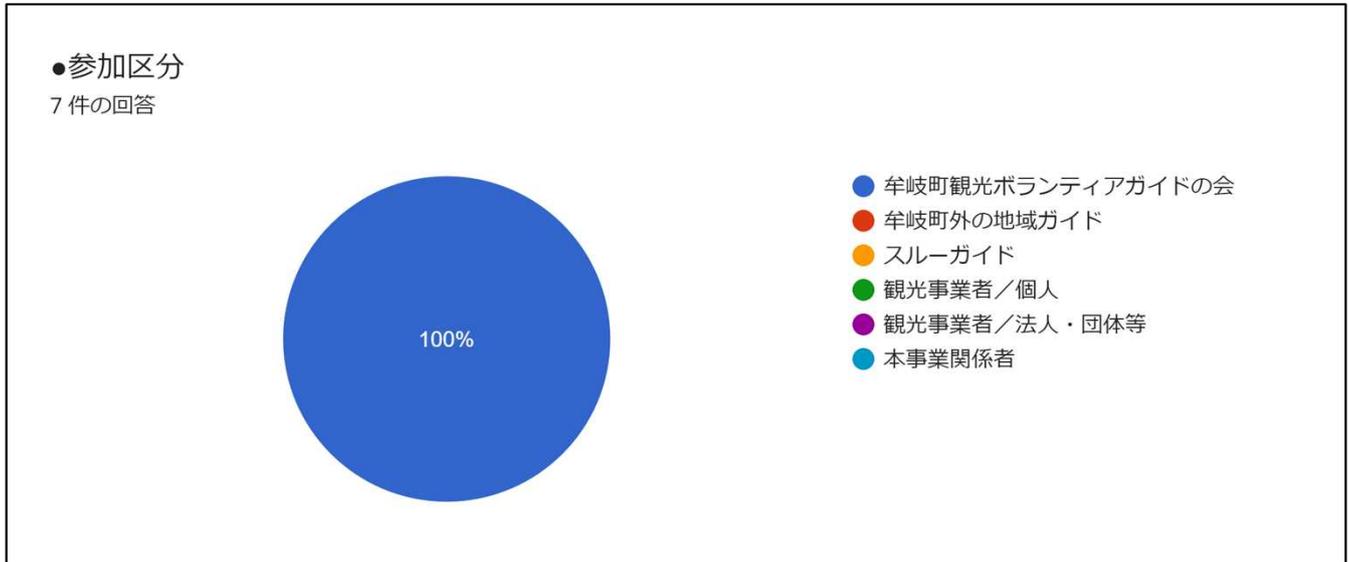
提案したアクションプランに対し、参加者それぞれの立場から実施できると思う取り組みの追加、それぞれの取り組みの優先度を検討し記入した。

4. 意見交換

グループワークにてそれぞれが優先だと考えた内容、また具体的な取り組みについて全体へ共有した。

- ・インバウンドに向けた牟岐町のコンテンツ造成（牟岐町観光ボランティアガイドの会 庄野 二六）
- ・情報交換の場づくり
- ・既存の行事やイベントの活用
- ・これまで実施している子ども向けの行事をコンテンツとして磨き上げ
（以上 牟岐町観光ボランティアガイドの会 津田 修一）
- ・牟岐町民に向けて牟岐町を理解してもらうための場づくり（牟岐町 産業課 課長補佐 一山 昌之）
- ・テーマを決めて、ツアーを作る（牟岐町観光ボランティアガイドの会 木本 千代子）
- ・子ども向けイベントの企画・実施（牟岐町観光協会 富田 恵理）

ワークショップ③ 参加者アンケートの結果

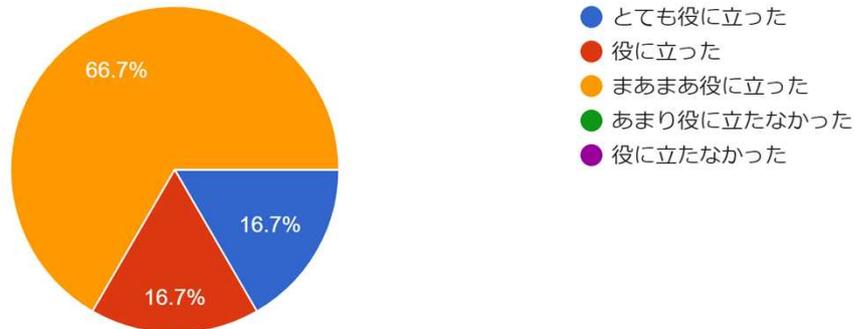


(2) 「(1)」について、特にそう感じた内容や理由について記入してください。

- 普段、いろいろな人から小出しに出てくる意見をまとめて文字にしてもらえたので、全体像をとらえることができた。
- ガイドについて学習しなくてはならないことが分かった。
- レベルの高い内容であった。
- 先ずは始めたことに大きな意義あり。
- 牟岐の目指す方向が具体化され（施策・取り組み）、それに向かって「進む道」が見えてきた。
- ターゲットをしぼること等
- 牟岐町に来てほしい来訪者を明確にする
- 国の方向性（プラン）と町（地域の独自性）を一致させて、それに沿った補助金等を生かすこと。

(3) グループワークについて

6件の回答



(4) 「(3)」について、特にそう感じた内容や理由について記入してください。

- 内容についていけない人もいて、議論は深まらなかったが、新しい発見も聞くことができた。
- インバウンドの対応についてや心構え
- 多種多様な意見・考えを伺うことは有意義
- 参加者の「熱い思い」が発表され、白熱していた。
- 講座内容について（ワークショップを含む）理解可能な年齢層の方々は、だいたい寡黙。

(5) ワークショップをうけて、ご自身の担当エリアにて対応すべき等、感じた点など、研修の参加前・後で気づきや変化があれば、ご記入ください。

- お客様のニーズを知ることが大切。
- 今、平和学習が必要だが、島の戦死者のことは知らせてもよいのでは。
- 外国のお客様への対応が、牟岐町でも課題となったこと。
- 牟岐町民を「巻き込む」必要性を強く感じた。
- 近隣エリアガイド、通訳案内士との連携

(6) その他、本テーマへのご質問・ご要望等ございましたらご記入ください。

- 通訳がいるのは安心だが、ガイドの中で通訳ができるのは1人だけ。牟岐町では何人いるか。
- 重伝建の説明（代表的なミセ造り、出格子、欄間などの文化）よりも、宿や食の準備が必要だと思う。
- 大島観光の準備すべきことは何か。
- 説明についていけないことが多々あった。
- 将来の方向性について話し合うには、もっと多様な資料を見て話し合うべきだと思う。基となる資料もないまま予算等を提示して、「どうでしょうか。」と問うのは時期早々かと思う。老後の余暇を楽しみながら町の何か役に立てたらというガイド会の考えも、時代の流れの中で分岐点に来ているのかもしれない。よりプロフェッショナルな人材がガイド会にも求められているのでは。

2. 事業内容

2-1-5. アクションプラン

JSTD-D調査及びこれまでに実施されたワークショップや会議等で参加者から出された意見をもとに、大きく4つの重点課題を設定した。

1. 観光人材の不足

事業者の連携が弱い、ガイドの人材不足など

2. 地域資源の未活用・活用不足

「牟岐町にしかない」という独自性・希少性が弱い、事業者の連携が弱い

3. 受入態勢の未整備

マナー・ルールの未整備・活用不足、来訪者向けの防災対策が不十分、事業者の連携が弱い

4. ブランディングや情報発信

観光開発の方向性が明確に定まっていない

これらの重点課題を解決するために、実現できる可能性の高い施策及び取り組みを検討し、アクションプランを作成した。

| 重点課題 (優先課題) | 関連する課題 | 担当事業 | 施策 | 取組の場 | 担当事業 | 担当事業 | 実施主体 | 実施期間(目安) | JSTD-Dの目標 | | | | |
|----------------|-------------------------|-----------------------------|---------------|-------|-----------|-------------|----------------|----------------|---------------|---------------|-----|---------------|---------------|
| 観光人材の不足 | 事業者の連携が弱い ガイド人材の不足 | 事業者間連携の強化・促進 ガイド人材の増加・維持 | 情報交換の場づくり | アウトカム | --- | 年次別、四国右下観光局 | 町内事業者、牟岐ふるさと会 | ~100万円 | R6年度(1年)内 | B 2 | ① | ネットワーク連携推進 | |
| | | | インバウンド対応ガイド育成 | アウトカム | 観光ガイド数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 年次別観光光 観光協会 | 501~1000万円 | R6年度(1年)内 | C 8 | ② | 観光資源の解説 |
| | | | 観光ガイド育成・研修 | アウトカム | 参加事業者数 | 年次別 | 年次別 | 年次別 | 501~1000万円 | R6~8年度(1~3年)内 | B 4 | ③ | エコツアーの推進 |
| | | | 観光ガイド育成・研修 | アウトカム | 参加事業者数 | 年次別 | 年次別 | 年次別 | 501~1000万円 | R6~8年度(1~3年)内 | C 7 | ④ | 文化遺産における継承の促進 |
| 地域資源の未活用・活用不足 | 「牟岐町にしかない」という独自性・希少性が弱い | 地域資源の観光資源化 「牟岐コンテラ」 | 歴史文化の活用 | アウトカム | コンテンツ達成数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | ~100万円 | R6年度(1年)内 | B 3 | ⑤ | 観光事業者の連携と公正取引 | |
| | | | 自然文化の活用 | アウトカム | コンテンツ達成数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 年次別 | 101~300万円 | R6年度(1年)内 | | | |
| | | | 自然の活用 | アウトカム | コンテンツ達成数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 年次別 | 101~300万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | | |
| | | | 防災の活用 | アウトカム | コンテンツ達成数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 年次別 | 101~300万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | | |
| | | | 防災の活用 | アウトカム | コンテンツ達成数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 年次別 | 101~300万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | | |
| | | | 防災の活用 | アウトカム | コンテンツ達成数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 年次別 | 101~300万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | | |
| | | | 防災の活用 | アウトカム | コンテンツ達成数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 年次別 | 101~300万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | | |
| | | | 防災の活用 | アウトカム | コンテンツ達成数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 年次別 | 101~300万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | | |
| | | | 防災の活用 | アウトカム | コンテンツ達成数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 年次別 | 101~300万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | | |
| | | | 防災の活用 | アウトカム | コンテンツ達成数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 年次別 | 101~300万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | | |
| 受入態勢の未整備 | 事業者の連携が弱い | 地域資源の観光資源化 「牟岐コンテラ」 | インバウンド誘客 | アウトカム | インバウンド誘客数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 101~300万円 | R6年度(1年)内 | | | | |
| | | | 観光客の誘客 | アウトカム | 観光客誘客数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 101~300万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | | | |
| | | | 観光客の誘客 | アウトカム | 観光客誘客数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 101~300万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | | | |
| | | | 観光客の誘客 | アウトカム | 観光客誘客数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 101~300万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | | | |
| ブランディングや情報発信 | 観光開発の方向性が明確に定まっていない | 地域資源の観光資源化 「牟岐コンテラ」 | 観光客の誘客 | アウトカム | 観光客誘客数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 101~300万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | | | |
| | | | 観光客の誘客 | アウトカム | 観光客誘客数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 101~300万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | | | |
| | | | 観光客の誘客 | アウトカム | 観光客誘客数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 101~300万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | | | |
| | | | 観光客の誘客 | アウトカム | 観光客誘客数 | 年次別 | 年次別観光光 観光協会 | 101~300万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | | | |

アクションプラン

重点課題1・2に対するアクションプラン

2. 事業内容

| 重点課題 (優先課題) | 関連する課題 | 目指す状態 | 施策 | 取り組み |
|-------------------|-------------------------|-------------------------|---------------------|--------------------|
| 観光人材の不足 | 事業者の連携が弱い | 事業者間連携の強化・促進 | | 情報交換の場づくり |
| | ガイド人材の不足 | ガイド人材の増加・維持 | 人材育成 | インバウンド対応ガイド育成 |
| | | | | 宿泊・飲食事業者向け研修 |
| | | | | 近隣エリアガイド・通訳案内士との連携 |
| 地域資源の未活用・活用不足 | 「牟岐町にしかない」という独自性・希少性が弱い | 地域資源の観光資源化 「牟岐コンテンツ」 | 歴史文化の活用 | 出羽島 |
| | | | | 年中行事：姫神祭 |
| | | | | お遍路文化 |
| | | | 食文化の活用 | 押し寿司、実生ゆず |
| | | | | 島そうめん |
| | | | 自然の活用 | 大島 |
| | 牟岐川 | | | |
| | | | 防災の取り組み | 防災街歩き |
| | | インバウンド誘客により、地域の誇りを高める | インバウンド誘客 | インバウンド対応ガイド育成 |
| | | | | 欧米豪市場に関するニーズ調査 |
| | | | | ターゲット市場・ターゲット像の設定 |
| モニターツアー・FAMツアーの実施 | | | | |
| 事業者の連携が弱い | 牟岐町の滞在時間を延ばす | ツアー開発 | 牟岐町宿泊込みのモデルコース作成 | |
| | | | 近隣エリアと連携したモデルコースの検討 | |
| | | 地域住民と来訪者が交流や消費拡大の場づくり | 牟岐の特産品や情報提供の場の整備 | モラスコむぎ |
| | | | 道の駅や産直市の整備 | |

重点課題2・3に対するアクションプラン

| 重点課題 (優先課題) | 関連する課題 | 目指す状態 | 施策 | 取り組み |
|------------------|---------------------|-------------------------|------------------|-------------------------------|
| 受入態勢の未整備 | マナー・ルールの未整備・活用不足 | 牟岐町に来てほしい 来訪者像を明確にする | 来訪者マナー・ルールの整備・活用 | 出羽島来訪者ルールの利活用 |
| | | | | 牟岐町来訪者ルールの検討・整備 |
| | 来訪者向けの防災対策が不十分 | 来訪者への防災対応に強い牟岐町 | 防災情報の整備と発信 | 避難誘導看板の改修 |
| | | | | 避難誘導マップの多言語表記 |
| 防災街歩き | | | | |
| 事業者の連携が弱い | | | 来訪者満足度調査の実施 | 来訪者アンケートの実施（通年） |
| ブランディングや 情報発信 | 観光開発の方向性が明確に定まっていない | 小さな町の強みを活かした観光開発 | 国内認証の活用 | 文化庁100年フード宣言：島そうめん |
| | | | | 伝統的建築物群保存地区：出羽島 |
| | | | 国際的な支援制度や認証の検討 | ベストツーリズムビレッジ（UNWTO）の検討 |
| | | | | 「世界の持続可能な観光地トップ100」（GD100）の検討 |

2. 事業内容

また、前項で提案した各取り組みについて、事業概算や実施時期の目安、JSTS-D指標に当てはまるものについて、現段階で想定できるものについて記載している。

| 取り組み | 指標 種別※ | 指標計測 手法 | 事業 概算 | 実施期間(目安) | JSTS-D指標 | |
|----------------------------|-----------|--------------|----------------|-------------------|----------|----------------------|
| 情報交換の場づくり | アウトカム | --- | ~100万円 | R6年度(1年)内 | B2 | ディーセント・ワークと雇用機会 |
| インバウンド対応 ガイド育成 | アウトプット | 観光ガイド数 | 501~1000 万円 | R6年度(1年)内 | C8 | 観光資源の開発 |
| 宿泊・飲食事業者 向け研修 | アウトプット | 参画事業者 数 | 501~1000 万円 | R6~8年度 (1~3年)内 | B4 | コミュニティへの支援 |
| 近隣エリアガイド・ 通訳案内士との 連携 | アウトプット | 参画者数 | 501~1000 万円 | R6~8年度 (1~3年)内 | C7 | 文化遺産における旅行者の ふるまい |
| 出羽島 | アウトプット | コンテンツ 造成数 | ~100万円 | R6年度(1年)内 | | 地域事業者の支援と公正 な取引 |
| 年中行事： 姫神祭 | アウトプット | コンテンツ 造成数 | 101~300 万円 | R6年度(1年)内 | | |
| お遍路文化 | アウトプット | コンテンツ 造成数 | | R6~8年度 (1~3年)内 | | |
| 押し寿司、実生 ゆず | アウトプット | コンテンツ 造成数 | | R6~8年度 (1~3年)内 | | |
| 島そうめん | アウトプット | コンテンツ 造成数 | | R6~8年度 (1~3年)内 | | |
| 大島 | アウトプット | コンテンツ 造成数 | | R6~8年度 (1~3年)内 | | |
| 牟岐川 | アウトプット | コンテンツ 造成数 | | R6~8年度 (1~3年)内 | | |
| 防災街歩き | アウトプット | コンテンツ 造成数 | ~100万円 | R6年度(1年)内 | | |

※アウトプット：事業直結の結果、成果物 等

アウトカム：事業結果・成果物（アウトプット）に関連する成果

前項続き

| 取り組み | 指標種別 | 指標計測手法 | 事業概算 | 実施期間(目安) | JSTS-D指標 | |
|---------------------|--------|---------------------|-----------|---------------|----------|--|
| インバウンド対応ガイド育成 | アウトプット | ガイド研修実施回数 ガイド育成数 | | R6年度(1年)内 | | |
| 欧米豪市場に関するニーズ調査 | アウトプット | ヒアリング数 | 101~300万円 | R6年度(1年)内 | | |
| ターゲット市場・ターゲット像の設定 | アウトプット | | ~100万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | |
| モニターツアー・FAMツアーの実施 | アウトプット | ツアー参加者数 ツアー実施回数 | 101~300万円 | R6年度(1年)内 | | |
| 牟岐町宿泊込みのモデルコース作成 | アウトプット | ツアー造成数 | ~100万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | |
| 近隣エリアと連携したモデルコースの検討 | アウトプット | ツアー造成数 | 101~300万円 | R6~8年度(1~3年)内 | | |
| モラスコむぎ | アウトプット | 交流・情報発信の拠点数 | 101~300万円 | | | |
| 道の駅や産直市の整備 | アウトプット | | 2001万円以上 | | | |

前項続き

| 取り組み | 指標種別 | 指標計測手法 | 事業概算 | 実施期間(目安) | JSTS-D指標 | |
|---|--------|----------------|---------------|-------------------|----------|--|
| 出羽島来訪者ルールの利活用 | アウトプット | 情報掲載媒体数 | | | | |
| 牟岐町来訪者ルールの検討・整備 | アウトプット | マナー・ルール策定数 | | | | |
| 避難誘導看板の改修 | アウトプット | 改修数 | | | | |
| 避難誘導マップの多言語表記 | アウトプット | 策定数 | | | | |
| 防災街歩き | アウトプット | 実施回数 参加者人数 | | | | |
| 来訪者アンケートの実施(通年) | アウトプット | アンケート回答数 | | | | |
| 文化庁100年フード宣言：島そ うめん | アウトカム | 来訪者数、 観光消費額 | ~100万円 | R6年度(1年)内 | | |
| 伝統的建築物群保存地区： 出羽島 | アウトカム | 来訪者数、 観光消費額 | ~100万円 | R6年度(1年)内 | | |
| ベストツーリズムビ レッジ (UNWTO)の 検討 | アウトカム | 来訪者数、 観光消費額 | 101~300 万円 | R6~8年度 (1~3年)内 | | |
| 「世界の持続可 能な観光地トッ プ100」 (GD100)の 検討 | アウトカム | 来訪者数、 観光消費額 | 101~300 万円 | R6~8年度 (1~3年)内 | | |

このアクションプランを用いて、ワークショップ③では、各取り組みの優先度や追加で実施した方がよいと思われる取り組みについて検討を行った。

2-2. 観光ガイド育成

2-2-1. 現地ヒアリング

(1) 調査目的

ガイド研修の実施に先立ち、ガイド研修講師の澄川恵津子氏とともに牟岐町を訪問し、現地ガイドの方に牟岐町を案内していただくことで、普段、国内旅行者に向けてどのようなガイドをされているのか理解するとともに、インバウンドに向けた案内をするうえで気を付けた方がよいポイントについて検討することを目的に現地ヒアリングを実施した。

(2) 調査概要

下記の日程で現地調査を実施した。

- 日時 : 令和6年1月14日（日）～16日（火）の2泊3日
- 実施方法 : 現地訪問による視察及び関係者ヒアリング

① 調査の参加・同行者

現地調査の同行者は下記の通りであった。

| 所属団体 | 部課 | 役職 | 氏名 | 備考 |
|------------------|--------------|-------------|--------|------------|
| 1. 連携先 | | | | |
| 牟岐町役場 | 産業課 | 課長補佐 | 一山 昌之 | |
| 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | | 会長 | 庄野 二六 | 1/14に参加 |
| | | | 原田 利宏 | 1/14に参加 |
| | | | 満石 高明 | 1/14・15に参加 |
| | | | 高松 静二 | 1/14に参加 |
| | | | 池田 千晶 | 1/14に参加 |
| むぎ青空プロジェクト | | | 井上 貴彦 | 1/15に参加 |
| 牟岐町教育委員会 | | | 葛谷 信也 | 1/15に参加 |
| 2. 事業主体 | | | | |
| 四国運輸局 | 観光部 国際観光課 | 課長 | 藤本 哲也 | 1/14・15に参加 |
| | | 係員 | 太田 圭一 | |
| 3. 受託事業者 | | | | |
| 全国通訳案内士 | | | 澄川 恵津子 | |
| リベルタ（株） | トラベル事業部 | 執行役員 | 林 美希子 | |
| | | トラベルコンサルタント | 横内 直子 | |

②現地ヒアリングの行程

2. 事業内容

以下の行程で現地ヒアリングを実施した。

| 日／曜日 | | 時間 | | 内容 |
|-------|---|-------|-------|--------------------------|
| | | IN | OUT | |
| 1月14日 | 日 | 10:00 | 13:00 | JR徳島駅→牟岐町 |
| | | 13:30 | 13:45 | 連絡船で出羽島へ移動 |
| | | 13:45 | 16:30 | 出羽島視察及びヒアリング |
| | | 17:00 | -- | 民宿まるわ宿泊（出羽島） |
| 1月15日 | 月 | 6:00 | 7:00 | 年中行事「左義長」見学 |
| | | 9:00 | 9:30 | チャーター船で大島へ移動 |
| | | 9:30 | 15:30 | 大島視察及びヒアリング |
| | | 15:30 | 16:00 | チャーター船で出羽島へ移動 |
| | | 16:30 | -- | 砂美かたやま宿泊（牟岐町内） |
| 1月16日 | 火 | 9:00 | 9:30 | 牟岐町役場にて一山氏とガイド研修に係る打ち合わせ |
| | | 9:30 | 12:00 | 海蔵寺周辺視察 |
| | | 12:00 | 14:00 | 牟岐町→JR徳島駅 |
| | | 17:00 | -- | 各自帰路へ |

③調査の様子



国指定天然記念物「シラタマモ」



野口雨情の歌碑



ミセ造りの家



自然災害伝承碑



出羽島津波避難マップ



天草を収穫していた頃の様子



民宿まるわ 田中氏へのヒアリング



左義長の様子

2. 事業内容

③ 調査の様子



チャーター船「第三金比羅丸」



海軍が駐在していたことを示す碑



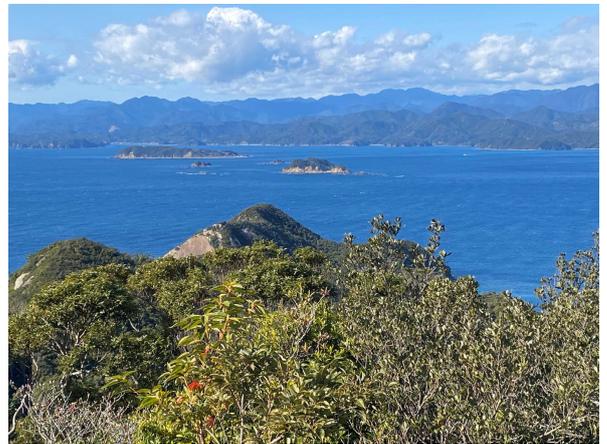
大島の夕チバナ自生地



夕チバナの実



防空壕



山頂からの眺め



地形の様子



砂浜の様子

③調査の様子



牟岐中学校側から海蔵寺へ向かう階段



天神社



観音堂



金刀比羅神社



海蔵寺の境内の様子



海蔵寺から牟岐町の眺め



南海地震の伝承碑



牟岐町防災サークルが作成した暗きよの標識

2-2-2. ガイドマニュアルの作成

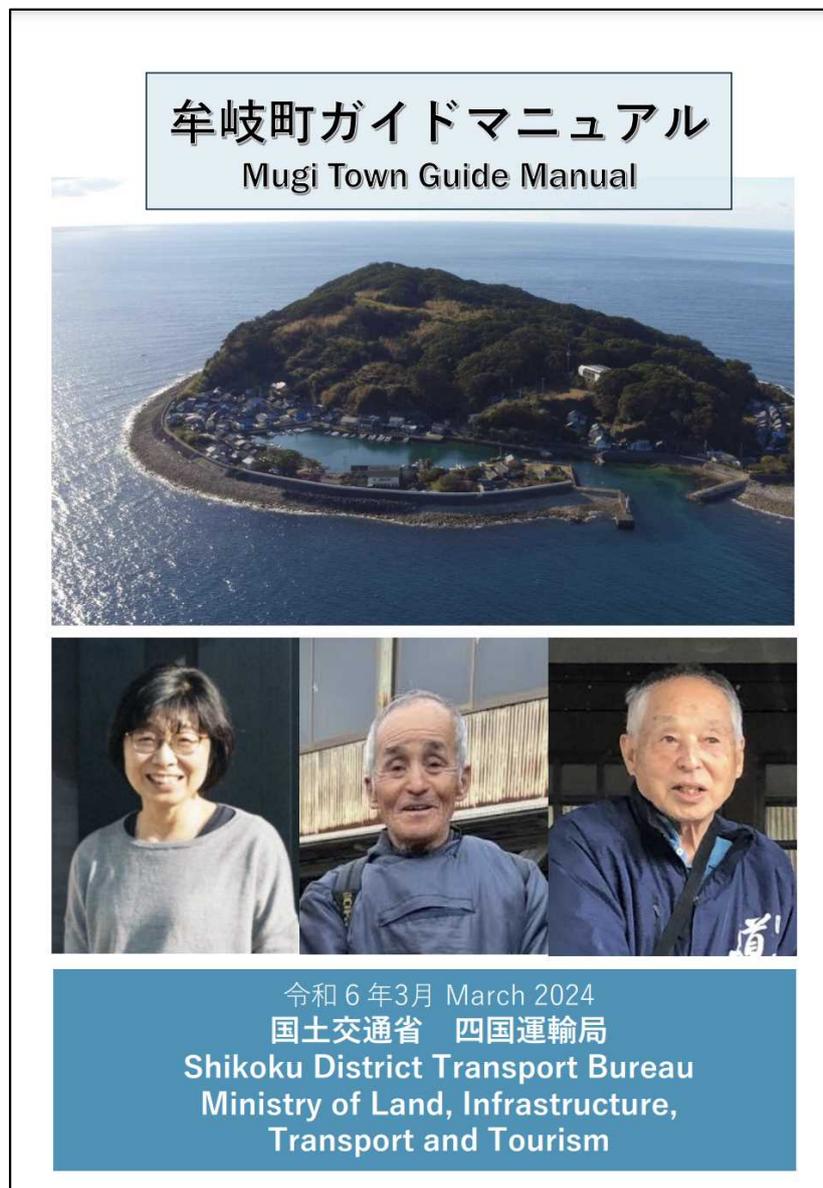
(1)目的

牟岐町について詳しくないガイドでも、国内外の観光客に町全体を案内できるようになること、次世代へのガイド技術を伝承することを目的としている。

(2)構成

これまでの現地調査の内容をふまえ、次項に示す構成にて日本語と英語の2か国語併記で作成した。牟岐町全体の説明、観光として訪れることのできるスポットの紹介に加えて、宿泊施設やレストランの情報、緊急時に備えて防災や医療機関に関する情報や連絡先などもまとめている。

ガイドマニュアル 表紙



ガイドマニュアル 目次

| 目次 | |
|--------------------|----|
| 1. 牟岐町の全体像 | |
| 1-1. 徳島県南部の特徴 | 7 |
| 1-2. 牟岐町の特徴 | 9 |
| -牟岐町の自然 | 11 |
| -牟岐町の歴史 | 13 |
| -年間行事 | 15 |
| -牟岐人の気質 | 19 |
| -牟岐人の一日の過ごし方 | 21 |
| 1-3. 日本の漁師町の特徴 | 23 |
| -牟岐の漁師町の特徴 | 24 |
| -人口、アクセス方法 | 25 |
| 2. 各スポットの詳細 | |
| 2-1. 牟岐町中心部 | 28 |
| -エリア概要 | 29 |
| -自然と歴史 | 30 |
| -有形・無形文化 | 32 |
| -食 | 35 |
| -アクティビティ | 37 |
| 2-2. 出羽島 | 38 |
| -エリア概要 | 39 |
| -自然と歴史 | 40 |
| -有形・無形文化 | 42 |
| -食 | 52 |
| -アクティビティ | 52 |
| -来訪者が守るべきルール・マナー | 54 |
| 2-3. その他の観光資源 | |
| -スポット | 55 |
| -有形・無形文化 | 59 |
| -アクティビティ | 62 |

| 目次 | |
|--|----|
| 3. 連携先 (自治体、観光協会、ローカルガイドなどに関する情報) … 63 | |
| 4. 宿泊施設・飲食店リスト … 64 | |
| 5. 交通機関 … 68 | |
| 6. 緊急時連携先 | |
| 6-1. 医療機関 | 70 |
| 6-2. 徳島県医療機関リスト(JNTOサイト検索結果) | 72 |
| 7. 事故・災害関連 | |
| 7-1. 警察、消防、その他 | 77 |
| 7-2. 避難マップ | 78 |
| 7-3. 避難誘導標識 | 80 |
| 8. 各国大使館連絡先 … 85 | |
| 別添 | |
| 四国について | |
| お遍路について | |

(3)内容

牟岐町について詳しくないガイドや訪日外国人客が本マニュアルを活用することを想定し、以下の要点を取り入れた内容とした。

「mugijin story」

牟岐町では、牟岐町という町を作ってきた「人」、もしくは作っている「人」を「牟岐人」(むぎじん)と表現することがある。これをもとに、現地にて牟岐町に住む方々から聞き取った個人の話を、「mugijin story」としてまとめ、ガイドマニュアルの中の関連する項目に記載した。主な内容としては、これまでの牟岐町での活動内容や牟岐町に対する思いなどを中心にまとめている。

mugijin story



防災士・牟岐町防災サークル代表
上田さん

私は牟岐町で生まれ育ちました。

私の父は16歳の頃に昭和南海地震に遭い、必死に逃げて命を取り留めました。そして、被災した経験を後世に伝えなければならないと、語り部として生涯にわたり活動をしていました。

そんな父の姿を幼いころから長年見ていた私自身も、防災に関して自然と意識をもつようになりました。

そして38年間にわたり徳島県内の小中学校にて教員として勤務したのち、退職を機に「牟岐町防災サークル」を立ち上げました。

現在は牟岐町防災サークル代表として、小中高校生や地域の仲間と「楽しく学ぶ防災」をコンセプトに活動しています。

活動の一つとして、牟岐町内にはいくつもの「暗きよ」があるのですが、津波が発生すると暗きよの下に水が入り込み、大変危険であることから、暗きよがあることを示す標識や町内の「暗きよマップ」を作成し、地域の方に知っていただけるよう取り組んでいます。

また、中高校生の居場所活動、不登校生の居場所活動、地域食堂、読み聞かせの会などのボランティアにも参加しています。

上田好美氏の例

POINT

ガイドや訪日外国人にとって馴染みの薄いと思われる固有名詞等については、「POINT」の欄にて説明している。

浜節句 (4月) Hama Sekku Festival (in April)
 浜節句は、4月3日に1ヶ月遅れで桃の節句を祝う伝統行事。昔は大人は重箱で、子どもは遊山箱に巻き寿司や天草で作った寒天を入れて砂浜や海岸へ行って、家族で子どもの成長を祝った。その日は漁師をはじめ、色々な仕事が行われていた。

Hama Sekku Festival is a traditional event to celebrate Peach Festival on April 3, a month later than the actual date.

In the old days, adults used to celebrate with jubako boxes, while children used to go to the beach or shore with sushi rolls, and agar snacks made of amakusa (a kind of seaweed) in a yusanbako, and families celebrated their children's growth together.

Fishermen's and many other jobs were closed on that day.



POINT
 > **遊山箱**：子どもたちが野山へ遊びに行くことを「遊山」と言い、遊山する子どもたちのための弁当箱を「遊山箱」と言う。大正時代から昭和戦前期によく使われていた。
 > **Yusanbako**: Children going out to play in the mountains is called "yusan," and a lunch box for children on a yusan excursion is called a "yusanbako. It was often used from the Taisho era (1912-1926) to the prewar period of the Showa era (1926-1989).

20

POINT
 > **左義長**：左義長（さぎちょう）とは、小正月を中心に行われる火祭り行事のこと。1月14日の夜または1月15日の朝に開かれることが多いが地域によっては1月7日に行われることもある。
 お正月に飾った松飾りなどを集めて焼いたり、餅や団子を食べたりするのが一般的。
 左義長の起源とされるのは、平安時代に行われていた「三穂杖（さぎちよう）」と呼ばれる宮中行事。三穂杖では正月遊びで使う「穂杖（ぎちよう）」という杖を3本立て、正月飾りやお札などと一緒に燃やしていた。宮中の習わしが民間にも伝わり、のちに左義長として広まったとされている。
 左義長にはいくつかの別名があり、「どんと焼き」もそのひとつ。全国各地に広まっている呼び方だが、東北では「どんと焼き」、関西では「どんと焼き」のように、微妙な違いが見られる。

"Sagicho (左義長)" is a fire festival event held mainly during the kashogatsu season, usually held on the night of January 14 or the morning of January 15, but in some regions it is held on January 7.

The origin of Sagicho is believed to be a court event called "Sagicho(三穂杖)" that was held in the Heian period (794-1185). In Sagicho, three sticks called "Gitcho," which were used in New Year's games, were set up and burned together with New Year's decorations, money and other items. It is said that the custom at court spread to the private sector and later became popular as Sagicho.

Sagicho has several aliases, and "Dondoyaki" is one of them. The name "Dondoyaki" is widely used throughout Japan, but there are subtle differences, such as "Dontoyaki" in the Tohoku region and "Tondoyaki" in the Kansai region.



出羽島の左義長
Sagicho
in Tebajima

19

宿泊施設・飲食店リスト

各事業者に聞き取りを行い、宿泊施設・飲食店リストを作成した。宗教等の理由による食事制限がある場合のための「ヴィーガン・ハラル対応」の有無や、決済方法、トイレ様式の情報などをまとめている。

4. 宿泊施設・飲食店リスト

| 宿泊施設 | 部屋タイプ | 部屋数 | トイレ和・洋 | 風呂タイプ | 英語対応 | VG/ハラル | 決済方法 | Wifi | 送迎(駅まで) | 駐車場 |
|--|-------|-----|--------|-------|-------|--------|-------|------|---------|-----|
| 民宿内妻荘 | 和室 | 9 | 洋 | 大浴場 | 翻訳機活用 | 可 | 現金のみ | 有 | 可 | 6台 |
| 住所：徳島県海部郡牟岐町大字内妻字丸山3 電話番号：0884-72-1674 チェックイン：15:00 チェックアウト：10:00 PR：新鮮な魚介類を使った夕食を提供 | | | | | | | | | | |
| 民宿まるわ | 一棟貸し | — | 洋 | 部屋付 | 不可 | 不可 | 現金のみ | 無 | 不可 | なし |
| 住所：徳島県海部郡牟岐町牟岐浦出羽島18-8 電話番号：0884-72-1484 チェックイン：連絡船運行時間内 チェックアウト：連絡船運行時間内 PR：出羽島の住民になったような感覚を味わえる民宿。系泊なので、自分のペースでゆっくりと島時間を満喫できる | | | | | | | | | | |
| 民宿しんきや | 和室 | 5 | 洋 | 大浴場 | 翻訳機活用 | 可 | 現金のみ | 有 | 可 | 20台 |
| 住所：徳島県海部郡牟岐町白木68-2 電話番号：0884-72-0788 チェックイン：15:00 チェックアウト：10:00 PR：新鮮な魚介類を自身で焼いて頂く、アツアツを召し上げて頂く海鮮料理（アツビ、サザエ、大アサリ、ホタテ、車海老、烏賊）がメイン | | | | | | | | | | |
| サーフイン内妻 | 和室 | 7 | 和 | 大浴場 | 不可 | 不可 | 現金のみ | 無 | 不可 | 有 |
| 住所：徳島県海部郡牟岐町内妻白木62-1 電話番号：0884-72-0733 チェックイン：15:00 チェックアウト：10:00 PR：近くにアオノカの絶好ポイント、お遊覧さんの接待所あり | | | | | | | | | | |
| 民宿うたな | 一棟貸し | — | 洋 | 部屋付 | 翻訳機活用 | 不可 | 電子決済可 | 無 | 不可 | なし |
| 住所：徳島県海部郡牟岐町大字牟岐浦字出羽島24-1 電話番号：090-2233-4767 チェックイン：連絡船運行時間内 チェックアウト：連絡船運行時間内 PR：予約制の1日1組限定。漁師が営む民泊型の体験宿泊施設出羽島港で港釣りができる。 | | | | | | | | | | |

64

| 飲食店 | 英語対応 | VG/ハラル | 決済方法 | トイレ和・洋 | Wifi | 駐車場 |
|---|-------|--------|-------|--------|------|-----|
| お好み焼きBOO | 翻訳機活用 | 不可 | 現金のみ | 和 | 無 | 有 |
| 住所：徳島県海部郡牟岐町大字中村字本村7-3 電話番号：0884-72-0244 営業時間：11:00-20:00 定休日：火曜日 PR：イカ・エビ・豚・餅など具材たくさん入ったミックス焼きがおすすめ | | | | | | |
| ポケット | 不可 | 不可 | 現金のみ | 洋 | 無 | 有 |
| 住所：徳島県海部郡牟岐町中村本村106-10 ポルト 電話番号：0884-72-3730 営業時間：10:30-14:00 (編み物LO. 13:30) (その他LO. 14:00) 定休日：第2水曜日 PR：イカカッパラーがおすすめ | | | | | | |
| うどん・カフェ真 | 翻訳機活用 | 不可 | 現金のみ | 洋 | 有 | 有 |
| 住所：徳島県海部郡牟岐町中村本村10-24 電話番号：0884-70-9099 営業時間：11:00-14:00(土日17:00まで) 定休日：木・金曜日 PR：カルパチーうどん、肉うどん、スイーツなど提供 | | | | | | |
| めん処なんねこ | 翻訳機活用 | 不可 | 電子決済可 | 洋 | 無 | 有 |
| 住所：徳島県海部郡牟岐町中村本村54-43 電話番号：090-6289-1851 営業時間：17:00-22:00 定休日：日曜日(祝日不定休) PR：E.C. 内科理中心の創作料理、コース料理など提供 備考：2月3日から休業 ※営業再開3月下旬頃 | | | | | | |
| 黒潮の味 屋形船 | 翻訳機活用 | 代用品で対応 | 現金のみ | 洋 | 無 | 10台 |
| 住所：海部郡牟岐町内妻122-1 電話番号：0884-72-1090 営業時間：11:00-20:00 定休日：不定休 PR：店内から、眼下に内妻海岸が一望できる | | | | | | |

66

事故・災害関連

2. 事業内容

事故や災害が発生した場合に備え、緊急連絡先などの情報を掲載するとともに、「暗きよ」に関する情報及び牟岐町防災サークルが作成した「暗きよマップ」についても説明している。

7. 事故・災害関連
7-1 警察、消防、その他



①警察：牟岐警察署
Police : Mugi Police Station
 電話番号/Phone : **0884-72-0110**
 住所 : 〒775-0006 徳島県海部郡牟岐町大字中村字山田2-1 2-1, Yamada, Nakamura, Mugi-cho, Kaifu-gun, Tokushima prefecture

②消防：海部消防組合本部 牟岐出張所
Fire Department : Kaifu Fire Department Headquarters Mugi Branch
 電話番号/Phone : **0884-72-0600**
 住所 : 〒775-0006 徳島県海部郡牟岐町大字川長字新光寺98-1 98-1, Shinko-ji, Kawatake, Mugi-cho, Kaifu-gun, Tokushima prefecture

徳島県防災・危機管理情報「安心とくしま」
Tokushima Prefecture Disaster Prevention and Crisis Management Information "Anshin Tokushim"

77

警察・消防に関する情報

7-3 避難誘導標識
(1) 牟岐町オリジナル標識
Mugi town original sign



暗きよ あんきよ/ankyō/culvert (drain)
暗渠注意
Warning
 デザイン：牟岐町防災サークル
 制作・設置：牟岐町

地下からの津波に注意!!
 Beware of TUNAMI from underground!!

暗きよとは、地下に設けられた外からは見えない水路のこと。牟岐町の中心部・東地区の街中には、暗きよが点在しています。Culverts are underground waterways that are not visible from the outside. The streets of Mugi Town's central and eastern districts are dotted with culverts.

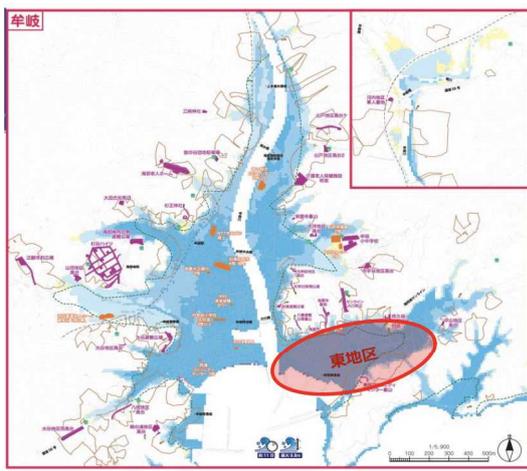
暗きよは、陸よりも早く津波が来襲するため大変危険です。やむを得ず、暗きよ付近を通って津波から避難する際は、地下からの津波にも注意が必要です。Culverts are very hazardous because tsunamis strike earlier than on land. If you have no choice but to evacuate from a tsunami through the vicinity of the culverts, you should also be aware of tsunamis from underground.

過去の津波災害の教訓を生かし、津波到来時の暗きよの被害を減らすため、牟岐町防災サークルの生徒たちが暗きよマークを考案しました。Drawing on lessons learned from past tsunami disasters, the students of the Mugi Town Disaster Prevention Circle devised a culvert mark to reduce damage to culverts when tsunamis arrive.

80

暗きよに関する説明1

東地区
Map of East District (Mugi Town).




Hazardous!!!
 危険!!!
 津波到来時の危険箇所

81

暗きよに関する説明2

東地区の暗きよマップ
Map of culverts in the East District (Mugi Town).



82

東地区の暗きよマップ

歴史等の情報について

本ガイドマニュアルにおける牟岐町に関する歴史や土地の情報については、連携先である牟岐町役場より教育委員会や関係者等へ内容の照会を行い、史実に基づいた情報をまとめている。

一自然と歴史 Nature and History

出羽島は江戸時代から漁業で栄え、幕末の民家を最古として明治から昭和初期にかけての建物が港を囲むように建てられており、伝統的な漁村集落の景観が現在もよく残っている。

最盛期は1930年ごろでカツオの漁場の発見により、島は多いにぎわった。島に入るとすぐ左に出羽島神社があるが、これは島の青年たちがカツオで栄えた漁場に感謝と繁栄を込めて建立されたものである。

牟岐町から連絡船でわずか15分という距離でありながら、出羽島でしか見られない自然がある。

その地理的特徴から、真冬でもエンドウが実を結び、熱帯植物がよく育つ。

遊歩道をたどると天然記念物シラタマモが自生する大池と出会う。

出羽島には伝統的な建築物が良く残り、集落拡大の移り変わりを示す歴史的な地割りと一体になって漁村集落はその価値を高く評価された。2017年2月には牟岐町出羽島が重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

Tebajima Island has prospered in the fishing industry since the Edo period. The oldest houses from the end of the Edo period and buildings from the Meiji to early Showa periods surround the harbor, and the traditional fishing village landscape is still well preserved today.

The island was at its peak around 1930, when the discovery of a bonito fishing ground made the island very lively. As soon as you enter the island, you will see Tebajima Shrine on the left, which was built by the young men of the island to express their gratitude and prosperity for the fishing grounds that flourished with skipjack.

Although only a 15-minute ferry ride from the town of Mugi, Tebajima Island offers nature that can only be found on the island.

Because of its geographical features, peas bear fruit even in the middle of winter and tropical plants grow well.

Following the boardwalk, one encounters a large pond where the natural treasure *shiratamamo* (white peach) grows wild.

Tebajima Island has well-preserved traditional architecture, and the fishing village community was highly praised for its value in combination with the historical site layout that shows the transition of the community's expansion. In February 2017, Tebajima Island of Mugi Town was selected as one of "Preservation Districts for Groups of Traditional Buildings."

4

出羽島の歴史

一牟岐町の歴史 History of Mugi

古牟岐（牟岐町にある地区の一つ）は今から140年ほど前に、この地から南東海上4,700mに浮かぶ大島より帰住した人々を主体として形成された集落が始まりである。牟岐町は、旧8ヶ村浦の合併により明治22年（1889年）、牟岐村となり、大正4年（1915年）、町制が実施され今日に至っている。

海部郡史（1927年）によると、「古牟岐は、明治初年、小島貞太郎なる者のみ住まって古牟岐の草切りであったが、21年の頃には、漸く三軒の家があったと言う。大島より来た漁夫は、漁事に鍛錬したる技術を有し、且つ勤勉に働いたので着々成功し、現今は、戸数40戸に達し、何れも裕福である。」と記されている。

人口は、昭和55年（1980年）には7,697人だったが、平成27年（2015年）には4,259人と30年間で3,438人の減少となっており、継続した人口減少傾向となっている。

（参考：阿波学会研究紀要、牟岐町人口ビジョン）

Furumugi (one of the districts in the town of Mugi) was formed 140 years ago, mainly by people who returned from Oshima Island, located 4,700 meters southeast of Mugi. The town of Mugi was formed by the merger of the former eight villages (including *ura*) in 1889, becoming Mugi Village. In 1915, it was granted town status, and remains as such to this day. According to *The History of Kaifu County* (1927), "In 1868, only a man named Sadataro Kojima lived in Furumugi, and it was a grass cutter. In 1888, three houses are said to have been there. The fishermen who came from Oshima Island were trained in fishing and worked diligently, so they steadily became successful. Today there are 40 households, all of them wealthy."

The population, which was 7,697 in 1980, has decreased by 3,438 over a period of 30 years to 4,259 in 2015, indicating a consistent trend of population decline.

(Reference: "Population Vision of Mugi Town" Research Bulletin of Awa Gakkai Society)

3

牟岐町の歴史

その他の内容

2. 事業内容

5. 交通機関連絡先

鉄道

- ◆ JR四国
電話番号: 0570-00-4592
営業時間: 8:00-19:00 (年中無休)
- ◆ JR牟岐駅
電話番号: 088-472-0069
営業時間: 5:30-21:00

QRコードからも発信できます→

バス

- ◆ 西日本ジェイアールバス株式会社 (阿波エクスプレス号)
電話番号: 0570-00-2424
営業時間: 10:00-19:00
- ◆ 徳島バス株式会社 (ドリーム阿南・徳島号)
電話番号: 088-622-1826
営業時間: 9:00-18:00

※徳島バスとJR/バスは徳島南部エリアにおいて、共同運行を行っています。

- ◆ JR四国 (徳島バス)
電話番号: 0570-00-4592
営業時間: 8:00-19:00 (年中無休)

連絡船

| 時刻表 | |
|---|--|
| 《牟岐港発》 7:00, 8:20, 11:10, 13:30, 16:00, 17:20 | 《出羽島発》 6:30, 7:25, 9:00, 12:20, 15:00, 16:35 |

- ◆ 出羽島連絡事業有限公司
電話番号: 088-472-2360

交通機関連絡先

6. 緊急連絡先

6-1. 医療機関

| | | | | | | | | | |
|-----------|-------------|---|----|---|---|---|---|---|---|
| 医療法人 竹林眼科 | 受付時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 祝 |
| | 9:00-12:30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 14:00-16:00 | | | | | | | | ○ |
| | 14:00-18:00 | ○ | 手術 | ○ | | ○ | | | |

診療科目: 糖尿病網膜症など眼底の病変 / アルルギー・ドライアイ相談 / コンタクトレンズ処方
住所: 徳島県海部郡牟岐町大字中村字本村149-9
電話番号: 0884-72-2323
休診日: 木曜日午後・日曜日・祝日

QRコードからも発信できます→

| | | | | | | | | | |
|-------------------------|--|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 徳島県立海部病院 (在宅療養支援診療所・病院) | 受付時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 祝 |
| | 8:00-11:30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | ※救命救急外来の受付は24時間 | | | | | | | | |
| | 診療科目: 内科 / 外科 / 整形外科 / 脳神経外科 / 産婦人科 / 小児科 / 耳鼻咽喉科 / 皮膚科 / 泌尿器科 / 専門外来 住所: 徳島県海部郡牟岐町中村本村95-1 電話番号: 0884-72-1166 休診日: 土曜日・日曜日・祝日・年末年始 | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|------------------------------|--|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 小牟医院牟岐駅前クリニック (在宅療養支援診療所・病院) | 受付時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 祝 |
| | 9:00-12:30 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 14:00-18:00 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | |
| | 診療科目: 内科 / 循環器科 / 胃腸科 / リハビリテーション科 / 小児科 住所: 徳島県海部郡牟岐町中村本村95-1 電話番号: 0884-72-3311 休診日: 火・土曜日午後・日曜日・祝日 | | | | | | | | |

医療機関連絡先

アクセス方法

●大阪から From Osaka

鉄道利用の場合 By train

新大阪駅 Shin-Osaka Station → 新幹線 Shinkansen → 岡山駅 Okayama Station (約45分 45min) → JR → 徳島駅 Tokushima Station (約2時間 2H) → JR → 牟岐駅 Mugi Station (約1時間20分 ~2時間 1H20-2H)

船利用の場合 By ferry

南海難波駅 Nankai Namba Station → 鉄道 Train → 和歌山港 Wakayama Port (約1時間 1H) → 南海フェリー Nankai Ferry → 徳島港 Tokushima Port (約2時間 2H) → JCBus → 徳島駅 Tokushima Station (約25分 25min) → JR → 牟岐駅 Mugi Station (約1時間20分 ~2時間 1H20-2H)

高速バス利用の場合 By highway bus

大阪 Osaka 難波 Namba → 高速バス Highway bus → 牟岐駅 Mugi Station (大阪~約5時間 難波~約5時間30分 From Osaka-SH From Namba-SH30)

関西空港 Kansai Airport 大阪 Osaka 難波 Namba → 高速バス Highway bus → 徳島駅 Tokushima Station (関西空港~約2時間45分 From Kansai Airport-2H45 大阪~約2時間45分 難波~2時間30分 From Osaka-2H45 From Namba-2H30) → JR → 牟岐駅 Mugi Station (約1時間20分 ~2時間 1H20-2H)

●京都・兵庫から From Kyoto/ Hyogo

高速バス利用の場合 By highway bus

京都 Kyoto → 高速バス Highway bus → 徳島駅 Tokushima Station (約3時間20分 3H20) → JR → 牟岐駅 Mugi Station (約1時間20分 ~2時間 1H20-2H)

神戸空港 Kobe Airport 新神戸 Shin-Kobe → 高速バス Highway bus → 徳島駅 Tokushima Station (神戸空港~約2時間30分 新神戸~約2時間 From Kobe Airport-2H30 From Shin-Kobe-2H) → JR → 牟岐駅 Mugi Station (約1時間20分 ~2時間 1H20-2H)

アクセス方法

3. 連携先 Contacts

牟岐町役場 産業課 Mugi Town Hall, Industrial Division

住所 address 〒775-8570 徳島県海部郡牟岐町中村本村7-4 7-4 Honson, Nakamura, Mugi-cho, Kaifu-gun, Tokushima

電話 TEL. 0884-72-3419

ウェブサイト website <https://www.town.tokushima-mugi.lg.jp/>
QRコードからアクセスする場合はこちら→

四国の右下観光局 The Lower Right of Shikoku

住所 address 〒779-2305 徳島県海部郡美波町奥河内井才天17-1 17-1 Okugawachibenzaiten, Minami-Cho, Kaihu-gun, Tokushima

電話番号 TEL. 0884-70-5880 (受付: 平日8時30分~17時15分) (Hours: 8:30 a.m. to 5:15 p.m. weekdays)

メール email migishita@shikokunomigishita.jp

ウェブサイト website <https://shikokunomigishita.jp/>
QRコードからアクセスする場合はこちら→

牟岐町観光協会 Mugi Town Tourism Association

住所 address 〒775-0001 徳島県海部郡牟岐町大字河内290 290 Kouchi, Mugi-cho, Kaifu-gun, Tokushima

電話番号 TEL. 0884-72-0065 (受付: 平日9~17時) (Hours: 9:00 a.m. to 5:00 p.m. weekdays)

メール email info@mugi-kankou.com

ウェブサイト website <https://mugi-kankou.com/>
QRコードからアクセスする場合はこちら→

牟岐町ボランティアガイドの会へガイドを依頼する場合は、こちらからお問い合わせください。(3日前までに要予約)
If you would like to request a guide from the Mugi Volunteer Guide Association, please contact from here. (Reservations required at least three days in advance)

連携先情報

2. 事業内容

8. 各国大使館連絡先（英語圏）

| アメリカ大使館（大阪-神戸米国総領事館） | |
|---|---|
|  | 住所：大阪府大阪市北区西天満2丁目11-5 米国総領事館ビル 電話番号：06-6315-5900 営業時間：9:00-12:00 / 13:30-15:30 定休日：土曜日・日曜日 |
| カナダ大使館 | |
|  | 住所：東京都港区赤坂7丁目3-38 電話番号：03-5412-6200 営業時間：9:00-17:30 定休日：土曜日・日曜日 |
| イギリス大使館 | |
|  | 住所：東京都千代田区一番町1 電話番号：03-5211-1100 営業時間：9:30-16:30 定休日：土曜日・日曜日 |
| オーストラリア大使館 | |
|  | 住所：東京都港区三田2-1-14 電話番号：03-5232-4111 営業時間：9:00-12:30 / 13:30-17:00 定休日：土曜日・日曜日 |
| ニュージーランド大使館 | |
|  | 住所：東京都渋谷区神山町20-40 電話番号：03-3467-2271 営業時間：10:00-16:00 定休日：土曜日・日曜日 |

各国大使館連絡先

別添

四国について
香川・愛媛・徳島・高知の4県をまとめた名称。瀬戸内海や太平洋に囲まれ、中央をほぼ東西に四国山地が走る。
全世界シェア25%を誇る英語の旅行ガイドブック「ロンリープラネット」が、四国を「あまり知られていない日本の宝」と評したこともあり、インバウンド客から四国への注目度が近年高まってきている。

【四国の観光情報リンク先】

- 四国ツーリズム創造機構 四国4県の観光に関する情報が掲載されている。



- 各県による観光情報

| | | | |
|---|---|---|---|
| 徳島県 | 香川県 | 愛媛県 | 高知県 |
|  |  |  |  |

別添 四国・お遍路について

6-2. 徳島県医療機関リスト（JNTOサイト検索結果）

| 医療機関名 | 住所 | 電話番号 | ウェブサイト |
|-----------------|-------------------------------|--------------|--|
| 徳島大学病院 | 〒770-8502 徳島県徳島市東町1丁目10-3 | 089-431-7151 | https://gh.pref.tokushima.jp/central/ (日本語) |
| 徳島県立三好病院 | 〒779-8503 徳島県三好市油井町1-2 | 0883-72-1131 | https://gh.pref.tokushima.jp/miyoshi/ (日本語) |
| 徳島県立美波病院 | 〒779-0006 徳島県美波郡美波町大字中野町256 | 0884-72-1166 | https://gh.pref.tokushima.jp/kaiji/ (日本語) |
| 松本病院 | 〒770-0044 徳島県徳島市東町4丁目8番地1 | 089-432-3328 | http://www.matsunaga-hp.jp (日本語) |
| 徳島大学病院 | 〒770-8503 徳島県徳島市東町2丁目50-1 | 089-431-3111 | https://www.tokushima-hosp.jp/ (日本語) https://www.tokushima-hosp.jp/en/ (英語) |
| 徳島県立病院 | 〒772-8503 徳島県徳島市東町南島町1-12-2 | 089-483-0011 | https://nanbu-hp.jp (日本語) |
| いい徳科 | 〒779-0002 徳島県三好市油井町1-2516-1 | 0883-72-5480 | |
| 高松市立総合医療センター | 〒770-8070 徳島県高松市八万町寺山19番地2 | 089-668-1070 | http://kyoritsu-hp.jp (日本語) |
| たむぎ歯科 | 〒772-0006 徳島県徳島市東町14-3 | 0895-32-8840 | http://www.usator-dental.com/ (日本語) |
| 大塚歯科医院はなみろクリニック | 〒770-0832 徳島県徳島市東町東2-19 | 089-432-8787 | http://kyoritsu-jika.com (日本語) |
| たむぎ歯科 | 〒779-3202 徳島県美波郡美波町高野町105 | 089-674-9393 | http://kaedentalclinic.com/ (日本語) |
| 北谷デンタル | 〒770-0112 徳島県徳島市東町二番町2-15 | 089-432-6811 | |
| たむぎ歯科 | 〒779-3400 徳島県吉野川市山崎町1212-6 | 0893-42-5520 | http://sakura-sakura.jp (日本語) |
| たむぎ歯科 | 〒779-3125 徳島県徳島市東町東町北山1-9番地1 | 089-442-5050 | https://tamaki-across.me.jp (日本語) |
| 徳島デンタルクリニック | 〒773-0001 徳島県徳島市東町東町八幡113-1 | 089-684-3171 | http://www.tamaki-dental.com/ (日本語) |
| 徳島歯科クリニック | 〒770-0807 徳島県徳島市東町1丁目181-279 | 089-452-8116 | http://www.tsubakihara-dental.jp (日本語) |
| 徳島歯科大学病院 | 〒772-8502 徳島県徳島市東町東町1丁目1213番 | 0895-32-2555 | http://www.tokushima-med.jrc.or.jp (日本語) |
| 徳島歯科大学 | 〒792-0953 徳島県徳島市東町東町2丁目20番2号 | 089-687-1234 | http://www.kyujinai.mc.jp (日本語) |
| 花川デンタルクリニック | 〒770-0046 徳島県徳島市東町東町1丁目1018-2 | 089-431-5561 | http://hanakawa-dentals.com/ (日本語) |
| 徳島歯科クリニック | 〒779-8502 徳島県美波郡美波町東町48番地 | 089-679-4618 | https://yamaki.com/clinic/tonyoyou-4/ (日本語) |
| 徳島歯科クリニック | 〒779-3502 徳島県徳島市東町東町1丁目139-2 | 089-53-8211 | http://www.tsubakihara-dental.com/ (日本語) |
| 松本歯科クリニック | 〒771-1311 徳島県徳島市東町東町北山115番地4 | 089-593-3525 | http://www.matsunaga-dental.com (日本語) |
| 松本歯科 | 〒770-0807 徳島県徳島市東町東町1丁目1213番地 | 089-452-9259 | http://www.matsunaga-dental.com (日本語) |
| 山崎歯科 | 〒770-0844 徳島県徳島市東町東町2丁目31 | 089-452-4843 | http://www.yamada-introduction.com (英語) |
| 吉川歯科 | 〒771-0212 徳島県徳島市東町東町東町276番地1 | 089-699-5355 | http://www.yaguchi.jp (日本語) |

緊急連絡先（JNTO 徳島県医療機関リスト）

A list of medical institutions, Tokushima

| Medical Institutions | Address | Tel | WEB Site |
|---------------------------------------|--|---------------|---|
| Tokushima Prefecture Central Hospital | 1-10-3, Kuramoto-cho, Tokushima-shi, Tokushima, 770-8509 | 089-631-7151 | https://gh.pref.tokushima.jp/central/ (Japanese) |
| Tokushima Prefecture Miyoshi Hospital | Shimo 211-2, Kato-cho, Miyoshi-shi, Tokushima, 779-8503 | 089-721-1131 | https://gh.pref.tokushima.jp/miyoshi/ (Japanese) |
| Tokushima Prefecture Kaiji Hospital | Shimoji 202, Nishimura, Magi-cho, Kaiji-gun, Tokushima, 770-0046 | 0884-721-1166 | https://gh.pref.tokushima.jp/kaiji/ (Japanese) |
| Matsunaga Hospital | 4-4-1, Minamimachi, Tokushima-shi, Tokushima, 770-0040 | 089-432-3328 | http://www.matsunaga-hp.jp (Japanese) |
| Tokushima University Hospital | 2-5-1, Kuramoto-cho, Tokushima-shi, Tokushima, 770-8503 | 089-431-3111 | https://www.tokushima-hosp.jp (Japanese) https://www.tokushima-hosp.jp/en/ (English) |
| Tokushima Prefecture Nanbu Hospital | Kotoji 22, Hoto-cho, Nanbu-shi, Nanbu-shi, Tokushima, 779-8502 | 089-682-0011 | https://nanbu-hp.jp (Japanese) |
| Denrai Clinic | Machi 251-4-1, Nishi-cho, Miyoshi-shi, Tokushima, 779-8002 | 089-672-5480 | |
| Kyoritsu Hospital | 13-2, Toyonaka, Hachiman-cho, Tokushima City, Tokushima Prefecture, 770-8070 | 089-668-1070 | http://kyoritsu-hp.jp (Japanese) |
| USATOR DENTAL CLINIC | 16-3, Yonashi-cho, Komatsushima-shi, Tokushima, 773-0006 | 0895-32-8840 | http://www.usator-dental.com (Japanese) |
| Ugaki Clinic Ear Nose and Throat | 2-13, Toyohime-honcho-higashi, Tokushima-shi, Tokushima, 779-3202 | 089-622-8787 | http://ugaki-jika.com (Japanese) |
| Kaede Dental Clinic | 103, Takasaka-cho, Miya-gun, Tokushima Prefecture, 779-3202 | 089-674-9393 | https://kaedentalclinic.com (Japanese) |
| Kiseki Dental Clinic | 2-15, Kiseki Nibancho, Tokushima-shi, Tokushima, 770-0112 | 089-633-6811 | |
| Sakura Clinic | 212-2, Yamakawa-cho Mengae, Toyohime-shi, Tokushima, 779-3403 | 089-442-5520 | http://www.sakura-jc.jp (Japanese) |
| Tamaki Dental Hospital | 90-1, Kikashima, Hachioji, Kikashi-cho, Tokushima City, Tokushima Prefecture, 779-3125 | 089-642-5050 | https://tamaki-across.me.jp (Japanese) |
| Tsubaki Dental Clinic | Yakataji 113-1, Nijyo-cho, Kurasaki, Nanbu-shi, Tokushima, 772-0001 | 089-684-3171 | http://www.tsubaki-dental.jp (Japanese) |
| Tsubaki Dental Clinic | 1-215, Nakamuro-cho, Tokushima-shi, Tokushima, 770-0807 | 089-652-8116 | http://www.tsubaki-hara-dental.jp (Japanese) |
| Tokushima Medical Center Hospital | Shimouchi 103, Komatsushima-cho, Komatsushima-shi, Tokushima, 779-8502 | 0895-32-2555 | http://www.tokushima-med.jrc.or.jp (Japanese) |
| Nanyo Yamahara Hospital | Kakunoji 200-24, Nanyo-cho, Itoyadomaru, Nanbu-shi, Tokushima, 792-0053 | 089-687-1234 | http://www.yaguchi-mc.jp (Japanese) |
| Hanabishi Orthodontic Clinic | 1-58-2, Akai-cho, Tokushima-shi, Tokushima, 770-0046 | 089-633-5661 | http://hanabishi-ortho.com (Japanese) |
| Tokushima Yonoyachi KY Dental Clinic | 8E, Yonoyachi, Tokushima-shi, Tokushima, 779-8006 | 089-676-4618 | https://yonoyachi.com/clinic/tonyoyou-4/ (Japanese) |
| Yoshikawa Dental Clinic | Shimomura 135-2, Wakamachi Oka nohe, Mima-shi, Tokushima, 779-3602 | 0893-53-8211 | http://www.yoshikawa-dental.com (Japanese) |
| Matsunaga Dental Clinic | Mitsunuma 135-1, Toyonaka, Aomori-cho, Ito-gun, Tokushima, 771-1211 | 089-693-3525 | http://www.matsunaga-dental.com (Japanese) |
| Matsunaga Dental Clinic | 4-4-1, Minamimachi-cho, Tokushima-shi, Tokushima, 770-0040 | 089-432-9259 | http://www.matsunaga-dc.com (Japanese) |
| Yamada Eye Clinic | 2-31, Nakatomachi, Tokushima-shi, Tokushima, 770-0844 | 089-625-4843 | http://www.yamada.com (Japanese) http://www.yamada-introduction.com (English) |
| Yoshikawa Hospital | Sumo 278-6, Nakaguni, Matsuyagi-cho, Ito-gun, Tokushima, 771-0203 | 089-699-5355 | http://www.yaguchi.jp (Japanese) |
| Yoshikawa Clinic | 277-1, Yamakawa-cho Yuden, Toyohime-shi, Tokushima, 779-3404 | 089-336-1850 | http://2020187@doc.jp/yoshikawaclinic (Japanese) |
| Wakabayashi Clinic | 2-7-3E, Akai, Tokushima-shi, Tokushima, 770-0801 | 089-652-0417 | http://www.wakabayashi-clinic.info (Japanese) |
| YAGUCHI Dental Clinic | 58, Kamigata-cho Komatsushima, Toyohime-shi, Tokushima, 776-0010 | 0893-24-2330 | |

緊急連絡先（JNTO 徳島県医療機関リスト・英語）

2-2-3. 人材育成プログラム（ガイド研修）

(1)実施目的

現地ヒアリング及び視察を通して把握した実態をもとに、牟岐町を今後ガイドする可能性のある方々へ向けて、現地ガイドの重要性やインバウンドに向けて牟岐町をガイドする際に気を付けるポイント、牟岐町の防災への取り組みについて伝えることを目的にガイド研修を実施した。

(2)実施概要

全3回にわたり、下記の日程でガイド研修を実施した。

ガイド研修①

- 日時 : 令和6年1月31日（水）
- 内容 : 全国通訳案内士 澄川恵津子氏による日本語ガイド向け研修

ガイド研修②

- 日時 : 令和6年1月31日（水）
- 内容 : 全国通訳案内士 澄川恵津子氏による出羽島での実地研修

ガイド研修③

- 日時 : 令和6年2月1日（木）
- 内容 : 牟岐町防災サークル代表 上田好美氏による牟岐町内での実地研修

ガイド研修案内

徳島県牟岐町における持続可能な観光地への現状・課題調査及び観光ガイド育成事業

ガイド研修

2024年1月31日（水）・2月1日（木）

研修1 日本語ガイド向け研修 1月31日（水）9:30～12:00

| 時間 | 内容 | 会場 |
|-------------|---|------------------------|
| 9:30～9:35 | はじめに | 牟岐町の総合文化センター 1F大集会室 |
| 9:35～9:40 | 諸連絡 リベルタ株式会社 | |
| 9:40～11:30 | 基礎研修 講義①「外部から見た、現地ガイド（語り部）の重要性と連携のあり方について」 講義②「インバウンド対応のポイント」 質疑応答、意見交換、アンケート記入 | |
| 11:30～11:55 | 閉会 | |
| 12:00 | | |

研修2 実地研修（出羽島） 1月31日（水）13:30～17:00

| 時間 | 内容 | 会場 |
|-------------|-------------------|-----|
| 13:30～13:45 | 牟岐港より連絡船に乗船、出羽島へ | 出羽島 |
| 13:45～16:00 | 出羽島の街歩き、ガイド研修 | |
| 16:00～16:20 | 徒歩で牟岐港へ | |
| 16:30～16:45 | 出羽島港より連絡船に乗船、牟岐港へ | |
| 17:00頃 | 牟岐港着、終了 | |

講師紹介 全国通訳案内士 **澄川 恵津子氏**

東京都在住。大学卒業後、JTBにリクルー添乗員として9年間従事。その後、全国通訳案内士として全国各地を案内するガイド業を展開。コロナ禍には医療通訳の資格も取得し、現在はツアー中の対応にもその知識を活かしている。観光庁主催「地方部ガイド育成」に関する事業にも携わり、地方部の英語ガイド育成講師の経験も豊富であり、地域の人の魅力を伝えるスルーガイドとして全国津々浦々を飛び回っている。

研修3 実地研修（町内中心部） 2月1日（木）9:00～12:00

| 時間 | 内容 | 会場 |
|-------------|---------------------|------|
| 9:00 | 牟岐町役場に集合 | 牟岐町内 |
| 9:00～11:30 | 町内散策、防災への取り組みについて説明 | |
| 11:30～11:50 | 意見交換 | |
| 12:00 | 終了 | |

講師紹介 牟岐町防災サークル代表 **上田 好美氏**

牟岐町出身。防災士。徳島県内の小中学校に38年間勤務し、現在母校の臨時教員を週2日勤めるかたわらボランティア活動を行っている。牟岐町防災サークル代表として、小中高生や地域の仲間と「楽しく学ぶ防災」をコンセプトに6年前から活動している。中高生生の居場所活動、不登校生の居場所活動、地域食堂、読み聞かせの会などのボランティアに参加している。

↓研修終了後、こちらよりアンケートへの回答をお願いいたします

研修1 日本語ガイド向け研修 **研修2 実地研修（出羽島）** **研修3 実地研修（町内中心部）**





(3)参加者

| | 区分 | 氏名 | 読み | 所属 | ガイド研修① | ガイド研修② | ガイド研修③ |
|----|--------|--------|-----------|------------------------------|--------|--------|--------|
| 1 | 牟岐町 | 庄野 二六 | しょうの にろく | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ | ○ |
| 2 | 牟岐町 | 原田 利宏 | はらだ としひろ | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 牟岐町 | 池田 千晶 | いけだ ちあき | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ | ○ |
| 4 | 牟岐町 | 岡田 光代 | おかだ みつよ | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ | |
| 5 | 牟岐町 | 満石 高明 | みついし たかあき | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ | ○ |
| 6 | 牟岐町 | 津田 修一 | つだ しゅういち | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ | |
| 7 | 牟岐町 | 小栗 泰子 | おぐり やすこ | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ | ○ |
| 8 | 牟岐町 | 木本 千代子 | きもと ちよこ | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | | |
| 9 | 牟岐町 | 川辺 秀年 | かわべ ひでとし | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ | |
| 10 | 徳島市 | 坂東 悠希 | ばんどう ゆうき | 全国通訳案内士 | ○ | ○ | ○ |
| 11 | 連携先 | 一山 昌之 | いちやま まさゆき | 牟岐町産業課 課長補佐 | ○ | ○ | ○ |
| 12 | 連携先 | 藤井 康弘 | ふじい やすひろ | 四国の右下観光局 事務局長 | ○ | ○ | |
| 13 | 連携先 | 勝瀬 智史 | かつせ ともり | 四国の右下観光局 | | | ○ |
| 14 | 事業実施主体 | 福池 愛 | ふくいけ あい | 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 係長 | オンライン | | |
| 15 | 事業実施主体 | 武市 琉来 | たけいち るく | 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 係員 | オンライン | | |
| 16 | 事業実施主体 | 藤本 哲也 | ふじもと てつや | 四国運輸局 観光部 国際観光課 課長 | オンライン | | |
| 17 | 事業実施主体 | 太田 圭一 | おおた けいいち | 四国運輸局 観光部 国際観光課 係員 | | ○ | ○ |
| 18 | 事業実施主体 | 立石 奈津美 | たていし なつみ | 四国運輸局 観光部 国際観光課 係員 | | ○ | ○ |
| 19 | 受託事業者 | 林 美希子 | はやし みきこ | リベルタ株式会社 執行役員 シニアトラベルコンサルタント | ○ | ○ | ○ |
| 20 | 受託事業者 | 横内 直子 | よこうち なおこ | リベルタ株式会社 トラベルコンサルタント | ○ | ○ | ○ |

(4)実施内容

ガイド研修①

ガイド研修①では、全国通訳案内士である澄川恵津子氏を講師に招き、研修を実施した。研修は2部構成となっており、1部では現地ガイドの重要性について、2部ではインバウンド対応のポイントについて講義をしていただいた。

講義「外部から見た、現地ガイド（語り部）の重要性と連携の在り方について」

現地ガイドの重要性について

全国通訳案内士として、訪日外国人を日本各地へ案内する際、なぜ現地ガイドの方が必要かという、単なる道案内ではなく、その土地の価値ある「何か」を私たちに教えてくれる存在だからである。

徳島駅には牟岐町に関するパンフレットが置かれており、スマートフォンを用いれば牟岐町に関する情報がある程度入手することができる。しかし、海外から来られたお客様が、この情報をもとに牟岐町を訪れて感動するかという、そうではないと感じる。やはり、現地ガイドの生の声が必要なのである。

インバウンド対応のポイント

①できるだけ独自の固有名詞は避ける

幕末、彰義隊、新政府と言われても、海外の方は分からない。

徳川家康と言っても、誰だか分からない方が多い。

徳川家康の説明をするのであったとしても、「有名なサムライ」程度に留めるのがよい。

もし何度も説明に出てくるような重要な人であれば、一枚写真を見せると記憶に残りやすい。

②共通点を探す

例えば海外では趣味で釣りをする人が多い。日本列島は海で囲まれているので色々な種類の魚が釣れる。

またはインドからのお客様であれば、町内にある「フレッシュベーカーリーふくまつ」のカレーパンの話題を出してもよい。

共通点をまず探すというのも一つのお客様の興味を引くポイントである。

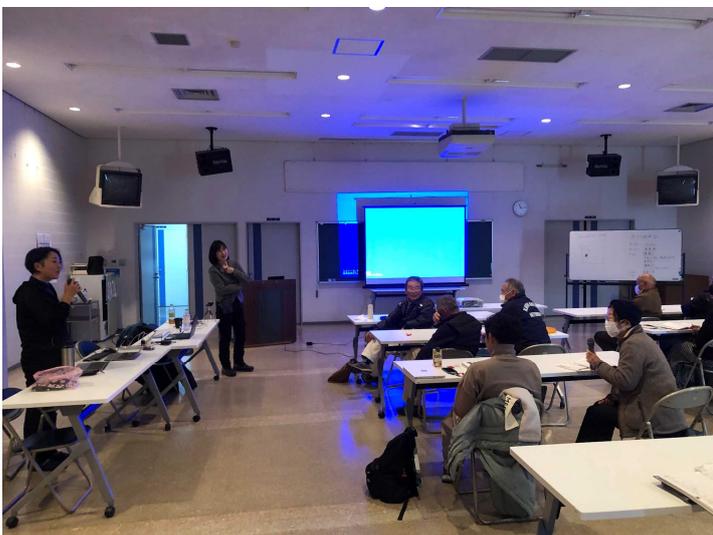
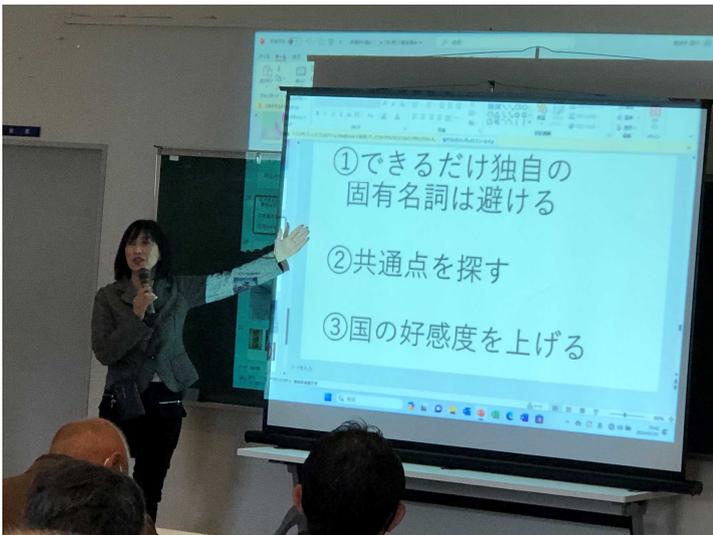
③国の好感度を上げる

これは日本と、お客様の国のこと。

②のように共通点を探すところから始め、例えばオーストラリアから来られたお客様であれば、「コアラのマーチ」を紹介する。そして、日本の子どもの好きなお菓子第1位になったことがあると伝えると、いやな気持ちになることはないだろう。このように相手の国へのリスペクトや、好感をもっていることなどを伝えることが大切である。

ガイド研修①の様子

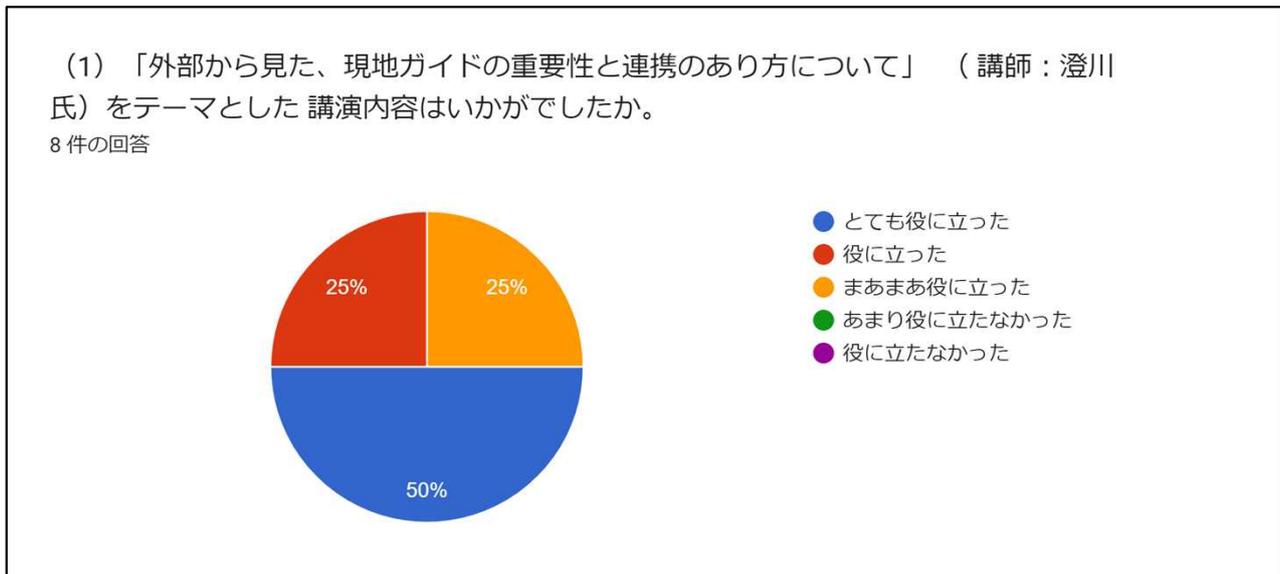
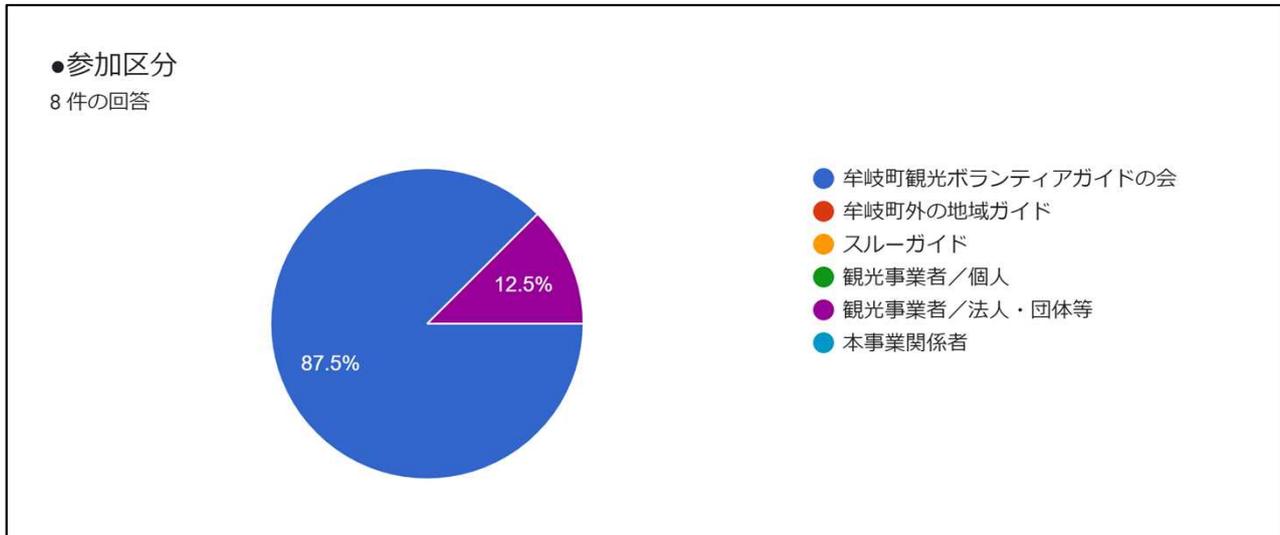
2. 事業内容



参加者アンケート結果

ガイド研修①について

※アンケートはGoogleフォームを使用

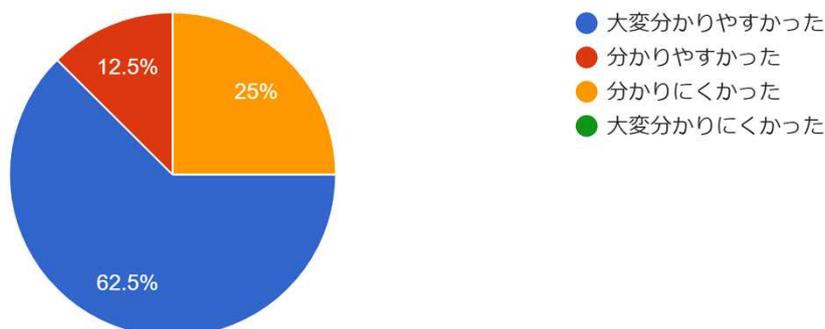


(2) (1)の解答理由

- 実体験を基に様々な事例を聞いたから。
- お客さんが求めている物を、自分の引き出しから出してコミュニケーションを大事にして、体験などを話していくことがいいガイドになることを聞くことができたから。
- 現地ガイドの存在意義が大きいことが分かったから。理由として、パンフレット等の事前情報は頭に残らない。地域の多くの情報をお伝えし、お客様の未知の事柄を知るお手伝いをし、地域のステキを共感いただけることが大切。
- 現地ガイドの重要性に対し、説得力のある内容だった。
- 話題が豊富でついつい引き込まれた。
- 外部の人から見た牟岐町の感覚を知ることができた。
- 外から見た重要伝統的建造物群保存地区への関心などが分かった。
- 講演内容があまりにも、自分たちガイドの目的と離れているように感じた。

(3) 講義の内容はわかりやすかったですか。

8件の回答



(4) (3)の解答理由

- 実体験を基に様々な事例を聞いたから。
- 体験など話していただいたのでよく理解できた。
- 具体的事例を話してくださり、「お客様が何を知りたがっているのか」、コミュニケーションの大切さを再認識することができた。
- 資料が見やすく説明が面白かったため。
- 講演内容が十分理解できなかった。

(5) 講演を受けて、自身の担当エリアにて対応すべき等、感じた点など、研修の参加前・後で気づきや変化など

- 講演内容は理解・共感できたが、それをこの地域でどう体制づくりできるは大きな課題。
- 重要伝統的建造物群保存地区の価値をもっと勉強しなければいけないと感じた
- 日本人と外国の方の感性の違いについて。そのグループに応じて、より分かりやすく伝える。
- 聞く力をつける。
- 現地でのガイド活動時、開始前と終了時の手続き作業の大切さ。
- 開始時の自己紹介により、お客様の興味・関心把握とガイドの意向の伝達。
- 終了時のお客様の感想把握とお礼の言葉。
- 「自分の思い」だけで話していたと感じた。
- 単なる道案内になっている。→反省点が多く、勉強になった。
- 重要伝統的建造物群保存地区の説明をもっと詳しくできるようになりたいと思った。
- 重要伝統的建造物群保存地区の重要性を再認識した。

(6)その他要望・自由意見

- インバウンドの方へは、必ず通訳がはいるのだろうか。
- 町に経済効果をもたらす目玉商品を観光協会や他の分野の人がもっと力を入れて取り組むべきだと感じた。
- 分かりやすい研修でよかった。
- 次回ガイドのおりには、今回の研修で得たことを頭に置き望みたいと思う。
- ボランティアで出来ることを、今後話し合い前進できたら。
- 相手の求める内容を話すことが大事だと思った。

ガイド研修②

ガイド研修②では、ガイド研修①の内容をふまえ、出羽島での実地研修を実施した。牟岐町観光ボランティアガイドの方にガイドしていただきながら、海外から来たお客様の視点で質問をしたり、気を付けるポイントについて説明したりしていただいた。

自己紹介

出羽島の港に降り立ち、すぐにガイドを始めるのではなく、まずはガイドする人が自己紹介をし、参加者からも一言ずつ挨拶をしてもらう。海外の方は自分について話すことが好きな人が多いので、話題をふると喜んで話してくれることがある。

各ポイントでの説明時間の短縮

出羽島の案内をする場合、連絡船の時間の都合があるため、一つ一つのポイントでじっくりと話していると最後には駆け足、もしくは案内できなくなってしまうことがある。そのため、各ポイントでの説明は短めに、要点を絞って伝える。

登場人物の説明

出羽島には、野口雨情の歌碑がある。日本人には彼の作品を聞いて分かる人も多いが、海外の方には馴染みがないので、「日本で有名な3人の童謡作詞家のうちの一人」などの説明が好ましい。

雨の日の対応

研修当日は雨であったが、ガイドの話し方一つでお客様の満足度は変わる。「雨の日にしか見られない光景」や「子どもの頃の雨の日の思い出」などの話をするのもよい。

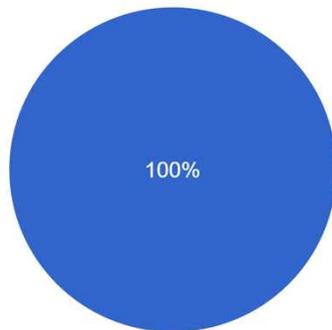
ガイド研修②の様子



ガイド研修②について

●参加区分

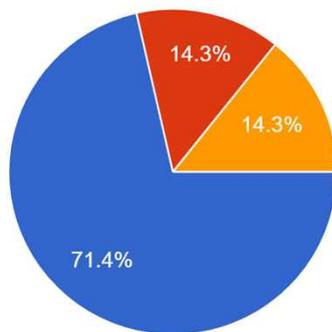
7件の回答



- 牟岐町観光ボランティアガイドの会
- 牟岐町外の地域ガイド
- スルーガイド
- 観光事業者／個人
- 観光事業者／法人・団体等
- 本事業関係者

(1) ガイド研修② 出羽島のガイドについて（澄川氏）

7件の回答



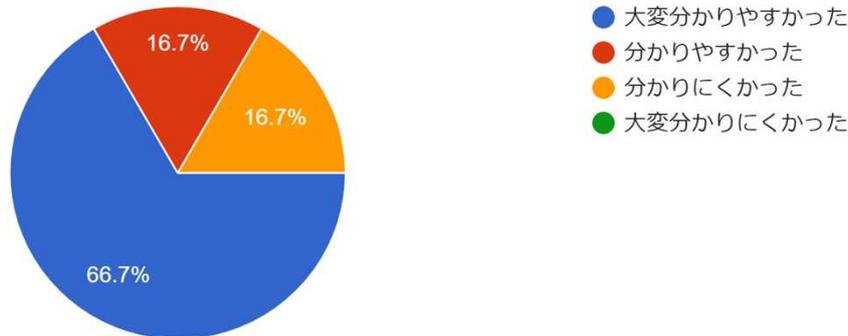
- とても役に立った
- 役に立った
- まあまあ役に立った
- あまり役に立たなかった
- 役に立たなかった

(2) (1)の解答理由

- 視点が違うことに驚いたから。
- プラス思考の見方をすることに驚いた。
- 午前中の講座をうけて、現地にてより、具体的に説明いただくことができた。
- 外国の方の、関心事・興味のある事が、自分が考えているのと違いに大変驚いた。その中でも、「これは言ったら良いな！」と考えてた事が、講師と一致したのもあり、ホッとした。その中で、「お客様とのコミュニケーション」の大切さを痛感した。
- ストーリーを考える。例をあげて、説明して下さったのが、大変勉強になりました。なるほど、なるほど、と頷きっぱなしだった。
- お客様の出羽島訪問の理由の把握が大切。
- 何を期待して来島されたかを考える。
- お客様の興味のあることを聞き出すことの大切さを実感した。
- 外国人の目線、関心ごとが分かった。
- 島内の各場所でのガイドの方法をもう少し教えてほしかった。

(3) 講義の内容はわかりやすかったですか。

6件の回答



(4) (3)の解答理由

- 知っていることの押し売りでは、興味がわかないことが分かったから。
- 最初に、引き込んで、期待をもたす。何をを見せてくれるのだろう？導入の仕方を学んだのがよかった。
- 内だけではなく、外から見て、より多面的に捉えることができた。
- 具体的な例をあげて下さったので大変勉強になった。じんと胸に残る話が沢山あった。
- ガイド技術について、お気づきの事柄を指摘いただきたい。
- 雨の日の対応や、言い方が参考になった。

(5) 講演を受けて、自身の担当エリアにて対応すべき等、感じた点など、研修の参加前・後で気づきや変化など

- 話の入り方が興味深かった。参考にしたい。
- 人前で話すのが大の苦手なので、人を感動させる「言葉」の大切さをいつも感じながら、過ごしている。あんな風に話が出来ればいいのになあと思う。
- 「出羽島の魅力！牟岐町の魅力！を皆に知ってもらいたい！」との思いだけで、自分を奮い立たせている状態である。
- 今回の講義・実地研修で、多くの気づきがあった。「こう、説明しなくてはいけなくて、コミュニケーションで相手の興味・関心事を引き出し、そこからストーリーを進めていく。」
- ガイドするのが、楽しくなれるよう、挑戦したいと思えるようになった。
- 出羽島の魅力は何だろうか。ガイドが出羽島の魅力を認識してお伝えすることが大切だと思う。私の意見としては、「現代又都会が失ったものが残る」ミセ造り、ネコ車、アワエ、共同井戸、石積みの大堤防、車のない島、連絡船、コミュニティー（会う人すべての人に挨拶し合う）だと思っている。
- 外国の方への案内は大変難しいと感じた。（「習慣」「興味」の違い）
- 雨の日の対応、特別感の演出を工夫したい。
- 島内ガイドの場合、いつも時間が短く、もう少し要点を絞って説明しなくてはいけなかったことを知った。

(6)その他要望・自由意見

- 現地で歴史と今の繋がりなど見える化する媒体を使うことをしていくことで、理解が深まることがよく分かった。
- 楽しい、わかりやすい現地研修で良かった。
- 今後のガイドをする際の手がかりになった。
- 地元の者には、何とも感じない事・物でも、牟岐には魅力の再発見が沢山あるんだと、自信を持つことが出来た。いろんな事を掘り起こして 皆で話し合いたい。
- 「重要伝統的建造物群保存地区」に対しても、関心を持つと思った。
- 多くの「気づき」をありがとうございました。
- 自分から積極的にコミュニケーションがとれているか、思い出として残る内容か、反省点が多い、有意義な研修だった。

ガイド研修③

ガイド研修③では、牟岐町防災サークル代表である上田好美氏に牟岐町防災サークルの取り組みについて説明していただきながら、関連するポイントを巡った。

防災に関する取り組みを始めたきっかけ

上田氏の父が16歳の時に昭和南海地震が発生し、被災した経験をもつ。その後この経験を後世に伝えるために、被災した人から聞き取った情報をもとに浸水マップの作成、体験談の記録、語り部として体験談を伝える活動などを行っていた。

そんな父の姿を見ていた上田氏も防災に関して意識をもつようになり、退職後に「牟岐町防災サークル」を立ち上げる。

牟岐町防災サークルの主な活動

牟岐町に多く残っている「暗きよ」は、外から見ると普通の道のように見えるが、津波が発生すると暗きよの下に海水が潜り込み、大変危険であるため、暗きよがあることを示す標識の作成、及び町内の「暗きよマップ」を作成し、地域の子どもたちに対して防災教育を行っている。



暗きよが近くにあることを示す標識



暗きよマップ



上田氏の娘さんが小学生のときに作成した昭和南海地震による被害状況をまとめた地図

2. 事業内容

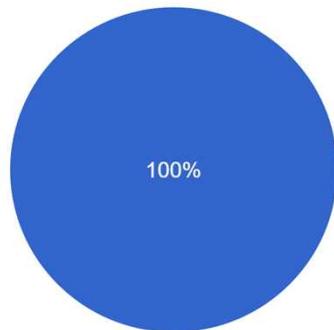
ガイド研修③の様子



ガイド研修③について

●参加区分

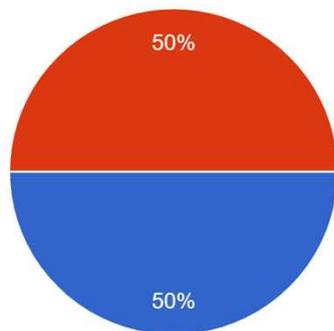
4件の回答



- 牟岐町観光ボランティアガイドの会
- 牟岐町外の地域ガイド
- スルーガイド
- 観光事業者／個人
- 観光事業者／法人・団体等
- 本事業関係者

(1) ガイド研修③「実地研修：牟岐町内」 (講師：上田氏) について

4件の回答



- とても役に立った
- 役に立った
- まあまあ役に立った
- あまり役に立たなかった
- 役に立たなかった

(2) (1)の解答理由

- 父親から自分の意思で受けつぎ、説得力のある資料を用いて主に子ども達に防災教育を、実践的に活動されているのがよい。
- 現在、子ども達と一緒に「防災」に対して精力的に活躍されていること、頭が下がる思いである。
- 家族の方からの体験を引き継ぐという、「話」に感動を覚えた。
- 南海津波の牟岐町での恐ろしさを思い知る。

(3) 講義の内容はわかりやすかったですか。

3件の回答



(4) (3)の解答理由

- 資料が一目見て分かりやすかった。
- 実際に石碑等をめぐり、昔の現状を深く知ることができてよかった。
- 上田氏が牟岐町の出身だったため親しみがあつた。

(5) 講演を受けて、自身の担当エリアにて対応すべき等、感じた点など、研修の参加前・後で気づきや変化など

- ガイドの時も、怪我時の対応、ここでもし地震がきたらなど前日にシミュレーションしている。今後も、更に考えたい。
- 震災・防災は地域の重要事項である。私たちのガイド活動中に研修で得た知識・情報を活用したいと思う。
- 今後、牟岐町内のウォーキング会等を継続実施し、家族（子どもと一緒に）で参加、楽しみながら意識づけができればいいと思う。

(6)その他要望・自由意見

- 外部の方から見た出羽島など、自分の凝り固まった視点の違いがわかり、とても参考になった。
- 新しく整ったものに、外部から来る人は要望が有るか認識していたがそうでないこともわかり、希望がもてた。
- 地域の防災への上田さんの取り組みに敬意と感謝の気持ちを表したい。

2-2-4. 人材育成プログラム案（次年度以降）

今年度実施された人材育成プログラム（ガイド研修）では、牟岐町観光ボランティアガイドの会の方々を中心に参加していただき、インバウンドに向けたガイドを実施するうえで留意する点などについて研修を行った。参加者アンケートの結果からも、新しい気づきがあったとの意見がみられ、回を重ねるごとに参加者の意識が醸成されていく様子がうかがえる。

参加者との意見交換の中では、今後研修へ参加を呼びかける範囲を広げ、町ぐるみでインバウンドの受け入れに向けた人材育成の場をもつことが必要との意見も出された。

これをもとに、次年度以降実施する人材育成プログラム案を以下の通りまとめた。

インバウンド対応ガイド育成

今年度実施された人材育成プログラムの第二ステップとして、より具体的なガイド手法（ストーリーテリングなど）について実践的に学ぶプログラムの実施。

宿泊・飲食事業者向け研修

町内の宿泊・飲食事業者に向けて食事対応（ヴィーガン・ハラールなど）や気を付けるべきポイントなどについて学ぶプログラムの実施。

近隣エリアガイド・全国通訳案内士との連携

牟岐町外で活動するエリアガイド、全国通訳案内士の方も牟岐町について知ってもらう機会を設け、牟岐町を案内することのできる人材を拡大させる。

| プログラム内容 |
|----------------------------|
| A.インバウンド研修 |
| ・観光の歴史と変遷 |
| ・様々なツアーリズム |
| ・インバウンド対応（日本人との違い） |
| B.接客マナー |
| ・お客様への挨拶と接し方 |
| ・お客様対応時の基本的なマナー |
| ・問題解決のためのコミュニケーションスキル |
| C.英語コミュニケーションスキル |
| ・簡単な英会話フレーズの習得 |
| ・質問の仕方と応答方法 |
| D.ストーリーテリング |
| ・シナリオの作成 |
| ・時間を意識したガイドングの実践 |
| E.地域の文化と歴史 |
| ・地元の伝統や文化について学ぶ |
| ・観光客に伝えるべき重要な文化や歴史の知識 |
| ・牟岐のことば（方言） |
| F.観光案内スキル |
| ・観光客の案内方法とポイント |
| ・地図や案内パンフレットの使い方 |
| ・翻訳アプリ等の活用 |
| G.安全管理 |
| ・緊急時の対応方法 |
| ・お客様の安全確保のための心得 |
| H.実地研修 |
| ・観光案内や接客の実践トレーニング |
| ・ロールプレイやシミュレーションを通じた実践的な学習 |

ワークショップ③にて参加者と検討したプログラム一覧

2-3. 会議・報告会の実施

本事業においては、開始時、中間及び最終において報告会を開催し、事業の進捗状況について報告した。

9月19日
開始時会議（会場）
 事業内容の説明



会場の様子（開始時会議）

11月21日
中間報告会（会場及びオンライン）
 デスティネーションプロフィール
 アセスメントレポート
 第2回ワークショップについて
 第1回 現地視察、ヒアリング
 第2回 現地視察、ヒアリング まとめ
 ガイド研修について



会場の様子（最終報告会）

2月29日
最終報告会（会場及びオンライン）
 アクションプラン、人材育成プログラムについて
 人材育成プログラム（ガイド研修）報告
 ガイドマニュアルについて

2-3-1. 開始時会議

(1) 実施概要

- 日時 : 令和5年9月19日(火) 13:00~14:00
- 実施方法 : 対面+オンライン(Zoom)
- 会場 : 牟岐町海の総合文化センター 1F 大集会室
- 参加者 : 23名 (次頁参照)
- 内容 :
 1. はじめに 四国運輸局 観光部 部長 小倉 一仁
 2. 挨拶 牟岐町 産業課 課長補佐 一山 昌之
一般社団法人 四国の右下観光局 事務局長 藤井 康弘
 3. 参加者自己紹介
 4. 事業内容の説明 リベルタ株式会社 林 美希子
 5. 意見交換
 6. 総括 四国運輸局 観光部 次長 上戸 康弘

会議の様子



(2) 参加者

| | 区分 | 氏名 | 読み | 所属 | 開始時会議 | ワークショップ |
|----|----------|--------|-----------|------------------------------|----------|----------|
| 1 | 牟岐町 | 庄野 二六 | しょうの にろく | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ |
| 2 | 牟岐町 | 原田 利宏 | はらだ としひろ | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | | ○ |
| 3 | 牟岐町 | 木本 千代子 | きもと ちよこ | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | | ○ |
| 4 | 牟岐町 | 木本 安宏 | きもと やすひろ | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | | ○ |
| 5 | 牟岐町 | 高松 静二 | たかまつ せいじ | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | | ○ |
| 6 | 牟岐町 | 津田 修一 | つだ しゅういち | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | | ○ |
| 7 | 牟岐町 | 池田 千晶 | いけだ ちあき | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | | ○ |
| 8 | 牟岐町 | 岡田 光代 | おかだ みつよ | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | | ○ |
| 9 | 牟岐町 | 富田 恵理 | とみだ えり | 牟岐町観光協会 | ○ | ○ |
| 10 | 牟岐町 | 小松 広繁 | こまつ ひろしげ | 牟岐町議会議員 | | ○ |
| 11 | 牟岐町 | 小松 道子 | こまつ みちこ | - | | ○ |
| 12 | 牟岐町 | 一山 昌之 | いちやま まさゆき | 牟岐町 産業課 課長補佐 | ○ | ○ |
| 13 | 牟岐町 | 満石 高明 | みついし たかあき | NPO法人 カイフネイチャーネットワーク | ○ | ○ |
| 14 | | 大久保 憲 | おおくぼ けん | 海陽町役場 | ○ | ○ |
| 15 | | 大谷 尚義 | おおたに なおよし | 阿佐海岸鉄道 | ○ | ○ |
| 16 | 四国の右下観光局 | 鈴江 省吾 | すずえ しょうご | (株) すだっち阿南 | ○ | ○ |
| 17 | 四国の右下観光局 | 坂本真理子 | さかもと まりこ | (株) すだっち阿南 | ○ | ○ |
| 18 | 四国の右下観光局 | 横尾 政明 | よこお まさあき | 牟岐町商工会 | ○ | ○ |
| 19 | 四国の右下観光局 | 藤井 康弘 | ふじい やすひろ | 四国の右下観光局 事務局長 | ○ | ○ |
| 20 | 事業実施主体 | 上戸 康弘 | うえと やすひろ | 四国運輸局 観光部 次長 | ○ | ○ |
| 21 | 事業実施主体 | 福池 愛 | ふくいけ あい | 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 係長 | ○ | ○ |
| 22 | 事業実施主体 | 武市 琉来 | たけいち るく | 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 係員 | ○ | ○ |
| 23 | 事業実施主体 | 藤本 哲也 | ふじもと てつや | 四国運輸局 観光部 国際観光課 課長 | ○ | ○ |
| 24 | 事業実施主体 | 太田 圭一 | おおた けいいち | 四国運輸局 観光部 国際観光課 係員 | ○ | ○ |
| 25 | 事業実施主体 | 立石 奈津美 | たていし なつみ | 四国運輸局 観光部 国際観光課 係員 | ○ | ○ |
| 26 | 事業実施主体 | 小倉 一仁 | おくら かずひと | 四国運輸局 観光部 部長 | △ (途中まで) | |
| 27 | 事業実施主体 | 青井 孝憲 | あおい たかのり | 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 課長補佐 | ○ | △ (途中まで) |
| 28 | 事業実施主体 | 田代 祐也 | たしろ ゆうや | 四国運輸局 観光部 国際観光課 係長 | ○ | △ (途中まで) |
| 29 | 受託事業者 | 林 美希子 | はやし みきこ | リベルタ株式会社 執行役員 シニアトラベルコンサルタント | ○ | ○ |
| 30 | 受託事業者 | 村井 友利乃 | むらい ゆりの | リベルタ株式会社 トラベルコンサルタント | ○ | ○ |
| 31 | 受託事業者 | 横内 直子 | よこうち なおこ | リベルタ株式会社 トラベルコンサルタント | ○ | ○ |
| 32 | 受託事業者 | 柏原 真智子 | かしわばら まちこ | リベルタ株式会社 トラベルコンサルタント | ○ | ○ |

(3) 実施内容

2. 事業内容

事業開始にあたり、事業の構成や目標、スケジュール等の概要を説明するとともに、牟岐町について意見を出し合い、意識の共有を行った。

1. はじめに 四国運輸局 観光部 部長 小倉 一仁

昨年10月のインバウンドの本格的な受け入れ、今年のゴールデンウィーク明けから、コロナ五類の引き下げが迫った今年の3月に、新たな観光立国推進基本計画が閣議決定された。この基本計画では、「消費額拡大」、「地方誘客促進」、「持続可能な観光」の3つをキーワードに、「持続可能な観光地域づくり」、「インバウンド回復」、「国内交流拡大」の3つを戦略的に取り組むこととなっており、四国においては 2025 年開催予定の大阪関西万博をフックとし、新たな交流市場を開拓する所存。

そこで、本年度は、関西に最も近い徳島を舞台に、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている出羽島、内陸では見られない亜熱帯植物が繁茂している津島、磯釣りのメッカとして有名な大島等、様々な観光資源を有しており、今後さらなる注目が期待される牟岐町で日本版持続可能な観光ガイドライン(JSTS-D)に準拠した観光地経営の現状・課題調査事業及び観光ガイド育成事業を実施したい。

来年度以降の取り組みに生かせるよう JSTS-D 調査を行い、昔から語り継がれている牟岐町の文化や歴史、風土等を次世代に継承し、牟岐町の魅力を幅広く集め、訪問者に発信できるようガイドマニュアルを作成し、観光ガイドの皆様が活用できる仕組み作りを構築したい。

本事業を通して、牟岐町の持続性への寄与、自然や伝統文化資源への継承を意識しつつ、訪れる者と住まう者がともに、訪問・滞在価値を創出し、体現できたらと考えている。

2. 挨拶 牟岐町 産業課 課長補佐 一山 昌之

現在、観光コンテンツのブラッシュアップ含めて、魅力の再発見になるよう本事業の支援及び協力をしていきたい。

一般社団法人 四国の右下観光局 事務局長 藤井 康弘

人口減少及び少子高齢化が著しい右下エリアにおいても、観光客誘客を考えた際に、一次産業、宿泊業、飲食業、そして歴史的・文化的な活動が高齢化に伴い、持続可能な体制になっていないことが非常に大きな課題。本事業を通じて、持続可能な観光地域を目指して勉強し、地域の活性化及び発展に向け共に取り組んでいきたい。

3. 参加者自己紹介

順番に一人一人自己紹介を行うとともに、「牟岐町の自慢」を語ってもらった。

4. 事業内容の説明

・基本コンセプトと背景

牟岐町総合計画（令和3～12年）にて示された牟岐町のめざす将来像として掲げられている「I am 牟岐人」を踏まえ、本事業では「We are 牟岐人（“私たち”は mugijin です）」をコンセプトに展開。事前の電話によるヒアリングで洗い出された課題は、「釣り及び海水浴の観光客が年々減少傾向にあるため消費縮小傾向」、「観光ガイドの高齢化」、「観光客のマナーやルールの整理、伝達方法」等。本調査事業は、“健康診断”というイメージで、JSTS-D を活用して、牟岐町の強み・弱みを客観的に調査していく。

・本事業範囲と全体ステップ

持続可能な観光、サステナビリティは、世界では、スマートフォンが普及したように、今後当たり前になっていくという認識。全体のステップとして、まずは課題抽出調査を実施することで、課題を明確にし、同時並行で観光ガイド育成を図っていく。

・定量目標

DESTINATIONプロフィールの作成、アセスメントレポートの作成・分析・とりまとめ、ワークショップを現地にて3回実施、アクションプランの改定・細分化等、提案書で示した定量成果目標を展開。来年度以降も中長期的に関わっていくことで、2～3年先、もっと先を見据えて、本事業を進めていく。

・観光ガイド育成

最重点指標「C8：観光資源の解説」は、地域の方と一緒にストーリーを作成。ツアーガイド研修も本事業にて意識して組み込んでいる。

重点指標の4点「B4：コミュニティへの支援」等についても、今後のワークショップの中で、ヒアリングをしながら行っていく。

・ガイドマニュアルの構成案

観光マップ、観光パンフレットという形式での作成は想定していない。一つ一つの素材をガイドが旅行者の好みによって組み込めるようエリアごとにまとめていく。（エリア概要や自然の切り口、有形無形文化の切り口、食の切り口や地域に暮らす人にフォーカスを当てたストーリー等を想定）交通関連情報、医療機関情報等の掲載等。

・専門家候補

日本でも全国的にスルーガイドをしている方がおり、地方で連携した研修が各地で始まっている。企画提案提出段階では、外国人の専門家を検討していたが、経験豊富な日本人の全国通訳案内士への依頼を検討している。

5. 意見交換

「3. 参加者自己紹介」にて個々の意見や質問を共有することができたため、この段階においては特に意見は出されなかった。

6. 総括 四国運輸局 観光部 次長 上戸 康弘

四国の右下観光局にヒアリングを行った際、メインの観光地である出羽島のガイドが少ないとの意見を受け、ガイド育成事業を検討した。一般的な内容ではなく、幅広い情報を蓄積することで、ガイド案内に生かす仕組みを作っていく狙いが本事業にある。

JSTS-D調査とガイド育成を推進するにあたり、ワークショップでの活発な意見交換を期待したい。

2-3-2. 中間報告会

(1) 実施概要

- 日時 : 令和5年11月21日(火) 13:00~14:00
- 実施方法 : 対面+オンライン(Zoom)
- 会場 : 牟岐町海の総合文化センター 1F 大集会室
- 参加者 : 22名 (次頁参照)
- 内容 :
 1. 事業進捗報告
 - (1) JSTS-D調査結果について リベルタ株式会社 林 美希子、村井 友利乃
 - ・DESTINATIONプロフィール
 - ・アセスメントレポート
 - ・第2回ワークショップについて
 - (2) ガイド育成業務について リベルタ株式会社 林 美希子、横内 直子
 - ・第1回 現地視察、ヒアリング
 - ・第2回 現地視察、ヒアリング
 - ・ガイド研修について
 2. 意見交換・質疑応答
 3. 総括 牟岐町産業課 課長補佐 一山 昌之
一般社団法人 四国の右下観光局 事務局長 藤井 康弘

会議の様子



共有資料 (一部)

ガイド育成・研修について

① ガイドマニュアル構成案

牟岐町の全体像

- ・徳島県南部の特徴
- ・牟岐町の特徴
- ・日本の最南端の特徴
- ・家訪者のルール・マナー

エリアA (出羽島)

- ・エリア概要
- ・自然
- ・有形・無形文化
- ・食
- ・牟岐人の今昔ストーリー

▶ 現地ヒアリング: 出羽島ガイド、島民

エリアB (大島)

- ・エリア概要
- ・自然
- ・有形・無形文化
- ・牟岐人の今昔ストーリー

▶ 現地ヒアリング: 千早サンゴと関係するまじりの協議会、島の所有者

ガイド基本情報

- ・交通関連情報
- ・滞在施設・飲食店リスト
- ・医療機関
- ・宿泊先情報(観光)

【方向性】

- ・情報収集: 整備対象のエリアとして、出羽島と大島を確定
- 関係先への追加ヒアリング、調査
- ・町の全体像やガイド基本情報は既存の情報を使用

資料4

全体スケジュール (進捗状況)

| 今年度 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 1. 持続可能な観光地への現状・課題調査 | | | | | | | | |
| (1) 現地視察(大島・出羽島) | | | | | | | | |
| (2) 牟岐県によるワークショップ (JSTS-D) の実施(出羽島・大島)の進捗 | | | | | | | | |
| (3) 今後実施予定の地域(大島)の調査 | | | | | | | | |
| 2. 観光地全体の調査 | | | | | | | | |
| (1) 出羽島・大島の調査 | | | | | | | | |
| (2) 人材育成プログラムの作成 | | | | | | | | |
| 3. 事業全体の進捗管理 | | | | | | | | |

【重要点】

- ・ 第3回ワークショップ: 12月下旬~1月中旬 → 1月末から2月上旬へ変更
- ・ ガイド研修 (人材育成プログラム): 12月下旬~1月中旬 → 1月末から2月上旬へ変更
- ・ ガイドマニュアル作成のための現地ヒアリング: 1月中旬までを最終に調査実施

(2) 参加者

| | 区分 | 氏名 | 読み | 所属 | 中間報告会 | ワークショップ |
|----|----------|--------|-----------|----------------------------------|-------|--------------|
| 1 | 牟岐町 | 庄野 二六 | しょうの にろく | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ |
| 2 | 牟岐町 | 原田 利宏 | はらだ としひろ | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ |
| 3 | 牟岐町 | 高松 静二 | たかまつ せいじ | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ |
| 4 | 牟岐町 | 池田 千晶 | いけだ ちあき | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ |
| 5 | 牟岐町 | 岡田 光代 | おかだ みつよ | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ |
| 6 | 牟岐町 | 満石 高明 | みついし たかあき | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ |
| 7 | 牟岐町 | 井上 貴美子 | いのうえ きみこ | 牟岐町観光協会 | | ○ |
| 8 | 牟岐町 | 小松 広繁 | こまつ ひろしげ | 牟岐町議会議員 | ○ | ○ |
| 9 | 牟岐町 | 小松 道子 | こまつ みちこ | - | ○ | ○ |
| 10 | 牟岐町 | 津田 修一 | つだ しゅういち | 牟岐町議会議員 | ○ | ○ |
| 11 | 牟岐町 | 一山 昌之 | いちやま まさゆき | 牟岐町産業課 課長補佐 | ○ | ○ |
| 12 | 四国の右下観光局 | 藤井 康弘 | ふじい やすひろ | 四国の右下観光局 事務局長 | ○ | ○ |
| 13 | 事業実施主体 | 福島 史晃 | ふくしま ふみてる | 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 課長 | ○ | オブザーバー |
| 14 | 事業実施主体 | 青井 孝憲 | あおい たかのり | 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 課長補佐 | ○ | オブザーバー |
| 15 | 事業実施主体 | 福池 愛 | ふくいけ あい | 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 係長 | ○ | オブザーバー |
| 16 | 事業実施主体 | 太田 圭一 | おおた けいいち | 四国運輸局 観光部 国際観光課 係員 | ○ | オブザーバー |
| 17 | 事業実施主体 | 立石 奈津美 | たていし なつみ | 四国運輸局 観光部 国際観光課 係員 | ○ | オブザーバー |
| 18 | 事業実施主体 | 藤本 哲也 | ふじもと てつや | 四国運輸局 観光部 国際観光課 課長 | ○ | オブザーバー |
| 19 | 事業実施主体 | 榎田 哲也 | くしだ てつや | 四国運輸局 徳島運輸支局 総務・企画観光部門 首席運輸企画専門官 | ○ | オブザーバー（途中まで） |
| 20 | 受託事業者 | 林 美希子 | はやし みきこ | リベルタ株式会社 執行役員 シニアトラベルコンサルタント | ○ | ○ |
| 21 | 受託事業者 | 横内 直子 | よこうち なおこ | リベルタ株式会社 トラベルコンサルタント | ○ | ○ |
| 22 | 受託事業者 | 村井 友利乃 | むらい ゆりの | リベルタ株式会社 トラベルコンサルタント | ○ | ○ |
| 23 | 受託事業者 | 柏原 真智子 | かしわばら まちこ | リベルタ株式会社 トラベルコンサルタント | ○ | ○ |

(3) 実施内容

2. 事業内容

1. 事業進捗報告

(1) JSTS-D調査:リベルタ 林、村井

・デスティネーションプロフィール

第1回ワークショップで牟岐町の資源を洗い出し、その活用に係るアイデア及び課題を12項目に分類。

(内訳:①観光事業の仕組みの未整備、②人材育成、③ガイド機能の強化、④漁業と観光業の共存、⑤自然資源の未活用、⑥コンテンツ不足、⑦消費拡大、⑧重要伝統的建造物群保存地区の保存・活用、⑨暮らしと観光の両立、⑩コミュニティの維持、⑪事故等への対応リスク、⑫適切な情報発信) 第2回ワークショップでは、これらの内容に沿ってワークショップを実施。

デスティネーションプロフィールは、自己紹介カード及び健康診断チェックのような位置づけ。地域の実情を把握するために、項目を埋めながら、確認作業を行っている段階。健康診断チェックを行うことで、重点指標の設定、今後の整備の方針及び戦略的な計画案を考えていくための指標になる。現状作成中のデスティネーションプロフィールからは次のことが読み取れる。

- ・経済循環や消費額のデータ不足。
- ・季節変動が極端に大きくない。
- ・観光資源としては、自然の資源及び文化の資源の両方を持っている。
- ・出身国で見るとフランスからの旅行者の宿泊数が最も多い。
- ・宿泊施設は、民宿はあるが、ホテル及びゲストハウスはないという現状。

以上のように、今年度の事業で現状の把握を始めたところであり、これらが今後どのように推移していくのかを継続的に見ていく必要がある。

・アセスメントレポート

アセスメントレポートは、細かい項目ごとに分析しているもの。詳細は添付資料参照。

「スコア上昇」グラフで分かることは、マネジメント、経済及び社会、環境については少し弱く、文化については高かった。観光分野だけの対策では解決できないような課題が出てきており、具体的な数値が取れないという状況にあることから、課題解決につながっていないことが見受けられた。結果をふまえて、まずは基本事項の整理を行い、観光事業者を含めて観光計画など方針案を策定及び共有し、随時更新していく作業が必要であると考えられる。

また、マーケティングに関しては、観光客の動向や消費行動に関するデータが揃っていないため、戦略的なマーケティングやプロモーションが実施できていない現状にあることが分かった。具体的に絞りこんだターゲットに対して対応、実施していく必要があると考えられる。

牟岐町の強みは、観光客誘客につながる文化的な資源があり、自然環境も豊かであるところ。持続可能な観点から、生活との共存及び共生を図り、住民に負荷をかけないための工夫について、ワークショップでもアイデアを出し合い、具体的な取り組みとして進めていく必要性があることが、調査で見えてきた。後半の第2回ワークショップでは、参加者の意見を伺いながら、牟岐町としての方向性や日々感じている課題、優先すべき点などを整理、分類していく。

調査を通して感じたこと 牟岐町産業課 課長補佐 一山 昌之

牟岐町の観光は、従来イベント及び祭り中心だったため、牟岐町の人流に係るデータは整理してこなかった。アセスメントレポートでは、徳島県が調査している右下周辺の人流データをもとに作成したので、ポイントが下がってしまった。また、環境整備の部分で、地球温暖化に係る計画や下水道処理などのチェック項目があり、牟岐町で取り組めていない計画があることも把握できた。

・第2回ワークショップについて

牟岐町民にとって、観光のイメージ、定義、方向性を定める重要な要素として、現状の課題や課題解決への取り組み、重要と思われることに優先度をつけることなどが必要となるため、ワークショップの中で参加者と一緒に整理していく。

(2) ガイド育成業務:リベルタ 林、横内

・第1回 現地視察、ヒアリング

本事業ではガイド育成事業及びガイドマニュアルの作成を行う。まずは令和5年9月18日から同年9月20日まで現地調査を実施。観光に対して、現状の取り組みや牟岐町の歴史、今後の可能性について関係者へヒアリング。詳細は資料参照。

・第2回 現地視察、ヒアリング

令和5年12月以降に実施予定。情報収集を行い、ガイドマニュアルの作成に進んでいく予定。

・ガイド研修について

JSTS-D調査は、ワークショップ②まで実施済み。

ワークショップ③では、観光振興計画のベースとなるような素材整理を行う予定。ガイド育成に係る業務では、2回目の現地視察の日程を調整しながら、時間をかけてヒアリングを行い、マニュアルに入れ込む素材の精査を進めていく。

同タイミングにて人材育成プログラムの第一歩として外部から講師をお招きしてガイド研修を実施する予定。

本事業は3月22日に完了するが、アクションプランに関しては、3～5年先を見据えたプランを整えていく想定。

2. 意見交換・質疑応答

質問1:ワークショップ③及びガイド研修の日程は、1泊2日ということか。

リベルタ林:ワークショップで1日、ガイド研修で1泊2日、計2泊3日になる可能性がある。

質問2:JSTS-Dとは何か？

リベルタ 林:「日本版持続可能な観光ガイドライン」のことで、持続可能な観光の推進に資するべく、各地方自治体や観光地域づくり法人（DMO）等が多面的な現状把握の結果に基づき、持続可能な観光地マネジメントを行うための観光指標。Japan Sustainable Tourism Standard for Destinationsの頭文字をとってJSTS-Dという。

質問3:日本の現状や、あるべき姿について触れたあとにワークショップを行ってほしい。

リベルタ 林:ワークショップの前段にて、説明を入れながら進めていく。

3. 総括

牟岐町産業課 課長補佐 一山 昌之

前回のワークショップでJSTS-D等について説明したが、横文字が難しく分かりづらく感じる部分もあるかもしれない。

しかし、この調査により牟岐町の観光について深堀りできた部分もあるため、意見をたくさん頂きながら、少しでも観光振興につなげていきたい。

一般社団法人 四国の右下観光局 事務局長 藤井 康弘

第2回ワークショップで意見を聞きながら、牟岐町の観光について考えることができれば良い。観光についての捉え方は、様々な環境によっても変わってくるため、皆様と考えていきたい。

(2) 参加者

| | 区分 | 氏名 | 読み | 所属 | ワークショップ③ | 最終報告会 |
|----|----------|--------|-----------|----------------------------------|----------|-------|
| 1 | 牟岐町 | 庄野 二六 | しょうの にろく | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ |
| 2 | 牟岐町 | 原田 利宏 | はらだ としひろ | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ |
| 3 | 牟岐町 | 高松 静二 | たかまつ せいじ | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ |
| 4 | 牟岐町 | 池田 千晶 | いけだ ちあき | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ |
| 5 | 牟岐町 | 岡田 光代 | おかだ みつよ | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ |
| 6 | 牟岐町 | 満石 高明 | みついし たかあき | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ |
| 7 | 牟岐町 | 津田 修一 | つだ しゅういち | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ |
| 8 | 牟岐町 | 川辺 秀年 | かわべ ひでとし | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ |
| 9 | 牟岐町 | 木本 千代子 | きもと ちよこ | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | ○ |
| 10 | 牟岐町 | 木本 安宏 | きもと やすひろ | 牟岐町観光ボランティアガイドの会 | ○ | |
| 11 | 牟岐町 | 富田 恵理 | とみだ えり | 牟岐町観光協会 | ○ | ○ |
| 12 | 牟岐町 | 一山 昌之 | いちやま まさゆき | 牟岐町産業課 課長補佐 | ○ | ○ |
| 13 | 四国の右下観光局 | 藤井 康弘 | ふじい やすひろ | 四国の右下観光局 事務局長 | ○ | ○ |
| 14 | 四国の右下観光局 | 沢田 武志 | さわだ たけし | 四国の右下観光局 観光地域づくりリーダー | | ○ |
| 15 | オブザーバー | 坂東 悠希 | ばんどう ゆうき | 通訳案内士 | ○ | ○ |
| 16 | 事業実施主体 | 上戸 康弘 | うえと やすひろ | 四国運輸局 観光部次長 | ○ | ○ |
| 17 | 事業実施主体 | 福島 史晃 | ふくしま ふみてる | 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 課長 | ○ | ○ |
| 18 | 事業実施主体 | 藤本 哲也 | ふじもと てつや | 四国運輸局 観光部 国際観光課 課長 | | オンライン |
| 19 | 事業実施主体 | 福池 愛 | ふくいけ あい | 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 係長 | ○ | ○ |
| 20 | 事業実施主体 | 立石 奈津美 | たていし なつみ | 四国運輸局 観光部 国際観光課 係員 | ○ | ○ |
| 21 | 事業実施主体 | 太田 圭一 | おおた けいいち | 四国運輸局 観光部 国際観光課 係員 | | オンライン |
| 22 | 事業実施主体 | 武市 琉来 | たけいち るく | 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 係員 | | オンライン |
| 23 | 事業実施主体 | 榎田 哲也 | くしだ てつや | 四国運輸局 徳島運輸支局 総務・企画観光部門 首席運輸企画専門官 | | オンライン |
| 24 | 受託事業者 | 林 美希子 | はやし みきこ | リベルタ株式会社 シニアトラベルコンサルタント | ○ | ○ |
| 25 | 受託事業者 | 横内 直子 | よこうち なおこ | リベルタ株式会社 トラベルコンサルタント | ○ | ○ |

(3) 実施内容

1. 開会挨拶 国土交通省 四国運輸局 観光部 次長 上戸 康弘

本事業においては、本会議が最終報告会ということで、事業開始時より皆さまからお力添えを賜り感謝している。私たちとしては、昨年より牟岐町において、持続可能な観光地に向けた地域の現状、あり方、課題等に関する調査をJSTS-Dを活用して実施しており、同時に訪日外国人旅行者の受入環境整備の一環として、ガイドマニュアルの作成及び観光ガイドの人材育成を行い、自律的、継続的にガイドが実施できる体制の構築を目指してきた。

今年度で本事業は終了となるが、引き続き持続可能な観光地「四国」の磨き上げとなるよう力を入れて取り組んでいきたい。

皆様方におかれましても、牟岐町の更なる発展に向けて、今後ともお力添えいただきますようお願い致します。

2. 事業報告

(1) 持続可能な観光地への現状・課題調査 リベルタ 林

アクションプランについて

これまで第2回目までのワークショップを経て洗い出された牟岐町の地域の観光に関する重点課題（人材の不足、地域資源の未活用・活用不足）に加え、今後のインバウンドを含む観光の受け入れに向けて、受け入れ体制の整備、地域のブランディングを重点課題として追加し、大きく4つの課題を設定した。共有資料1では、それぞれの重点課題に紐づいて、実現できる可能性のある取り組みを示している。また、JSTS-Dのどの指標に貢献できるかという内容も含めた提案になっている。国際的にはこのような取り組みを実施しているということで地域が頑張っているということ伝える素材になるので、合わせて最終化を図っていきたく考えている。

特に観光資源の活用という課題について、牟岐の体験を商品にしていくことが重要だという回答が多かった。大きくは歴史文化や食文化、自然の活用、防災の取り組みなどの領域において、現在十分に価値があるものがたくさんあるので、これを海外のお客様に向けて形にしていくことが重要となると考える。姫神祭りや左義長などは、日程が決まっているものなので、このような年中行事を活用していくことも有効だと思う。年中行事の活用について、牟岐町観光協会の富田さん、牟岐町観光ボランティアガイドの会の木本さん、いかがでしょうか。

牟岐町観光協会 富田 恵理

私は6年前から牟岐町観光協会のメンバーとして運営に携わっている。その中で、祭りの準備段階から町民や関心のある方々に参加してもらったら楽しいのではないかと考えている。例えば姫神祭りでは注連縄を作るにあたり、1年間かけて藁を乾燥させ、新しいものを付け替えているので、これを体験にできるのではないかなと思う。

牟岐町観光ボランティアガイドの会 木本 安宏

私の父が観光協会の会長だったので、今から55年ほど前の私が小学生の頃、姫神祭りのご神体を自宅の四畳半の部屋で作っていた。おそらくそれが初代のご神体ではないかと記憶している。

リベルタ 林

先ほど観光協会の富田さんから地域の方との交流というお話があったが、ここまで足を運んで来る方というのは、地域の方の思い出に触れることを望んでいると思うので、そのような点も考慮しつつ商品づくりができればよいと考える。

人材育成プログラムについて

ワークショップ③にて参加者のそれぞれの立場から実施可能な計画に対する優先度を出していただいた。これを集計し、平均を出したものが以下のとおりである。

| プログラム内容 | 最優先5→1 | | | | | | | | | | | | | | | 受講対象者 | | | | | | | | |
|------------------|--------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-------|-------|-----|-------|--------|--------|---|---|---|
| | 平均 | 最優先 | 優先 | ガイド会 | ガイド研修 | 食・宿 | 観光従事者 | 日本語ガイド | 外国語ガイド | | | |
| A.インバウンド研修 | 4.4 | 5 | 5 | 5 | 1 | 5 | 5 | 5 | 4 | 5 | 3 | 4 | 3 | 5 | 5 | 4 | 5 | 5 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| B.接客マナー | 4.6 | 5 | 5 | 5 | 3 | 5 | 5 | 5 | 5 | 4 | 4 | 3 | 4 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| C.英語コミュニケーションスキル | 3.8 | 3 | 5 | 5 | 2 | 3 | 5 | 5 | 3 | 4 | 3 | 5 | 3 | 5 | 2 | 4 | 3 | 5 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| D.ストーリーテリング | 4.4 | 5 | 5 | 5 | 4 | 3 | 5 | 5 | 3 | 4 | 4 | 5 | 5 | 4 | 5 | 4 | 4 | 5 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |
| E.地域の文化と歴史 | 4.9 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 4 | 5 | 5 | 5 | 4 | 5 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| F.観光案内スキル | 4.4 | 5 | 5 | 5 | 3 | 3 | 5 | 5 | 4 | 5 | 4 | 3 | 3 | 5 | 5 | 4 | 5 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| G.安全管理 | 4.4 | 4 | 5 | 5 | 3 | 3 | 5 | 5 | 4 | 4 | 5 | 4 | 5 | 5 | 3 | 5 | 5 | 4 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| H.実地研修 | 3.9 | 5 | 4 | 5 | 2 | 1 | 5 | 5 | 3 | 5 | 3 | 3 | 5 | 4 | 5 | 4 | 3 | 4 | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ |

この結果を見ると、「E.地域の文化と歴史」についての優先度が高いと回答している人が多いことが分かる。牟岐町観光ボランティアガイドの会の育成段階の方々だけでなく、今後は食事や宿泊などの観光従事者、町外の日本語ガイドなどの広い方に向けて研修などを実施し、伝えていくことが有効だという回答傾向がみられた。こちらについては例えばボランティアガイドの会の方が講師となり、伝えていく形式の研修としても良いと思う。また、次に優先度の高かった「B.接客マナー」や「A.インバウンド研修」「D.ストーリーテリング」「F.観光案内スキル」「G.安全管理」については、専門家などを講師に招いて実施することができると思う。

(2)観光ガイド育成 リベルタ 横内

人材育成プログラム（ガイド研修）報告

1月31日（水）と2月1日（木）に実施されたガイド研修①から③について、概要の説明と参加者アンケートの結果を報告。

詳細については「2-2. 観光ガイド育成 2-2-3. 人材育成プログラム（ガイド研修）」を参照。

ガイドマニュアルについて

牟岐町に詳しくないガイドでも、国内外の観光客に町全体を案内できるようになること、次世代へのガイド技術を伝承することを目的として作成しているガイドマニュアルの構成や進捗状況について報告した。

なお、牟岐に暮らす「人」に焦点をあて、牟岐人の声を反映させた内容となるよう作成している。今年度掲載させていただいた方に加え、来年度以降追加していくことのできるような構成となっている。

詳細については「2-2. 観光ガイド育成 2-2-2. ガイドマニュアルの作成」を参照。

・「mugijin story」について

現地にて牟岐町に住む方々から聞き取った個人の話をもとに、「mugijin story」としてまとめ、ガイドマニュアル中の関連する項目に記載した。

・紹介するスポットの選定について

お客様が公共交通機関を利用して牟岐町を訪問することを想定し、JR牟岐駅から徒歩や連絡船で移動できる範囲にあるスポットを掲載。

・宿泊施設・飲食店について

宗教などの理由により食事制限がある方のための情報や、トイレの様式、支払い方法に関する情報をまとめた。

3. 意見交換

牟岐町観光ボランティアガイドの会 川辺 秀年

現在、中国や台湾からの観光客も多いが、ガイドマニュアルに中国語を載せる予定はないか。

リベルタ 林

仕様の関係上今年度事業としては英語と日本語の2か国語での作成となる。今年度作成したものを土台として、実態に応じて次年度以降内容のアップデートや言語の追加もしていただくことは可能である。

牟岐町観光ボランティアガイドの会 庄野 二六

ボランティアガイドの会の中でも研修を実施するなどして、ガイドの質を高められるように取り組んでいる。牟岐町の魅力について、どう感じるか意見を聞きたい。

通訳案内士 坂東 悠希

前回のガイド研修に引き続き参加させてもらい、牟岐町を案内していただく中で感じたのは牟岐や出羽島の風景、重要伝統的建造物群保存地区の魅力。あとは出羽島で実際にどんな生活をされていたのか、津波が来たときにどのように逃げたのか、などについてもっと聞きたいと思った。これまで話題にも出ていたが「人」にも魅力を感じる。

牟岐町観光ボランティアガイドの会 木本 千代子

先日、庄野さん、原田さんに出羽島を案内していただき、ガイド研修を実施した。生の声を聞かせていただけるとは貴重で大変勉強になった。特に印象的だったのは、ハイビスカスやモクレン、河津桜、エンドウマメ・アロエの花、パッションフルーツ、菜の花、大島桜、椿、サザンカなどの植物を同時に見られるというところ。大変興味深いと思う。

牟岐町観光ボランティアガイドの会 川辺 秀年

今日ワークショップで考えたアクションプランについては、今後の牟岐町の観光としての可能性について頭を整理できたのでよかった。私は53年前に初めて海外に出て働いていたが、ドルショックが起き、持っていたドルが使えなくなるという経験をした。現在ウォール街の動きを見ているときれが悪いと感じる。インバウンドの誘客に向けて魚の目で施策等考えていくのは良いが、潮目が変わることを想定して虫の目で現在の牟岐町の魅力を開発していかへ伝えていくかという点も大切だと思う。そういった意味では本事業の取り組みは素晴らしいと思う。

リベルタ 林

先ほど竹富島の例についても触れたが、この地域はコロナ禍においても大きく来島者数が変わらなかった。本事業においても持続可能な観光地を目指してさまざまな取り組みをしているが、出羽島にどれくらいの人数であれば受け入れることができるのかを牟岐町として話し合ったり、講師を招いてガイドの育成をしたりすることで、しっかりと誘客につなげられると思うので、引き続き取り組んでいきたい。

牟岐町ボランティアガイドの会 原田 利宏

今から40年ほど前の娘が小さいころ、京都の嵐山に行ったことがある。京都のあの静かな景観の中を自転車で走った思い出がある。5年前に再び京都に行くと、外国人ばかりで新宿のように混んでいたことから、もう絶対に行かないと思った。宿泊から食事などの価格も海外の相場に合わせられてしまっているのか、すべてが高かった。このような経験から、私は国が日本人を置き去りにしてしまっていると感じている。牟岐町が京都と同じようになるとは思わないが、不安がある。

リベルタ 林

ご意見ありがとうございます。実際に京都では地域に住む人々に影響が出てしまっている。価格についても原田さんがおっしゃる通り、ビジネスホテルでも3万円、ゲストハウスなどの簡易宿泊施設でも1万2000円など、日本人には高い価格設定となっていることが多い。そのようにならないために、アクションプランでも提案させていただいた通り、今後牟岐町としてどのように観光客を受け入れていくのか、プランニングも含め話し合う必要がある。

牟岐町 産業課 課長補佐 一山 昌之

長野県や京都府など、確かに海外の方が押し寄せている地域はある。ただ、これを牟岐町に当てはめると、変だと感じる。変というのは、例えば出羽島という人が少ないからこそ素晴らしい空間が生まれているところに、大型バスで60人～100人ほどの人が来るというのは、誰が見ても違和感があるということ。本事業においては訪日外国人を想定した取り組みが多かったが、必ずしもすべて推し進めるという気持ちでワークショップなどを実施しているわけではない。海外の方だけでなく、日本の方にも牟岐の素晴らしさを見てほしいと思うが、住んでいる人々の暮らしに影響するところまでは牟岐町として望んでいない。ただ牟岐町を活性化するための一つの方法として、今回このような事業が進んでいる。原田さんに限らず、観光を進めることによって何か大変なことが起きるというわけではないので、心配しないでください。

牟岐町観光ボランティアガイドの会 川辺 秀年

以前、日経新聞に牟岐大島について、秘境として紹介されたことがある。その記事を見たとき、秘境は誰も来ないから秘境であって、来てほしいけど来ないでほしい、という葛藤があった。

牟岐町 産業課 課長補佐 一山 昌之

今年度半年かけて基礎の部分を学んだと思うので、そういった点も含め、皆さんで話し合う中で納得できる部分を見つける必要がある。これまでここまで込み入った話はしたことがないと思うので、よいきっかけとして今後について話し合うことができれば。

牟岐町観光ボランティアガイドの会 原田 利宏

中国は歴史も文化も遺跡もたくさんあり、日本とは比べ物にならないと思うが、日本に来る中国人は多くいると思う。これは旅行会社の宣伝によるものか。

リベルタ 林

弊社は中国市場をメインに扱っているわけではないので、回答になるか分からないが、中国からの観光客が訪れた場合、それなりの収益があるため、地域の戦略として中国にターゲットを定め、国営放送で宣伝をすることがある。また欧州に比べ距離が近いので、宣伝をしてから実際に足を運んでもらうまでの期間が短いのも特徴。それも地域が旅行会社と連携をとりながら決めている。

4. 総括

牟岐町 産業課 課長補佐 一山 昌之

今回このような機会をいただいた四国運輸局、また受託事業者のリベルタに感謝している。この機会を通して、自分たちがどこを目指していくのか改めて話し合うことができ、気づきの多い半年間だった。これで終わりではなく、今年度の成果をどのようにつなげていこうかが大切だと思う。牟岐町がより良くなることを祈っているので、ガイド会さんも引き続きよろしくお願いします。

一般社団法人 四国の右下観光局 事務局長 藤井 康弘

すべてのプログラムに参加することはできなかったが、非常に気づきの多い半年間だった。今日のワークショップではアクションプランについて検討し、すぐに実施できるものとそうでないものがあったと思うので、関係者間で協議しながら取り組んでいきたいと思う。

5. 閉会挨拶 四国運輸局 観光部 観光地域振興課 課長 福島 史晃

牟岐町の方々の想いを聞かせていただき、ありがとうございました。私は京都の大学を卒業しており、大学がラグビーの強豪校なので今でも毎年訪れている。自身が学生だった頃と比べると確かに外国人の数は増えており、私もその実態は把握している。先ほど日本人を置き去りにしているという話があったが、国としてもオーバーツーリズムの抑制や未然防止に関する取り組みを進めているので、決して日本人のことを考えていないわけではないということをご理解いただきたい。

今年度は本事業の公示が遅れ、短い期間であったにも関わらず受託事業者として事業を進めてくれたリベルタには感謝している。

JSTS-D調査及びワークショップにおいては、サステナブルという抽象的で理解しづらいテーマについても、事例を交えたり分かりやすい資料を用いたりして説明していただいた。本日のワークショップにおいてはアクションプランについて話し合われたが、最初から無理をして全部やろうというのではなく、できるところからやっていければよいと思うので、引き続きよろしくお願いします。

観光ガイド育成に関しては、以前四国の右下観光局の藤井様にヒアリングをさせていただき、聞き取ったガイドの実態をもとに牟岐町役場の一山様にも相談させていただいた結果、ご快諾いただき、この事業を実施させていただくことができた。

リベルタに現地視察や関係者へのヒアリング等を実施していただく中で、特に印象的だったのは先日実施されたガイド研修①において通訳案内士の澄川恵津子氏に話していただいたさまざまな事例である。海外から来られるお客様の求めることを考えながらガイドをすること、現地のガイドのリアルな体験を伝えることが大切だとおっしゃっていた。牟岐町においては、今後ガイドを育成するにあたり、そのような体験談なども伝えながら、本事業の目的である自律的、継続的な体制の構築を進めてもらいたい。



3.まとめ

3. まとめ

3-1. 定量目標に対する成果

本事業の各業務における定量目標と事業成果は次の通りである。

| 項目 | 定量目標 | 事業成果 |
|------------------------|--------|------------------------|
| 1.持続可能な観光地への現状・課題調査 | | |
| destinations プロフィールの作成 | 1式 | 1式 |
| アセスメントレポートの作成、分析、とりまとめ | 1式 | 1式 |
| ワークショップの実施 | 現地にて3回 | 現地にて3回 |
| アクションプランの改定・細分化 | 1回 | 1回 |
| 2.観光ガイド育成 | | |
| 観光素材の選定 | 30件以上 | 36件 |
| 観光素材の選定エリア | 町内全域 | 町内全域より2地域 出羽島、 |
| 人材育成プログラムの実施 | 3回（コマ） | 3回（コマ） |
| 人材育成プログラムの参加者数 | 町内外20名 | 町内10名、町外3名。 事業運営側7名 |
| 3.事業全体の運営管理 | | |
| 報告会の実施 | 3回 | 現地にて3回 |

3-2. 定性成果と今後の展望

前項に加え、本事業の定性成果は次のとおりである。

1. 持続可能な観光地への現状・課題調査

・デスティネーションプロフィール作成

規定項目を記載するにあたり、必要なデータが揃っている・揃っていない項目が明確となった。具体的には、経済循環・消費額のデータがなく現状を把握できていなかったため、今後のデータ収集の必要性も認識できた。

・アセスメントレポートの作成、分析、とりまとめ

JSTS-Dの113指標を用いて相対的かつ客観的に現況調査したことで、観光分野に必要な取り組みでありながら、これまでは町としては話題にも出たことがなく未検討・未着手の状況にある取り組み（JSTS-D項目）が多数あることが明確となった。現況評価とヒアリングから、分野別では、現状の達成率が50%を下領域のうち、特に「A. 持続可能な観光地経営のマネジメント」と「B. 社会経済のサステナビリティ」の2領域への対応の優先度が高いという結果を導き出すことができた。

・ワークショップの実施

現地にて3回のワークショップを実施した。特に1回目のワークショップでは持続可能な観光に関する定義や専門用語の多さ・難しさを考慮し、参加者にわかりやすい内容での説明を加えたことで、持続可能な観光への理解促進に繋げることができた。一方で、説明や勉強会のような機会は1回では足りないことや、2回目以降のワークショップからの途中参加者等も多かったため、参加者全員の理解につながるよう、よりわかりやすい説明の仕方を工夫することや、欠席者にも情報共有できるよう勉強会を継続的・反復的に実施する事の必要性も感じられた。

* 勉強会を録画し後日共有という方法もあるが、参加者の属性的にインターネット等の取り扱いに慣れていない方への配慮から、牟岐町の場合には、現地会場での実施が最適。

・アクションプランの改定・細分化

2回目のワークショップにおいて、2グループに分かれて地域のなりたい姿を検討した結果、2グループの回答に共通点がみられた。その結果を元に、地域のなりたい姿に向けて4つの重点課題への解決策として具体的な取り組み案を取りまとめた。3回目のワークショップにおいて参加者全体で意見交換を行い、取り組み案に「住民共同・参画」の要素を加え、理想の状態として「町民一人ひとりが町の魅力を認識し、伝えていける状態」を目指す形で最終化することができた。

2. 観光ガイド育成

・観光素材の選定

現地調査を経て、ガイドマニュアルでは36の観光素材（観光スポット3箇所、年間行事3件、牟岐人ヒアリング5名、アクティビティ事業者6社、宿泊施設8軒、飲食店11軒）を全体的に取り扱うことができた。

観光スポットとしては、まずは遍路道や牟岐川など、今回取り扱わなかった地域もあるため、持続可能な観光の観点からも継続的にガイドマニュアルの情報追加・更新を行っていくことが理想である。

・観光素材の選定エリア

ガイドマニュアルで取り上げるエリアとして、また、今年度のガイド研修のフィールドとして、出羽島と牟岐町東地区の2地域を選び、実践的なガイド研修を実施できた。特に牟岐町東地区においては、これまで観光としての街歩きや旅行者の防災の観点から取り上げてこなかったエリアながら、その歴史やこれまでの防災の取り組みは地域の強みとなり得ることが現地視察から明確となった。

ガイド研修の実施に繋がったことで、牟岐町観光ボランティアガイドの会と防災サークルの連携による取り組みの第一歩に繋げる機会づくりとなった。町内において、今後さらに連携強化していくことが理想である。

・人材育成プログラムの実施

本年度のプログラムとしては、まずは町内のボランティアガイドに向けて新たな視点を取り入れることを目的に、インバウンド対応や受け入れの初歩的な座学を取り入れながら、実際に出羽島の案内を行ってもらった。日本語であっても地元ガイド本人が話すことの重要性や、地元ガイドの意義を考える気づきの機会に繋げることができた。

また、東地区の防災街歩きでは、ボランティアガイド会メンバーにとっても町内での新たな学びや発見があり、牟岐町の防災についてガイドが伝えていく必要性について考える重要な機会となった。

・人材育成プログラムの参加者数

牟岐町観光ボランティアガイドの会のメンバーを中心に、町内でガイドトレーニング中の方や町外（徳島県内の通訳案内士）の方など、属性の異なる方々の参加に繋げることができた。

今後も継続的に研修を実施していくことが理想であるが、その参加対象は町内のガイドのみならず、町内の観光事業者（アクティビティ事業者・宿泊施設・食事施設等）や町民にも広げ、誰でも参加できる観光人材育成の機会としていくことが必要である。

3. 事業全体の運営管理

・報告会の実施

参加対象者の状況を鑑み、すべて現地開催にて3回の報告会を実施した。参加者からは毎回、活発な意見があがり、ワークショップと連動させることで、同じ方向を目指し議論を重ねることができた。

3-3. 総括

本事業では、持続可能な観光地経営についての第一歩として、地域の現状、あり方、課題等に関する調査業務（以下、JSTS-D調査業務）を進めながら、将来に向けた課題解決の具体的なアクションの一つとして人材育成（ガイド研修）業務を並行して実施した。

JSTS-D調査業務においては、持続可能な観光地経営に関する定義や用語が難しいため、本事業の関係者や協力者に伝わりづらいことが懸念されていた。そのため、持続可能な観光地経営についてより分かりやすく伝えていくことを意識した説明の機会を設け、丁寧に事業を進めた。

限られた報告会やワークショップの回数であったものの、デスティネーションプロフィールやアセスメントレポート、アクションプランの作成を通して、今後の牟岐町の観光開発の方向性や可能性について関係者間で整理できたことは何よりの事業成果である。

持続可能な観光地経営の各フォーム（デスティネーションプロフィールやアセスメントレポート）は、今後も継続して使用できる形式としており、自治体担当者が変わるなどでも関係者の共通認識を保つ基礎資料・事業の根拠資料として自治体が主体的に活用していくことが期待される。

人材育成業務では、牟岐町観光ボランティアガイドの会の活動取り組みのヒアリングから現況を把握し、JSTS-D調査事業と並行しながら、牟岐町にとって必要かつ持続可能な人材育成プログラムについて検討した。

ターゲットとしては、本事業では持続可能な観光への意識が高いインバウンド旅行者を想定していたが、牟岐町はこれまで国内旅行者を含めて来訪者がそれほど多くない地域であるため、“観光”という言葉の定義や印象（バス観光中心か個人旅行か）を一度リセットし、共通の定義を再構築していく必要性が感じられた。特に、“インバウンド誘客＝オーバーツーリズムの発生”という印象を持ってしまうこともヒアリングや現地業務を通じて見えてきた。

本年度事業では、インバウンド受け入れの人材育成業務の第一歩として、日本の地方部まで足を伸ばすインバウンド旅行者が何に関心を持つのか、地元ガイドに何を求めるのかというテーマを取り上げて研修を実施した。地元ガイドが話す自分の思い出話や人柄の伝わるエピソードが何よりも重要であることから、地元ガイドの役割や存在意義について、改めて研修参加者の一人一人が考える機会に繋げることができた。

JSTS-D調査と人材育成の2つの業務を通じて、ガイドを中心とするコンテンツ造成や姫神祭等の年間行事を活用した商品造成など、次年度以降の具体的な取り組み案が掲げられた。

今後、できる取組みから牟岐町観光ボランティアガイドの会をはじめとする観光事業者がその推進役となり、さらに町民の参画を促し、地域住民が主体となって牟岐町の観光資源を観光資産として磨き上げながら、持続可能な観光地経営がより一層進んでいくことを期待する。



令和5年度 徳島県牟岐町における持続可能な観光地への現状・課題調査及び
観光ガイド育成事業

《事業報告書》

令和6年3月発行

四国運輸局

事業受託者：リベルタ株式会社 東京都新宿区戸山1丁目19番7号
